

Ⅱ 調査結果

1 男女平等に関する意識について

【問1】 男女の地位の平等感

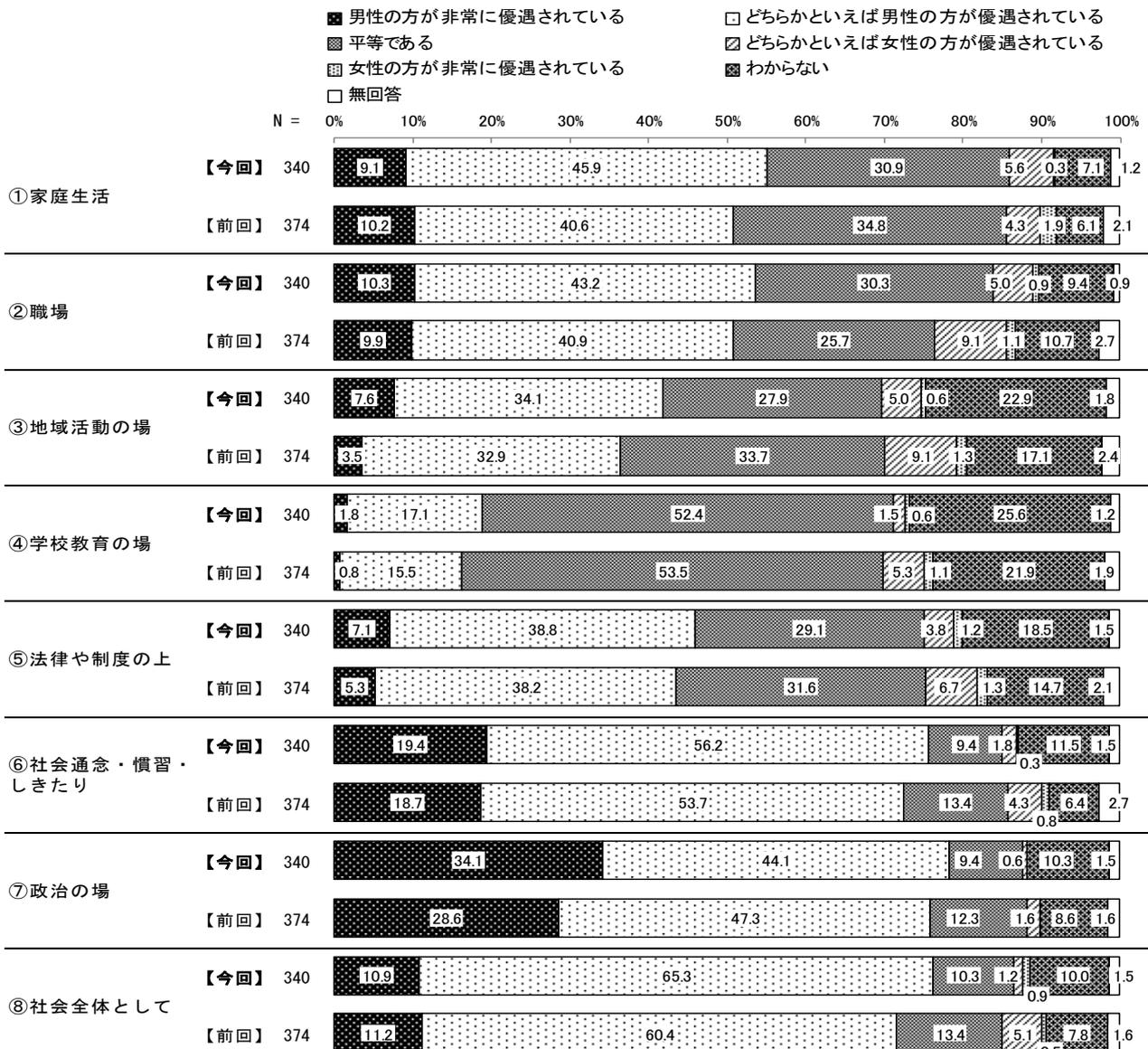
男性の優遇感が強い分野は「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」

男女の地位の平等感については、設問全体を通じて『男性優遇』が高くなっています。「⑥社会通念・慣習・しきたり」「⑦政治の場」「⑧社会全体として」の分野で70%以上、「①家庭生活」「②職場」の分野で50%程度となっています。また、「④学校教育の場」では「平等である」が52.4%と他の分野と比べ高くなっています。

※問1の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』・・・「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
『女性優遇』・・・「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

問1 次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれあてはまるものを選んでください。(①~⑧それぞれ〇は1つずつ)



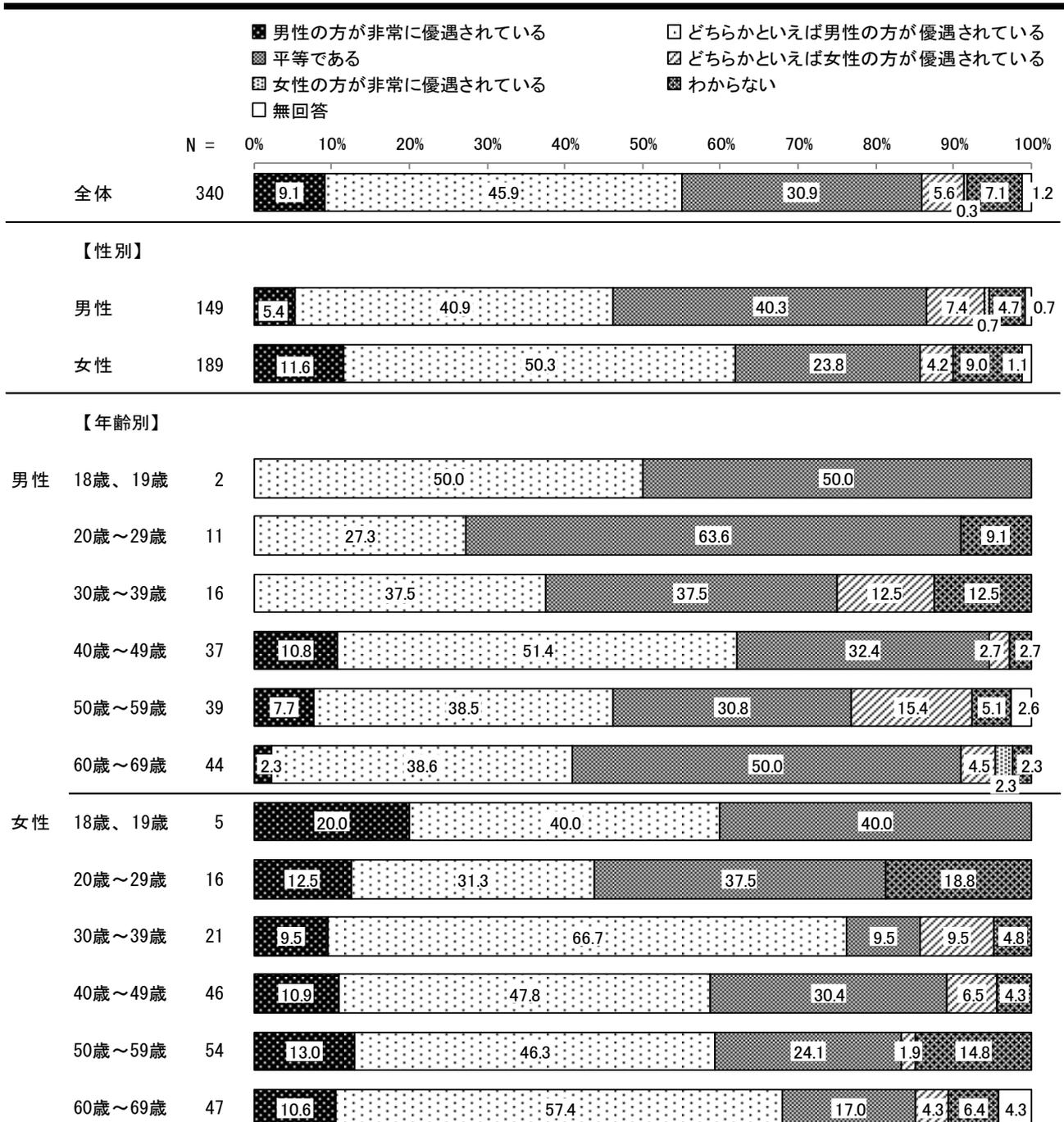
①家庭生活

『男性優遇』 55.0% > 『平等』 30.9% > 『女性優遇』 5.9%

家庭生活における平等感については、全体で見ると『男性優遇』が55.0%、「平等である」が30.9%、『女性優遇』が5.9%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、49.1ポイントの差があります。

性別で見ると、『男性優遇』が男性では46.3%であるのに対して、女性では61.9%と男性より15.6ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、20代では男女とも他の年代と比較して「平等である」が高くなっています。また、女性では、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方、男性では、20代と60代が『男性優遇』よりも「平等である」が高くなっています。



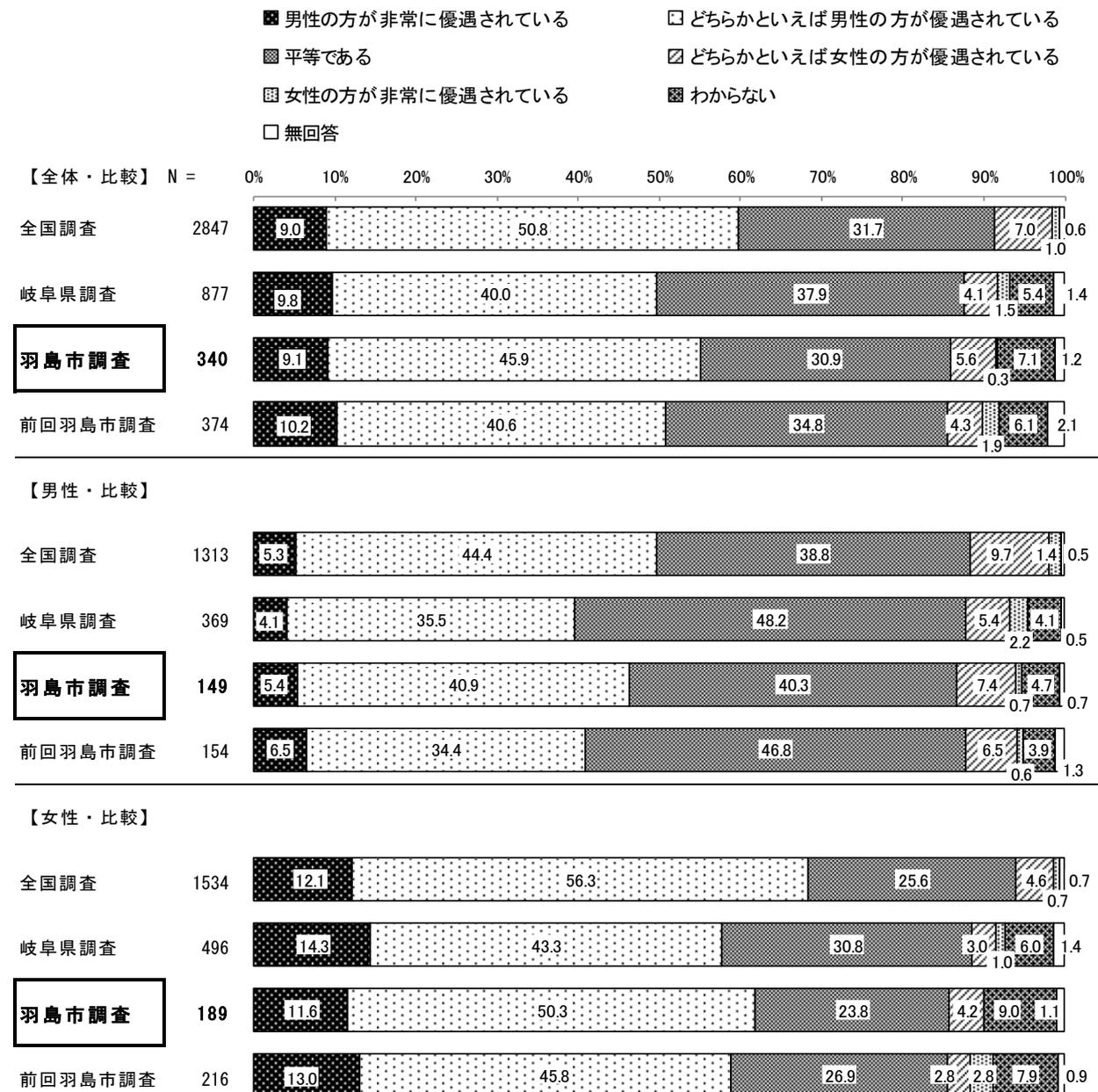
参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（家庭生活における平等感）

<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では59.8%、県調査では49.8%、市調査では55.0%となっています。

<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より4.2ポイント増加しています。



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

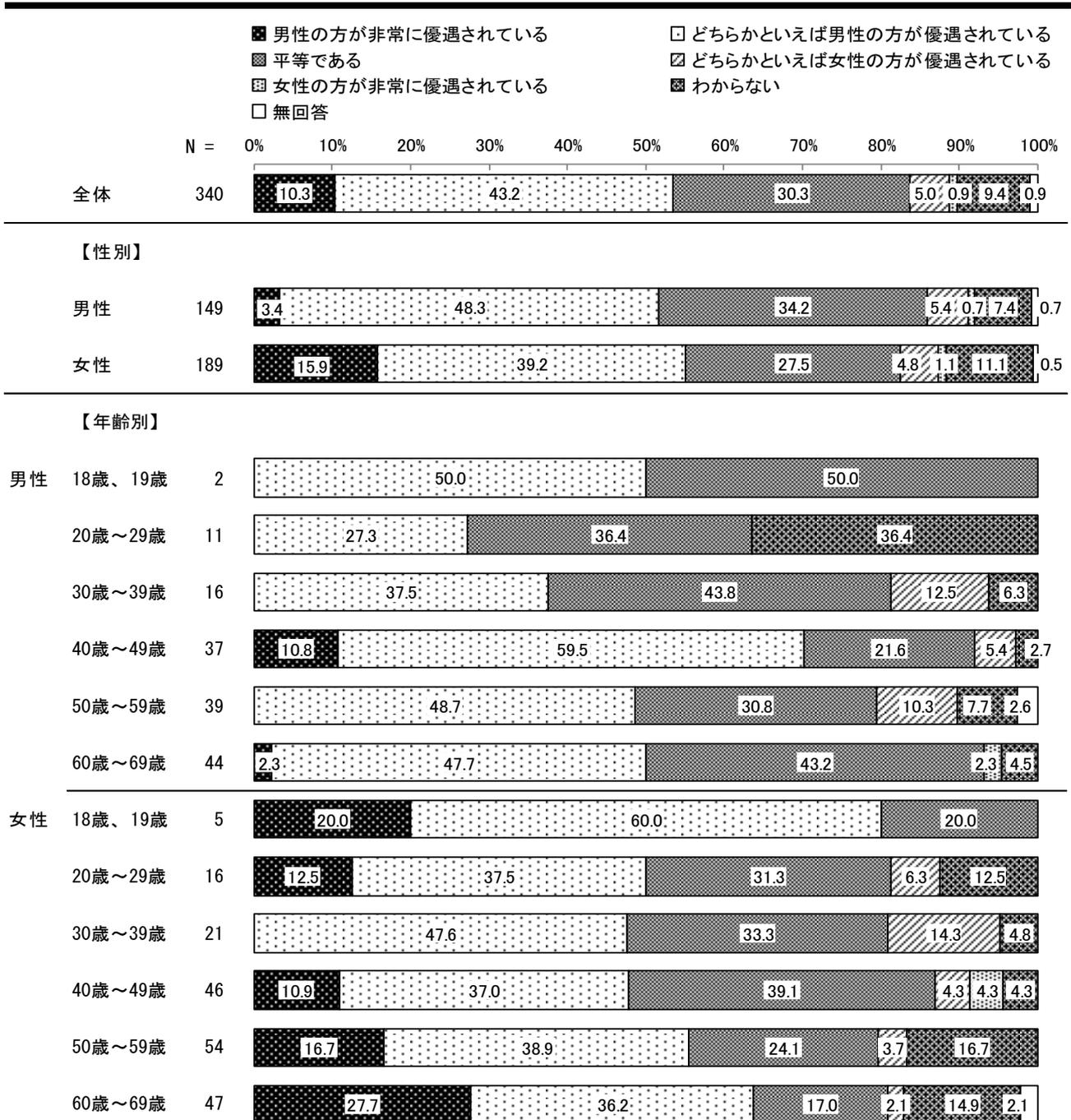
②職場

『男性優遇』 53.5% > 『平等』 30.3% > 『女性優遇』 5.9%

職場における平等感については、全体で見ると『男性優遇』が53.5%、「平等である」が30.3%、『女性優遇』が5.9%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、47.6ポイントの差があります。

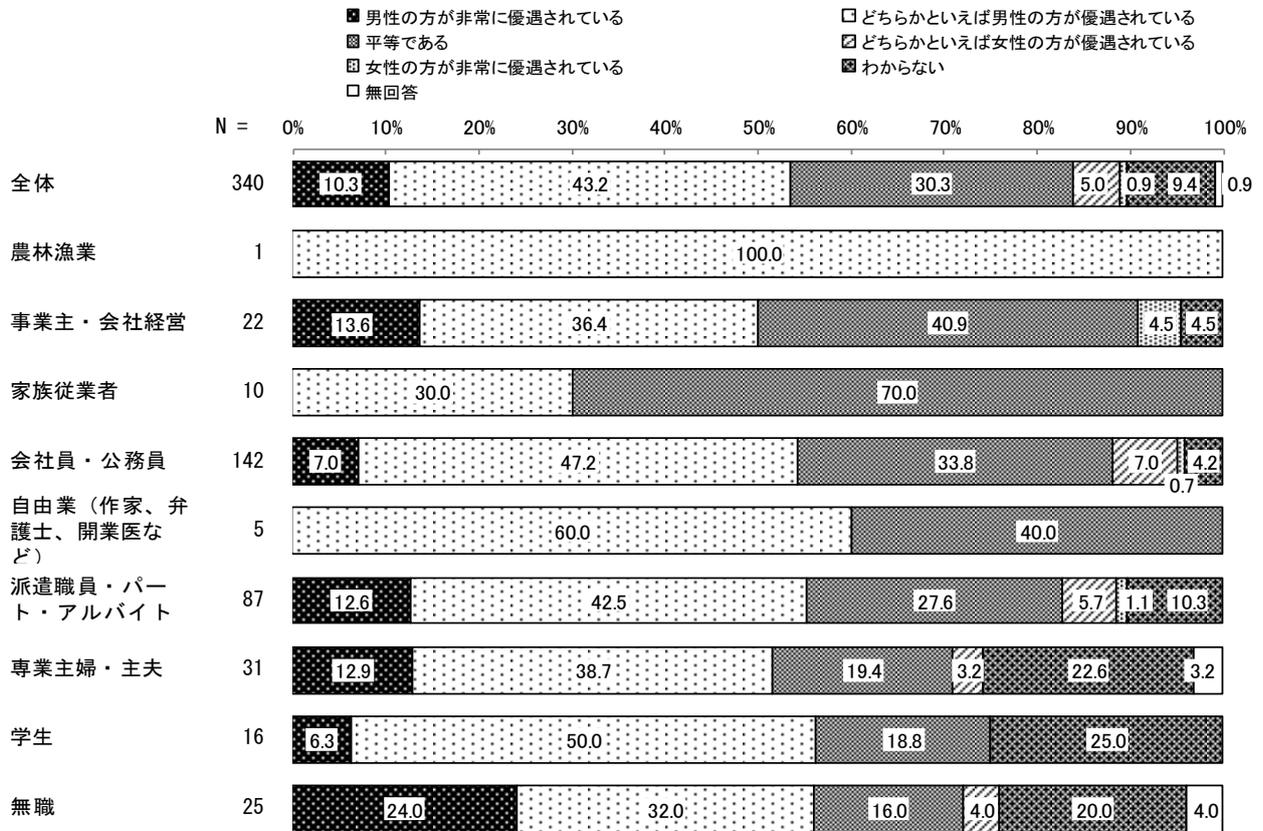
性別で見ると、『男性優遇』が男性では51.7%であるのに対して、女性では55.1%と男性より3.4ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、女性では、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方、男性では、20代と30代が『男性優遇』よりも「平等である」が高くなっています。



【職業別】

職業別で見ると、ほぼ全ての職業で『男性優遇』が50%以上となっています。



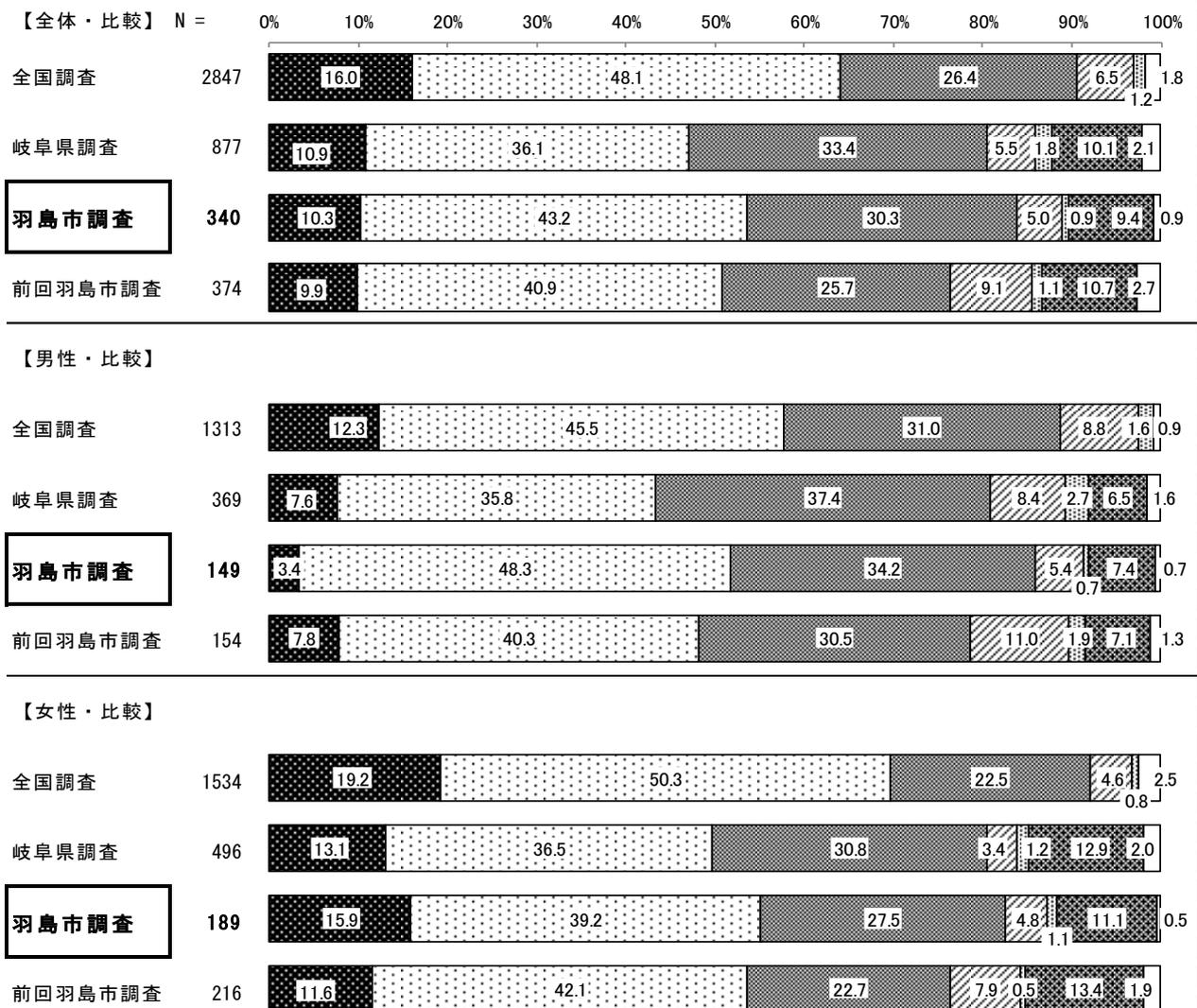
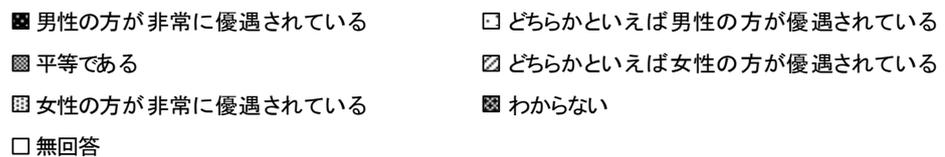
参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（職場における平等感）

<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では64.1%、県調査では47.0%、市調査では53.5%となっています。

<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より2.7ポイント増加しています。



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

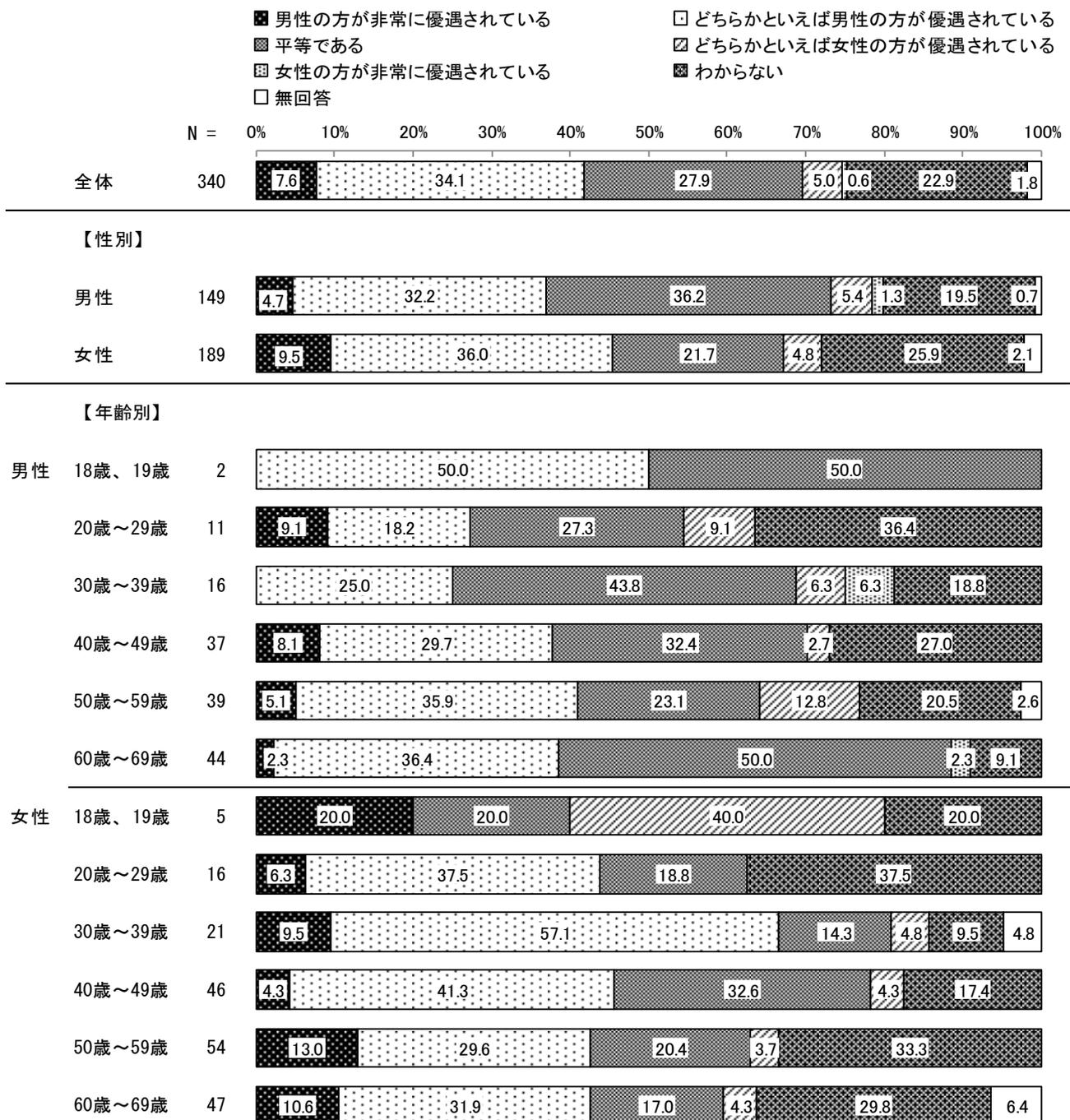
③地域活動の場

『男性優遇』 41.7% > 『平等』 27.9% > 『女性優遇』 5.6%

地域活動の場における平等感については、全体で見ると『男性優遇』が41.7%、「平等である」が27.9%、『女性優遇』が5.6%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、36.1ポイントの差があります。

性別で見ると、『男性優遇』が男性では36.9%であるのに対して、女性では45.5%と男性より8.6ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、女性では、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方、男性では、30代と60代が『男性優遇』よりも「平等である」が高くなっています。



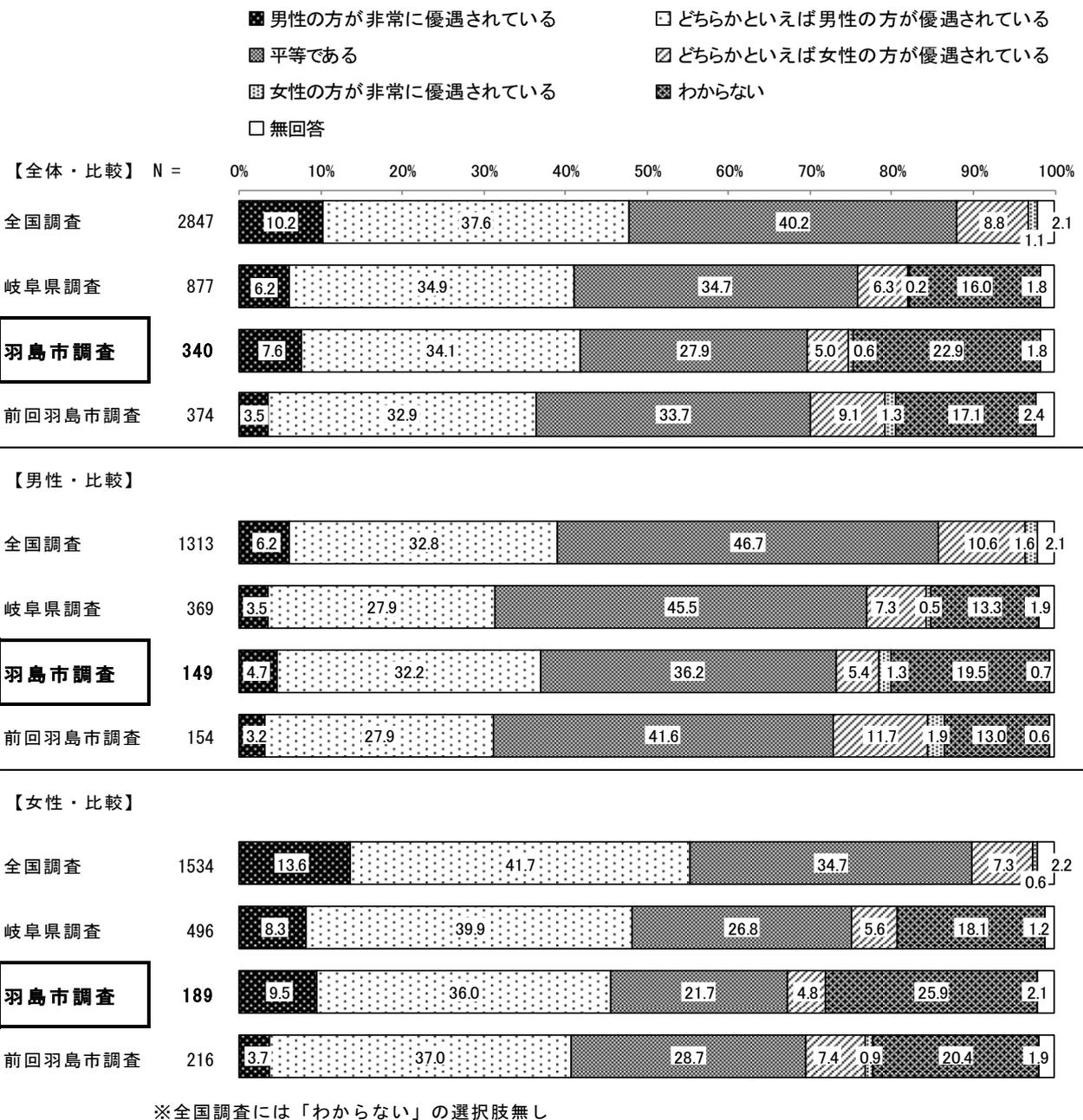
参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（地域活動の場における平等感）

<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では47.8%、県調査では41.1%、市調査では41.7%となっています。

<前回調査（市）との比較>

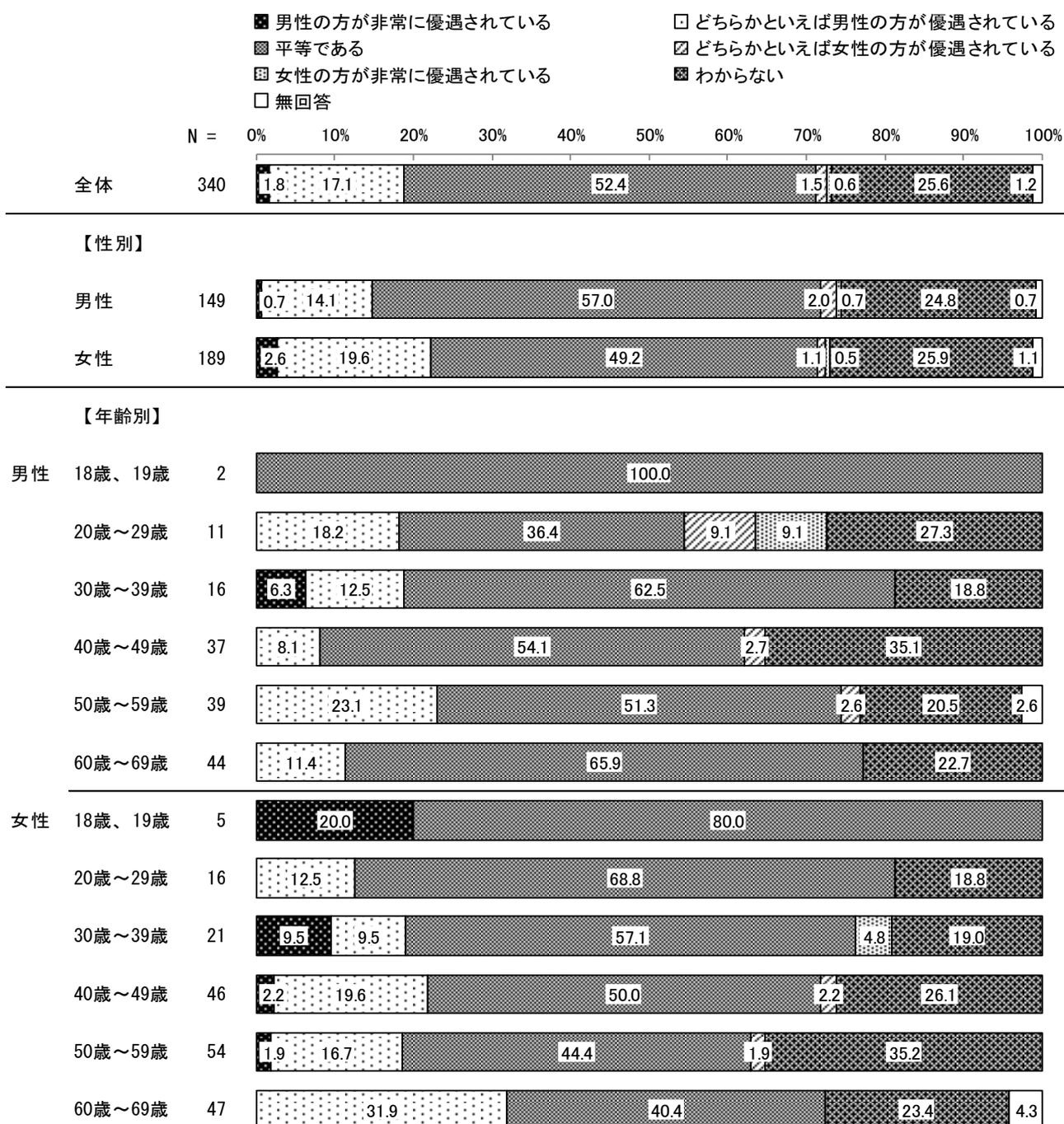
全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より5.3ポイント増加しています。



④学校教育の場

『平等』 52.4% > 『男性優遇』 18.9% > 『女性優遇』 2.1%

学校教育の場における平等感については、全体、性別ともに「平等である」が最も高く、全体では52.4%、男性では57.0%、女性では49.2%となっています。
年齢別でみると、いずれの年代も男女ともに「平等である」が最も高くなっています。



参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（学校教育の場における平等感）

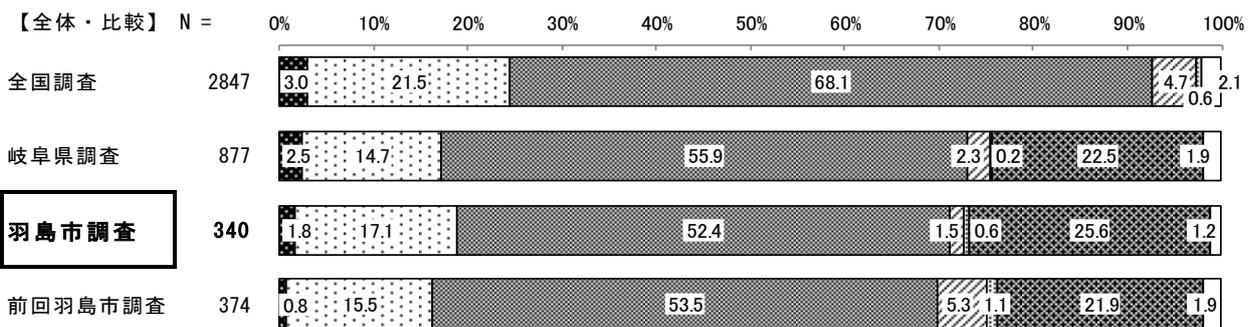
<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に「平等である」が高くなっています。全国調査では68.1%、県調査では55.9%、市調査では52.4%となっています。

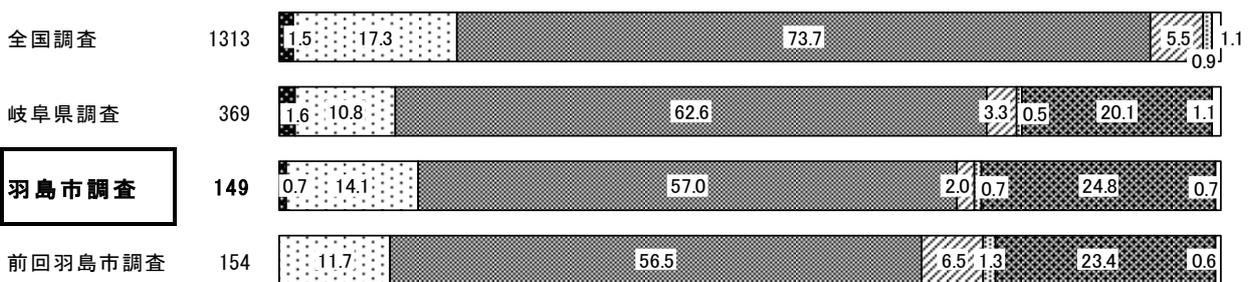
<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、「平等である」が前回調査より1.1ポイント減少しています。

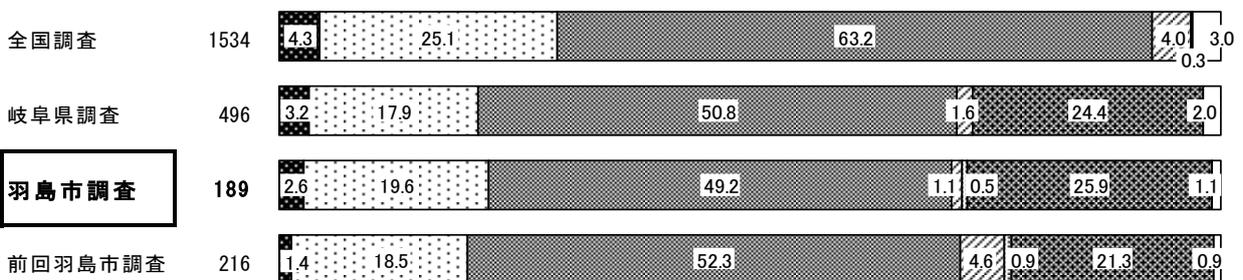
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【男性・比較】



【女性・比較】



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

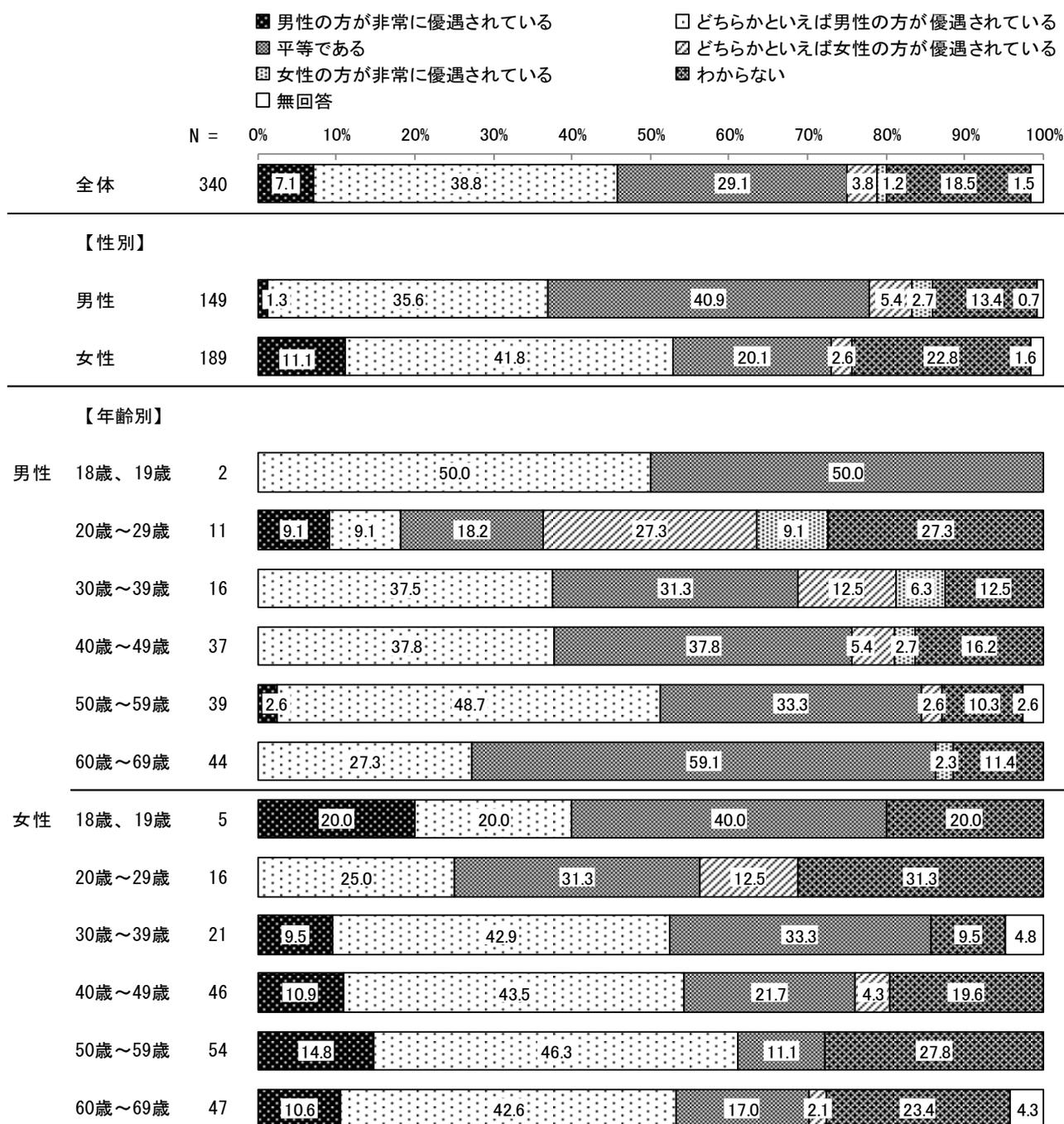
⑤ 法律や制度の上

『男性優遇』 45.9% > 『平等』 29.1% > 『女性優遇』 5.0%

法律や制度の上における平等感については、全体で見ると『男性優遇』が45.9%、「平等である」が29.1%、『女性優遇』が5.0%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、40.9ポイントの差があります。

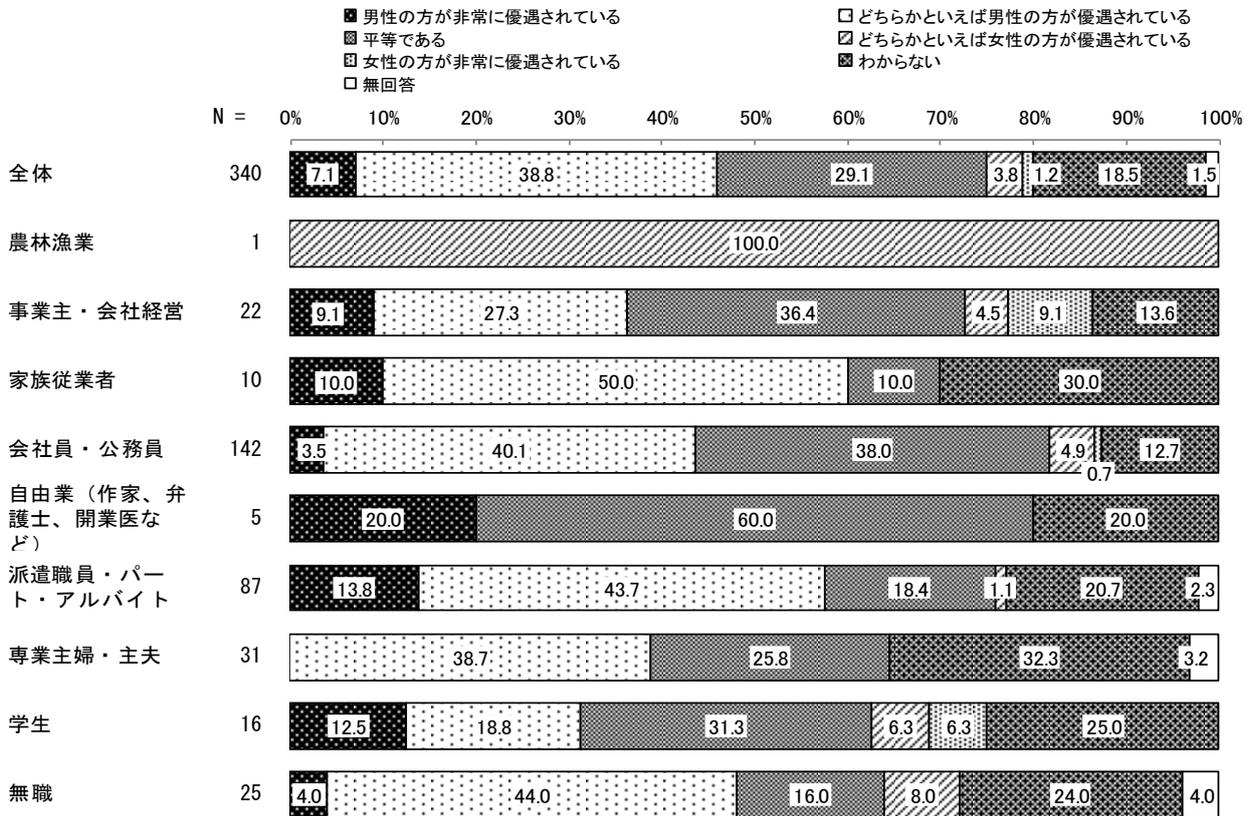
性別で見ると、『男性優遇』が男性では36.9%であるのに対して、女性では52.9%と男性より16.0ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、女性では、30代以上は『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方、男性では、30代から50代で『男性優遇』が最も高くなっています。



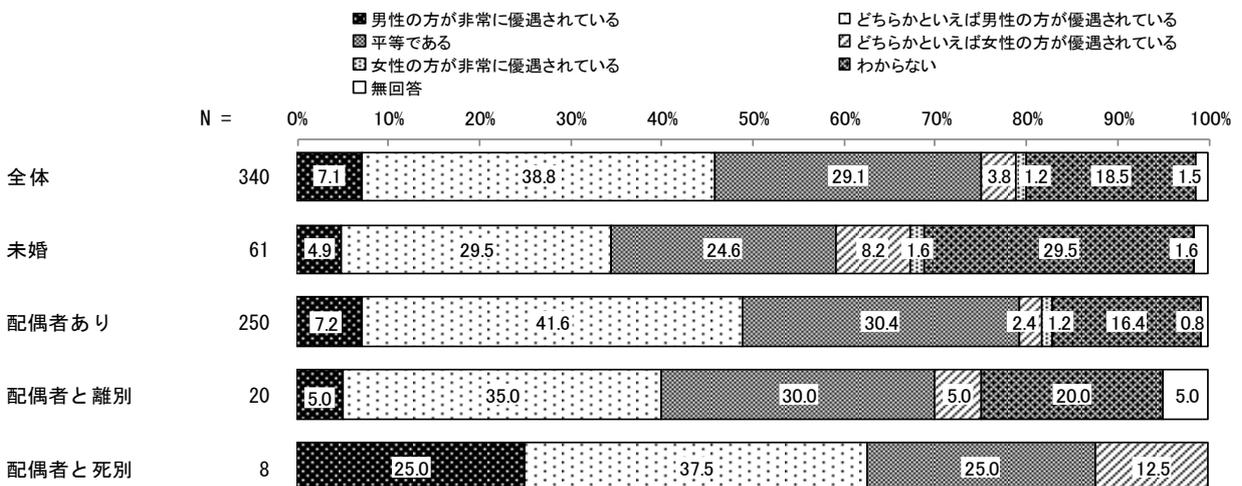
【職業別】

職業別でみると、『男性優遇』が「派遣職員・パート・アルバイト」で57.0%と最も高くなっています。また、「会社員・公務員」では43.9%となっています。



【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、いずれの場合も『男性優遇』が最も高くなっています。



参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（法律や制度の上における平等感）

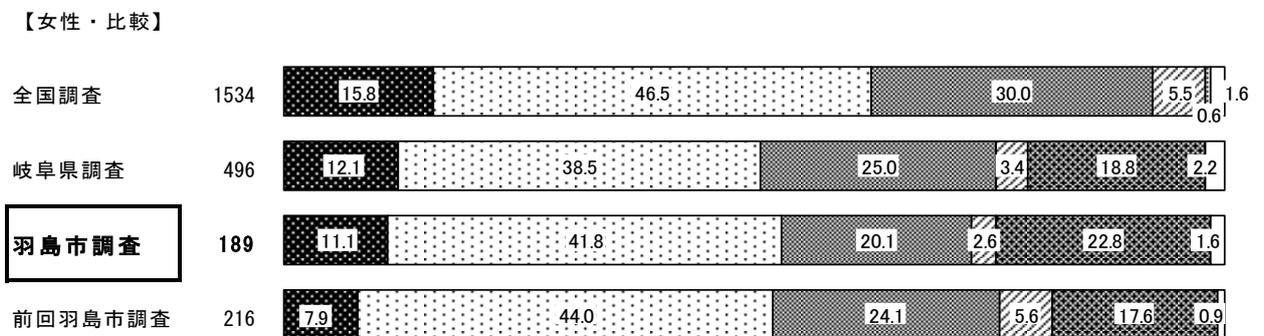
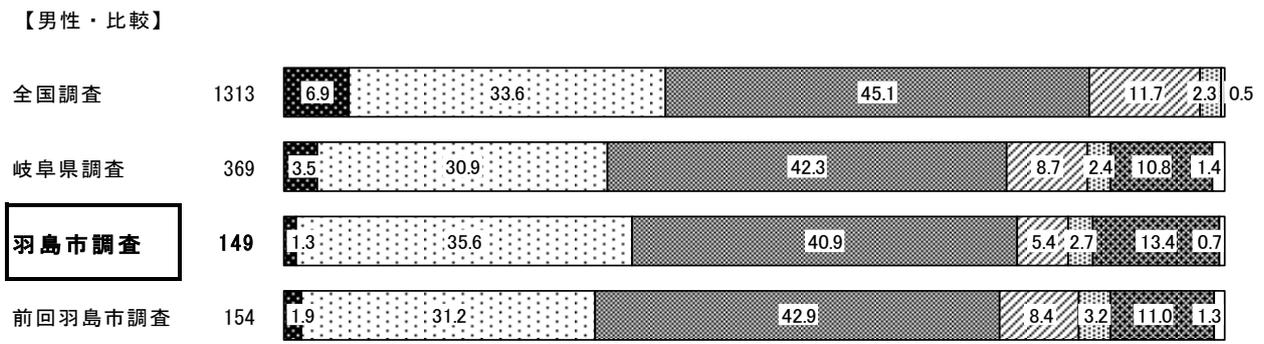
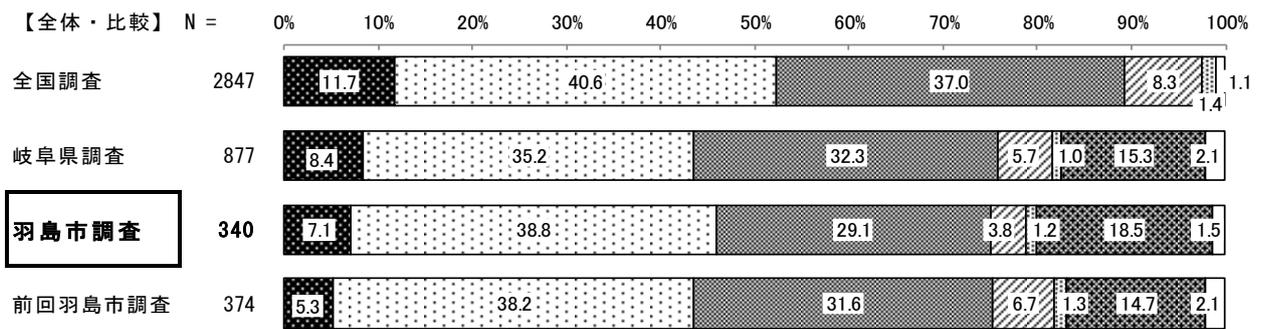
＜全国調査・県調査との比較＞

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では52.3%、県調査では43.6%、市調査では45.9%となっています。

＜前回調査（市）との比較＞

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より2.4ポイント増加しています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

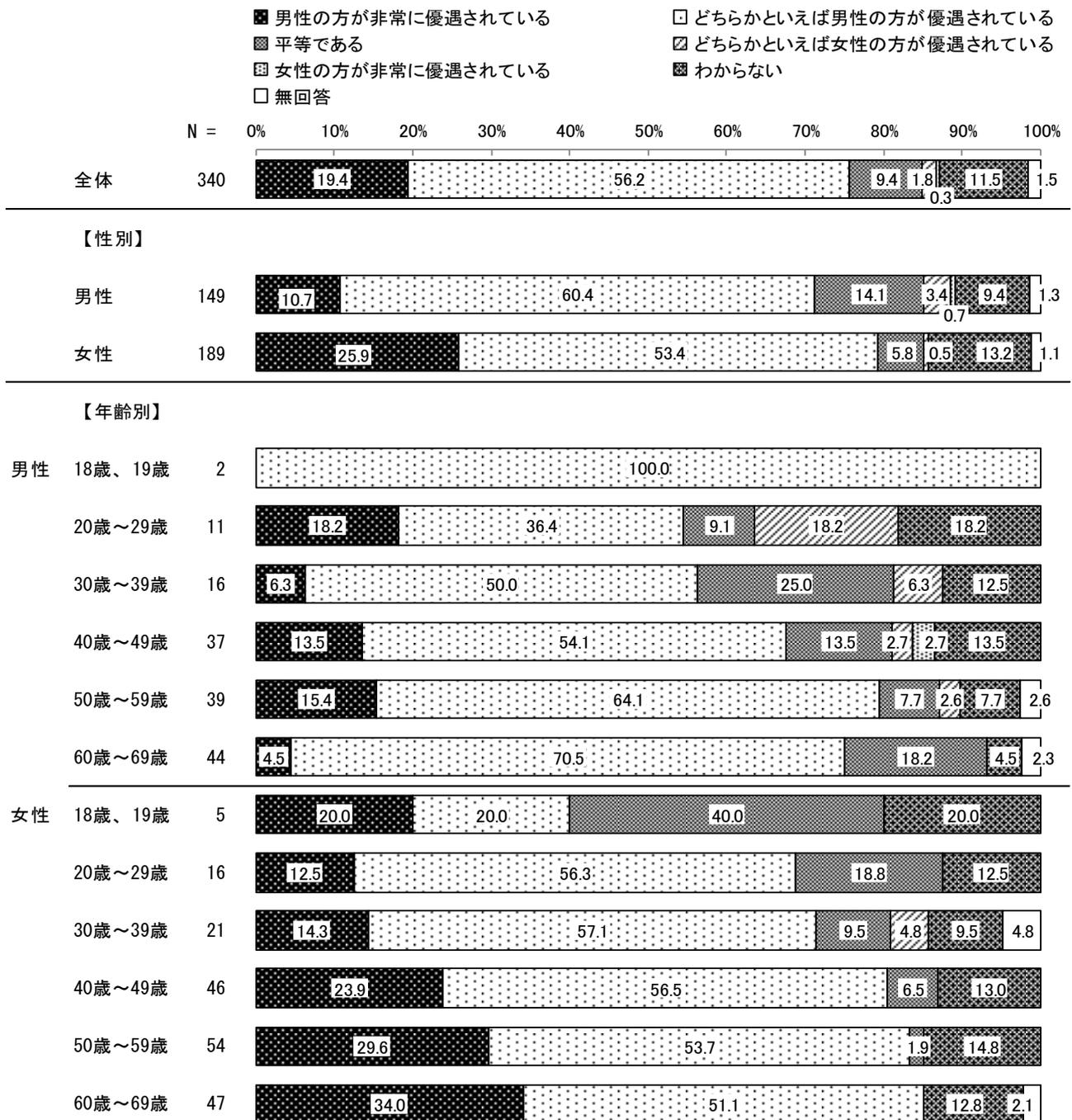
⑥ 社会通念・慣習・しきたり

『男性優遇』 75.6% > 『平等』 9.4% > 『女性優遇』 2.1%

社会通念・慣習・しきたりにおける平等感については、全体でみると『男性優遇』が75.6%、「平等である」が9.4%、『女性優遇』が2.1%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、73.5ポイントの差があります。

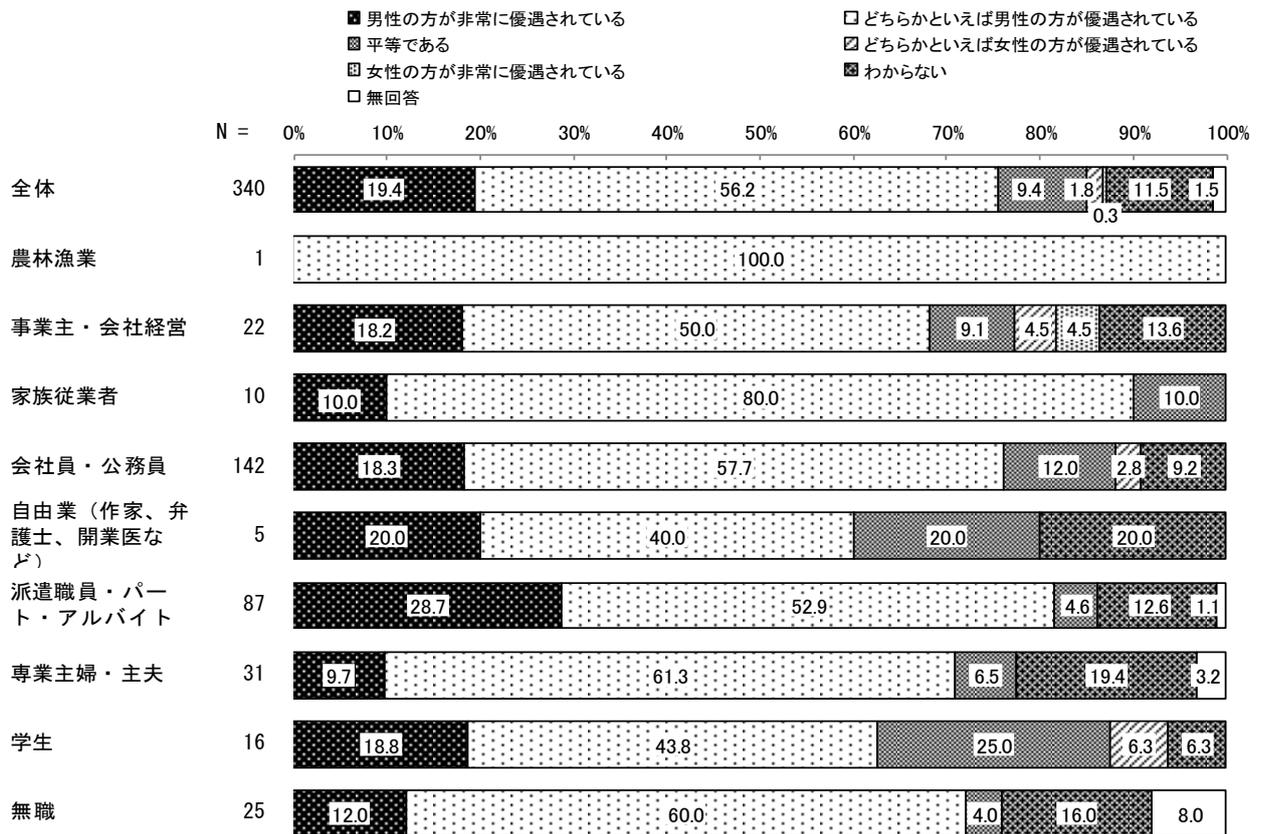
性別でみると、『男性優遇』が男性では71.1%であるのに対して、女性では79.3%と男性より8.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、男女ともに、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっています。



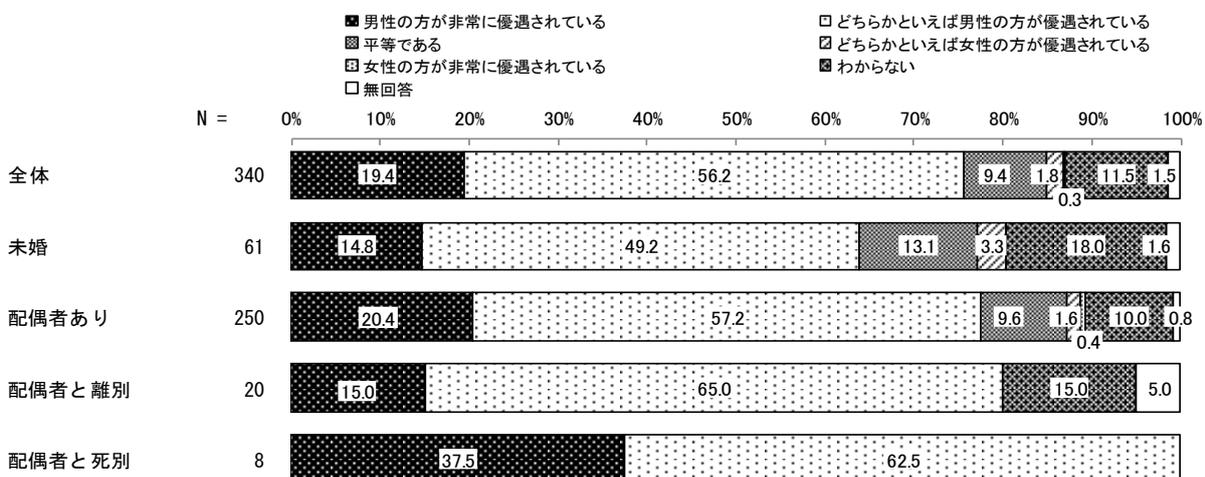
【職業別】

職業別でみると、いずれの職業も『男性優遇』が最も高くなっています。



【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、いずれの場合も『男性優遇』が最も高くなっています。



参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（社会通念・慣習・しきたりにおける平等感）

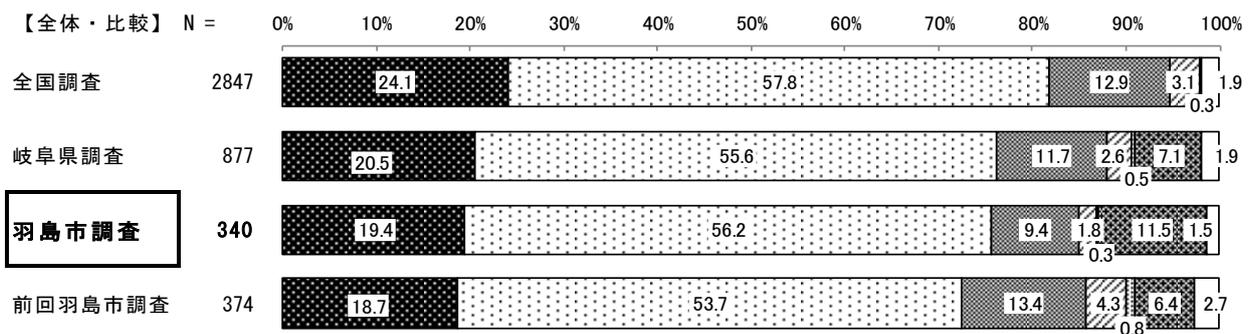
＜全国調査・県調査との比較＞

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では81.9%、県調査では76.1%、市調査では75.6%となっています。

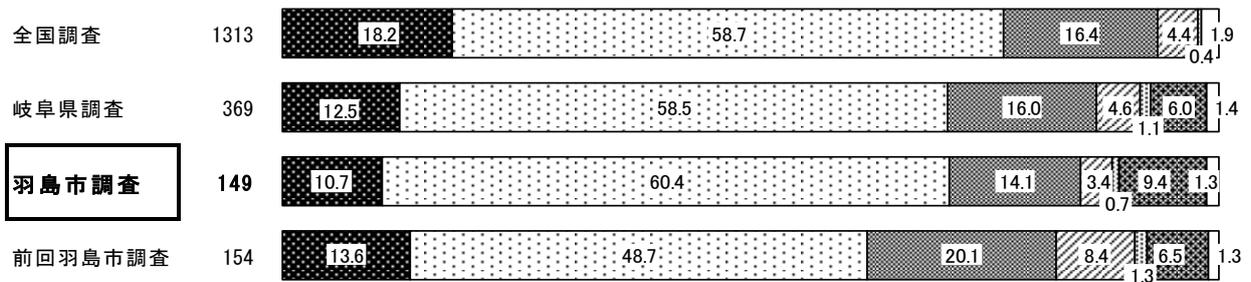
＜前回調査（市）との比較＞

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より3.2ポイント増加しています。

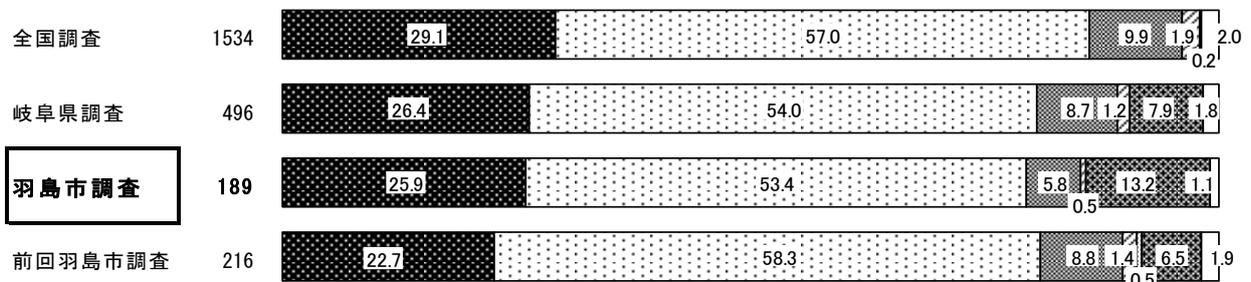
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【男性・比較】



【女性・比較】



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

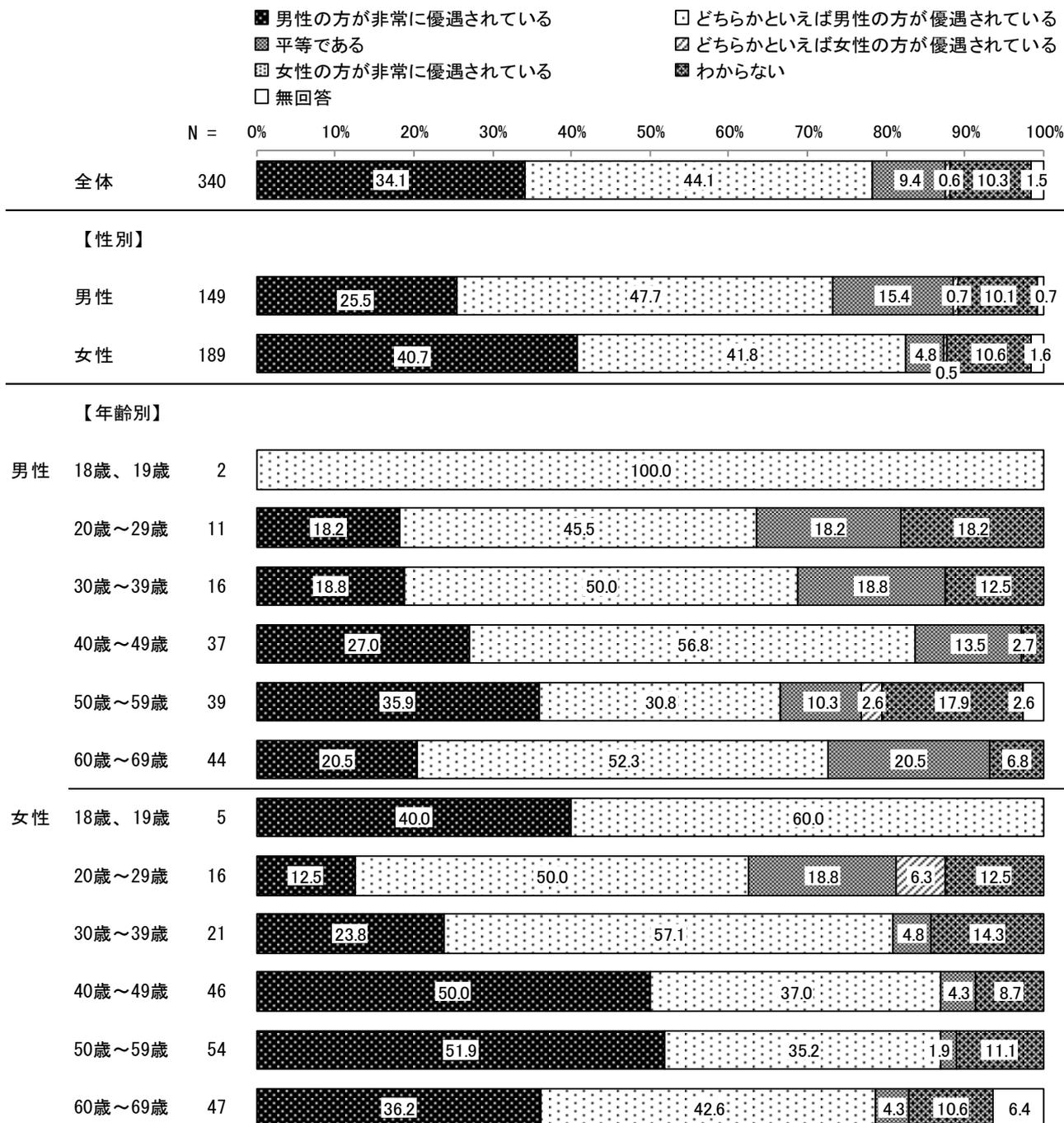
⑦政治の場

『男性優遇』 78.2% > 『平等』 9.4% > 『女性優遇』 0.6%

政治の場における平等感については、全体でみると『男性優遇』が78.2%、「平等である」が9.4%、『女性優遇』が0.6%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、77.6ポイントの差があります。

性別でみると、『男性優遇』が男性では73.2%であるのに対して、女性では82.5%と男性より9.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、男女ともに、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっています。



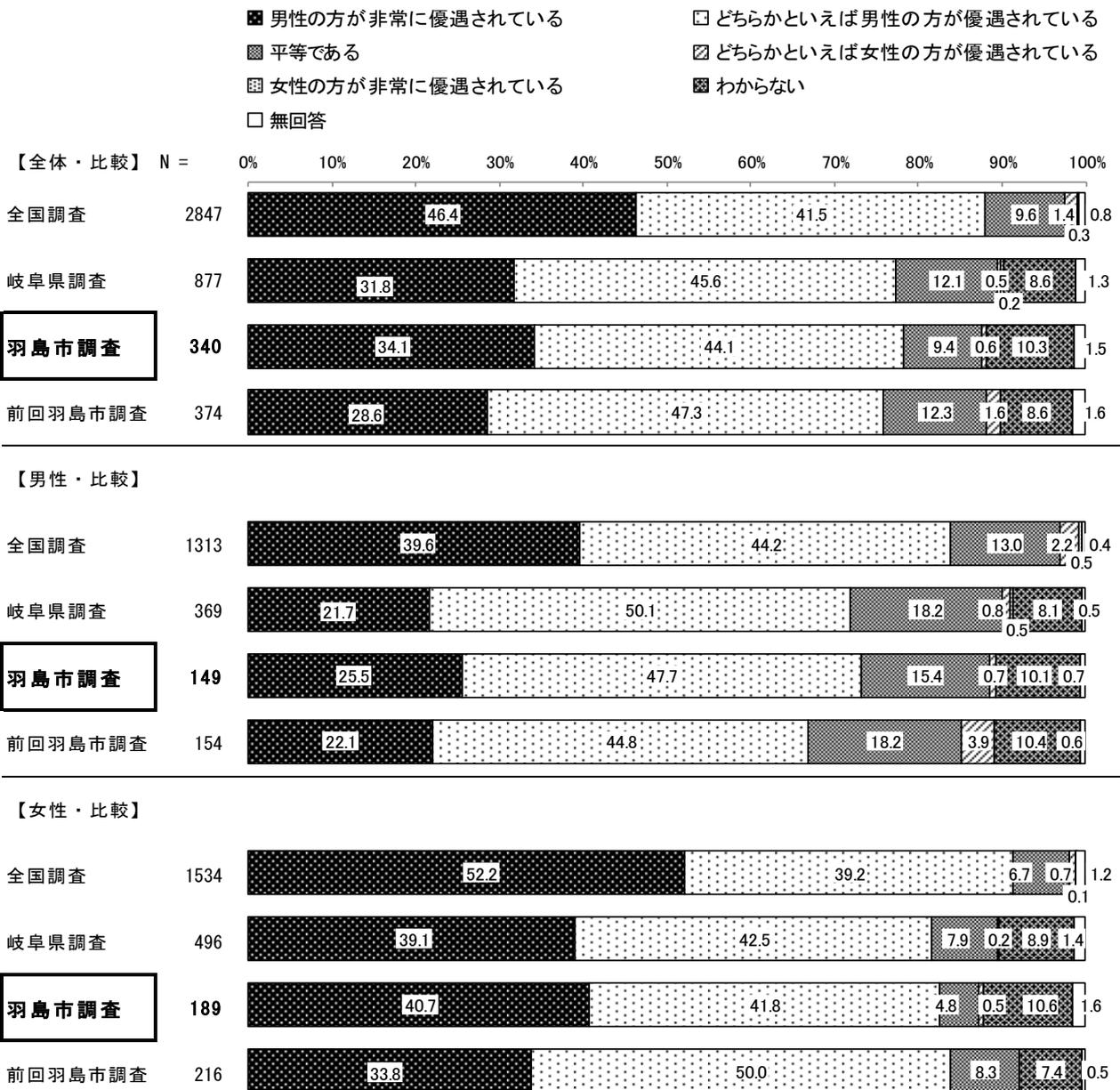
参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（政治の場における平等感）

＜全国調査・県調査との比較＞

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では87.9%、県調査では77.4%、市調査では78.2%となっています。

＜前回調査（市）との比較＞

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より2.3ポイント増加しています。



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

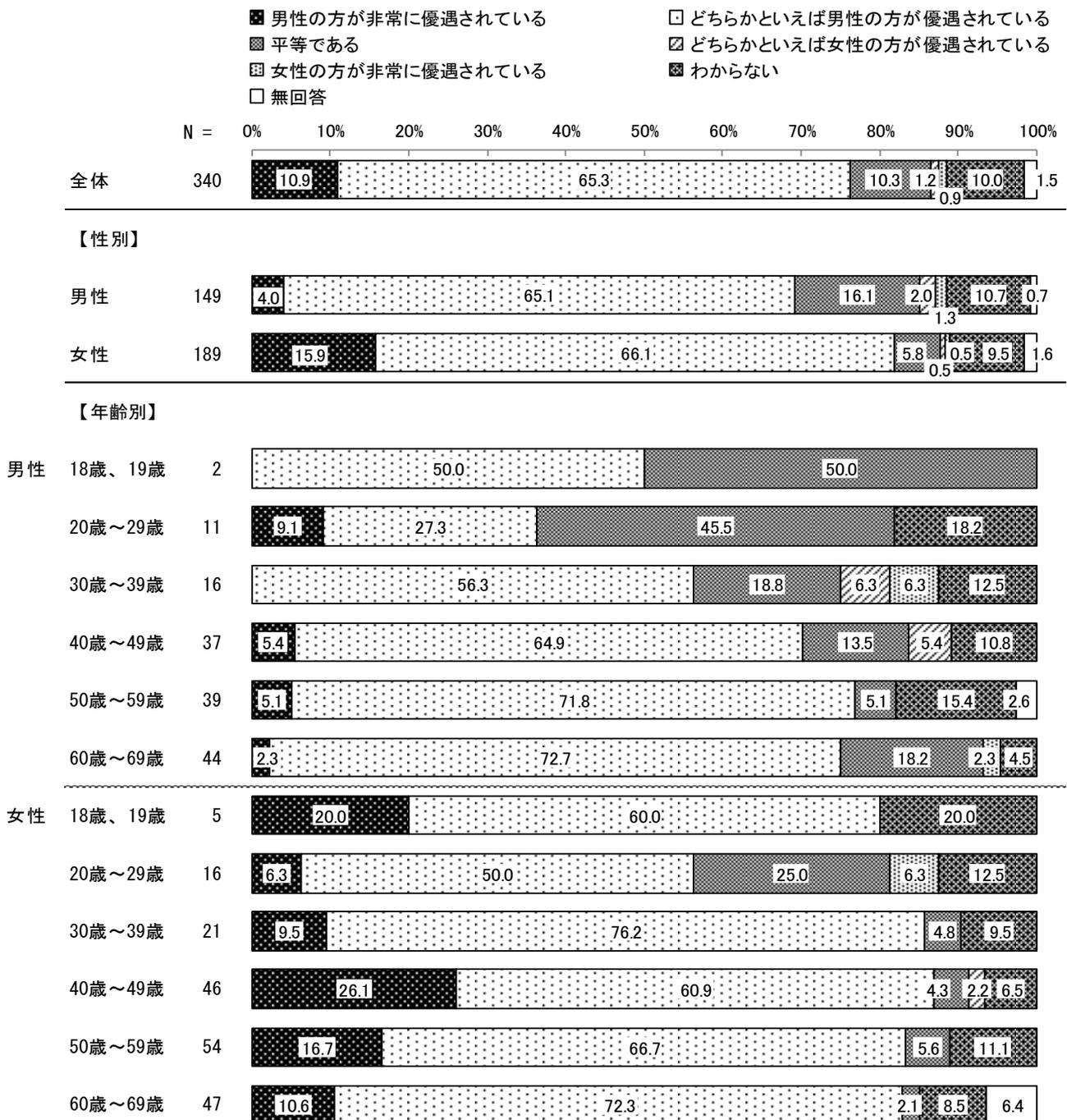
⑧社会全体として

『男性優遇』 76.2% > 『平等』 10.3% > 『女性優遇』 2.1%

社会全体における平等感については、全体で見ると『男性優遇』が76.2%、「平等である」が10.3%、『女性優遇』が2.1%となっており、『男性優遇』と『女性優遇』を比較すると、74.1ポイントの差があります。

性別で見ると、『男性優遇』が男性では69.1%であるのに対して、女性では82.0%と男性より12.9ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、女性では、いずれの年代も『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方、男性では、20代が『男性優遇』よりも「平等である」が高くなっています。



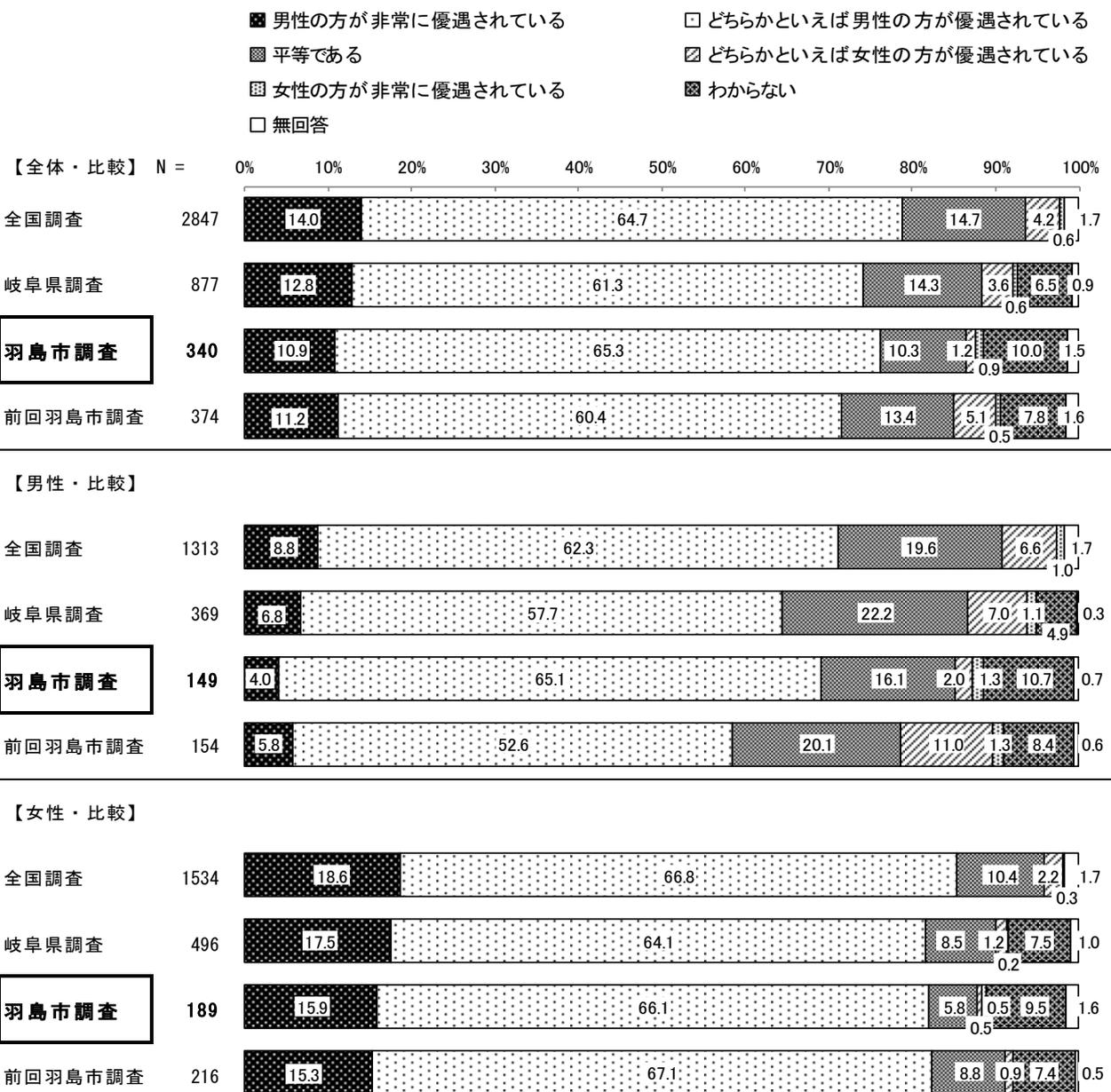
参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（社会全体における平等感）

<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に『男性優遇』が最も高くなっています。全国調査では78.7%、県調査では74.1%、市調査では76.2%となっています。

<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、『男性優遇』が前回調査より4.6ポイント増加しています。



※全国調査には「わからない」の選択肢無し

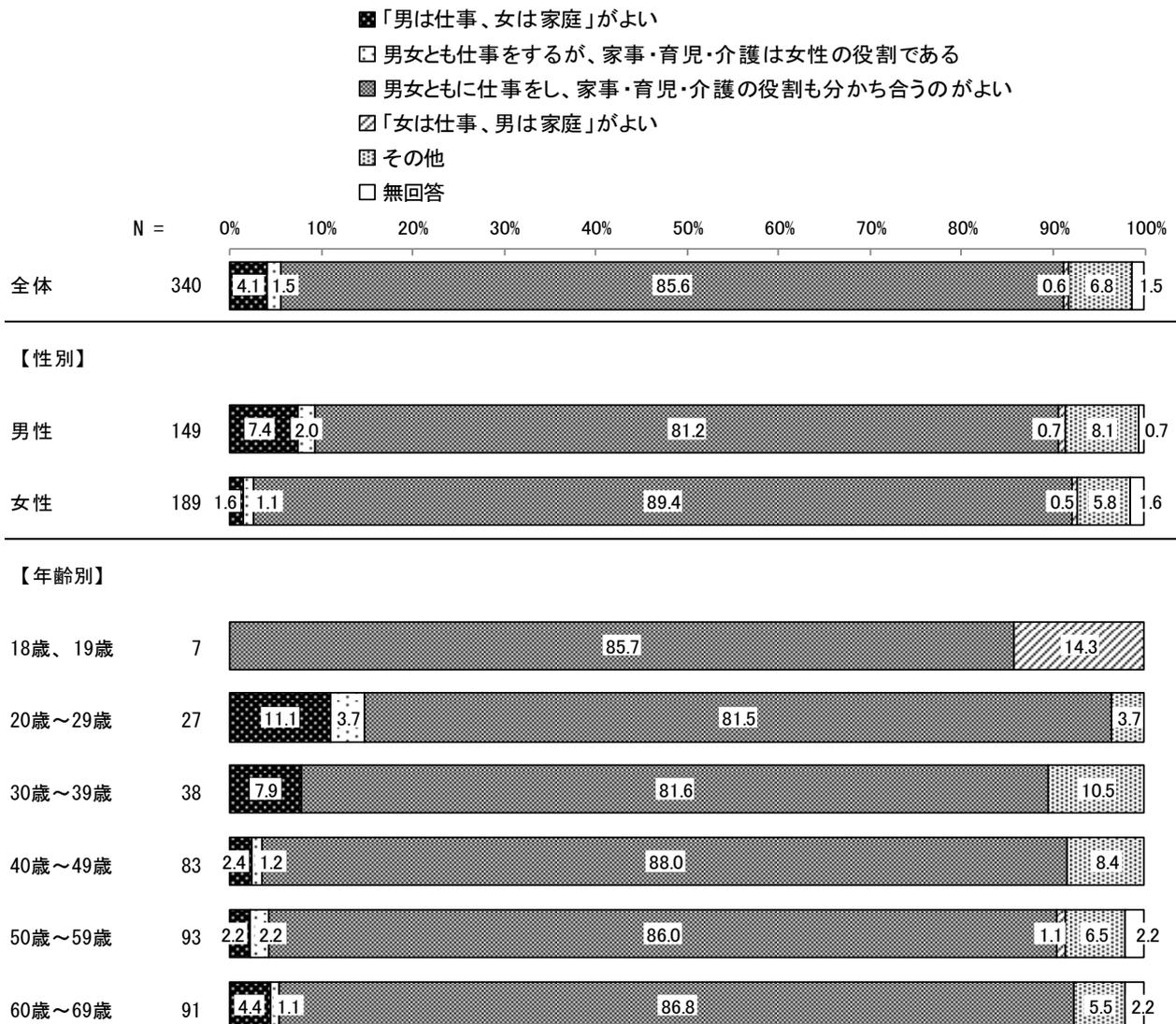
【問2】性別による男女の役割

「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が最も高い

性別による男女の役割については、全体、性別ともに「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が最も高く、男性では81.2%、女性では89.4%となっています。

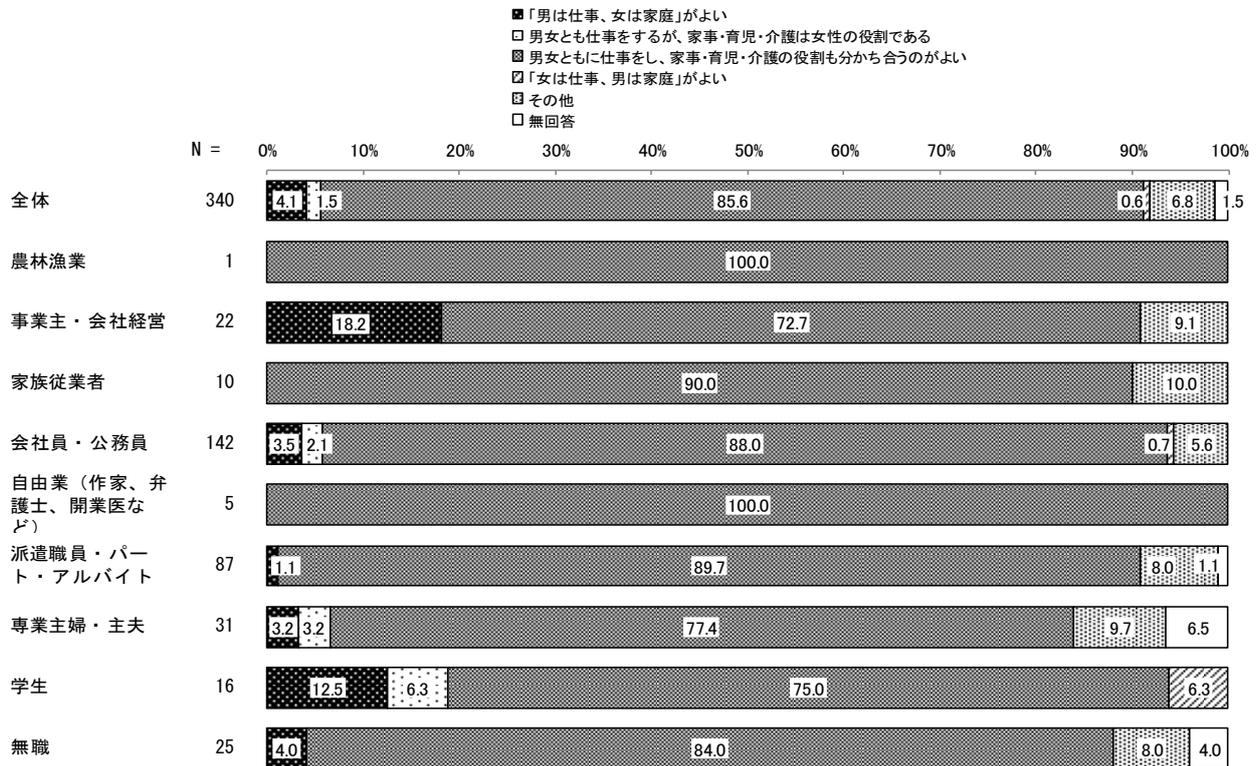
年齢別で見ると、いずれの年代においても「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が80%以上となっています。

問2 「男は仕事、女は家庭」に代表されるように、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。(〇は1つ)



【職業別】

職業別で見ると、いずれの職業も「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が最も高くなっています。



その他の意見

それぞれの家庭状況により、お互いに話し合って役割を決めるのが良い。

「性別」を前提の理由にするのはおかしいと思う。

何とも思わない。

男は女はでなく、個々の能力に合う方を担えばよい。

役割分担はその時によって変化できる柔軟な考え方が必要。時によってどちらかが仕事を辞めて家庭を回す役割をもたなければならない時もあると思う。“どちらがよい”という考え方は嫌い。

何をすることも男とか女とか関係なく協力し合うことが大切だと思う。

役割は性別ではなくその本人の能力や適正によって決まると考えているので、上記のいずれにも当てはまらない。

男女とも家事を両立できる範囲の労働時間がよい。

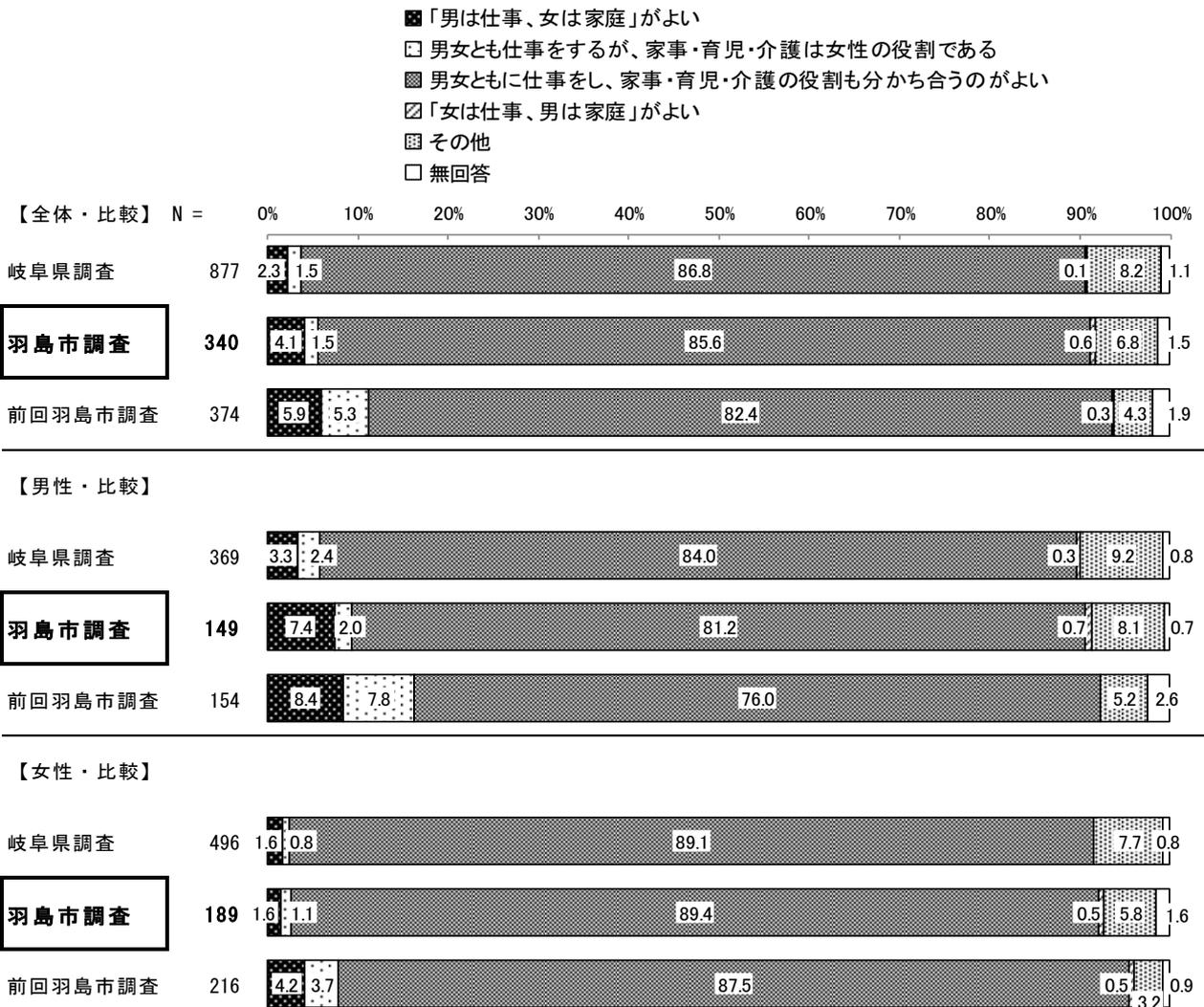
参考：県調査、前回調査との比較（性別による男女の役割について）

<県調査との比較>

全体で見ると、市調査と同様に「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が最も高くなっています。県調査では86.8%、市調査では85.6%となっています。

<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が前回調査より3.2ポイント増加しています。



【問3】 男女平等のために必要なこと

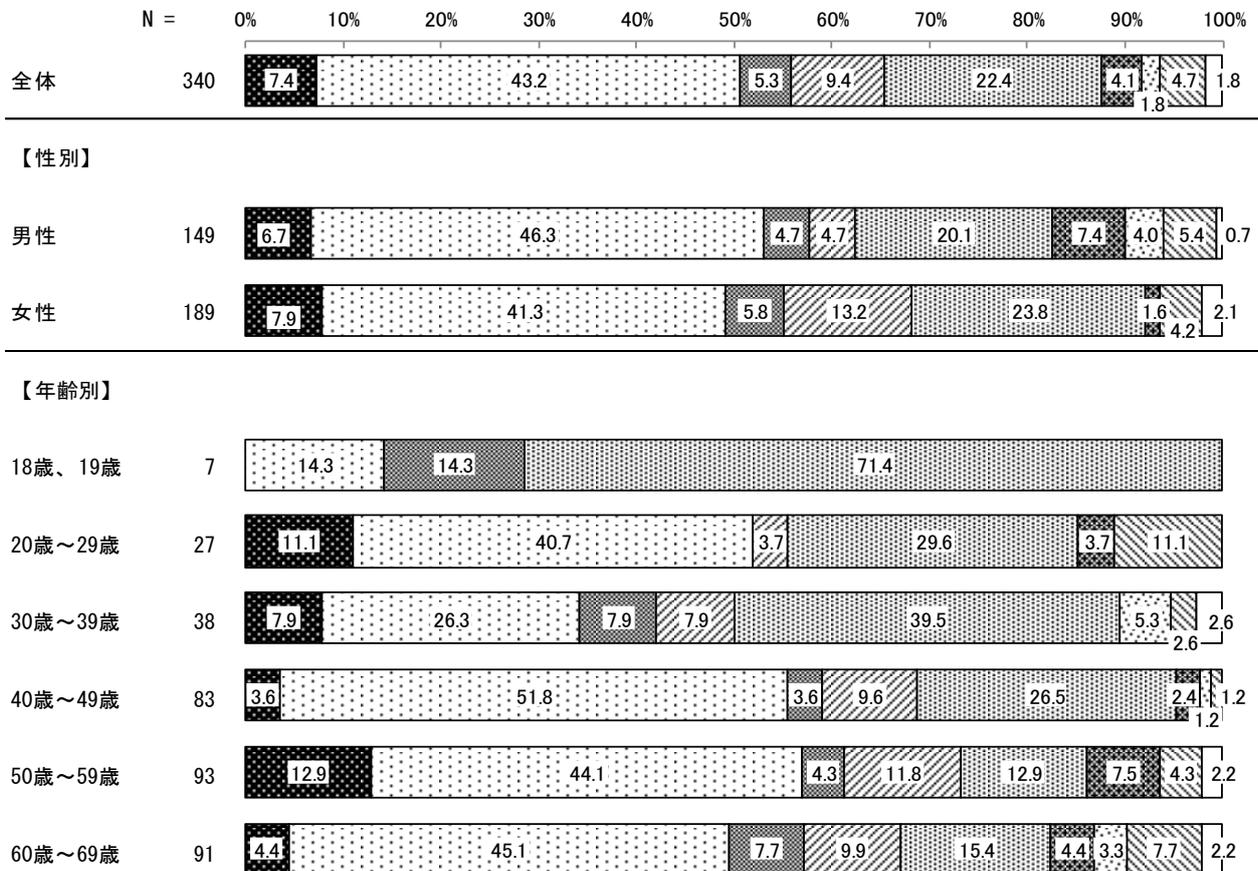
「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」が最も高い

男女平等のために必要なことについては、全体、性別ともに「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」が最も高く、全体で43.2%となっています。次に、「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」が高くなっています。

年齢別でみると、30代では「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」が最も高くなっていますが、その他の年代では「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」が最も高くなっています。

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は1つ)

- 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
- 男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること
- ▨ 女性が経済力をつけたり、知識・技術を習得できる環境を整備すること
- ▩ 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- ▧ 労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること
- ▦ 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- その他
- わからない
- 無回答



その他の意見

社会に平等など存在しない現在、男女のみ論点にしても意味をなさない。

女性を特別扱いするのではなく、不平等の制度を改めることが必要。

物価を上げて賃金を上げること。就業人数は減る一方、DXだけではなく、労働を維持するという目標が必要。

他を思いやる心を育てる。

選択肢にあるような様々な観点から、手だてを講じていくこと。

平等と公平は違う。公平であることが必要な事象と平等であることが必要な事象をまず考えないと、感情のままに制度を作ったところで意味はないと考える。

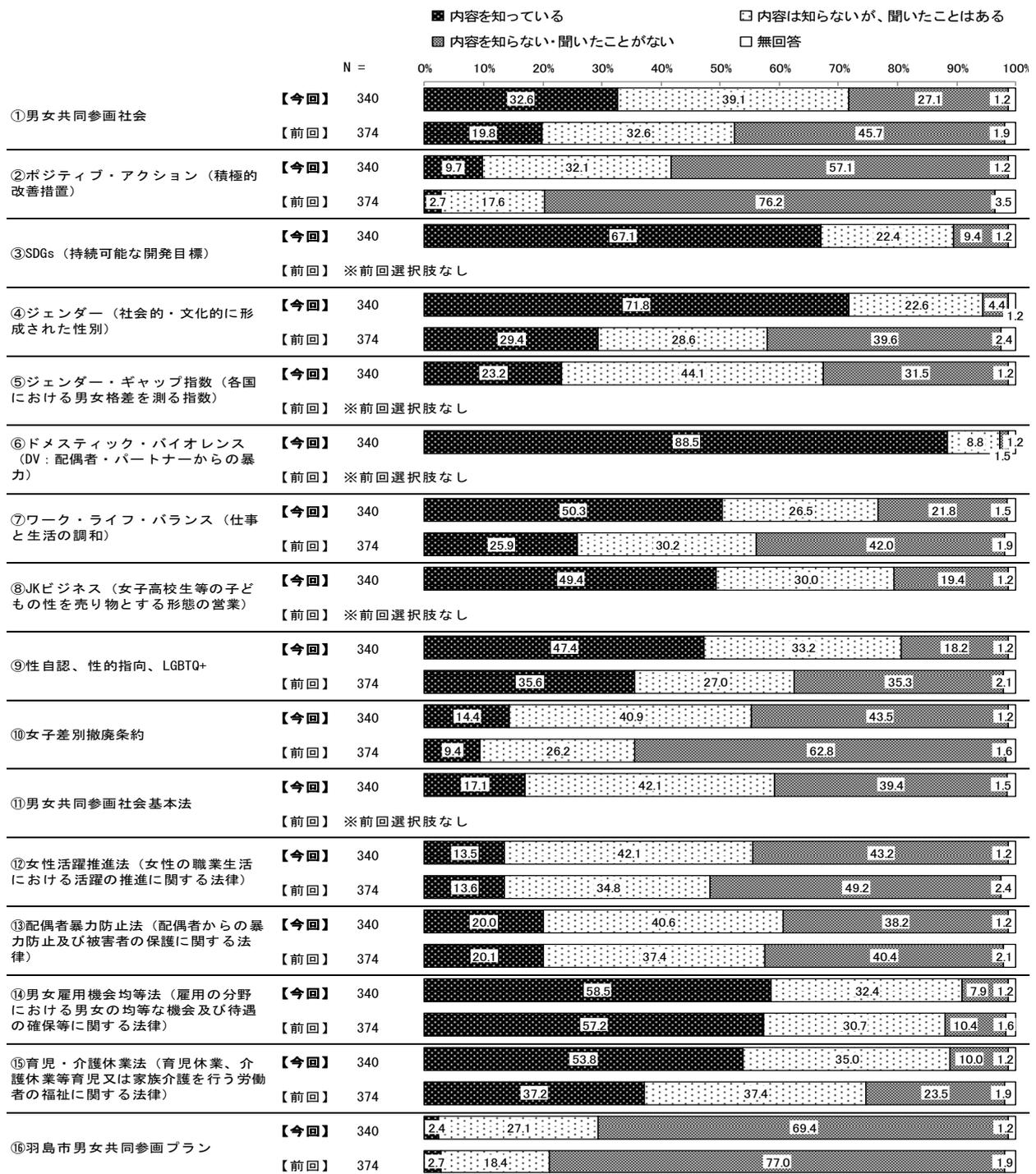
【問4】法律・条例・用語等の認知度

認知度が最も高い用語は「ドメスティック・バイオレンス (DV)」

法律・条例・用語等の認知度については、「内容を知っている」は『⑥ドメスティック・バイオレンス (DV)』が88.5%と最も高く、次いで『⑤ジェンダー』が71.8%、『③SDGs (持続可能な開発目標)』が67.1%となっています。

また、「知らなかった」では『⑩羽島市男女共同参画プラン』が69.4%と最も高く、『②ポジティブ・アクション』が57.1%で続いています。

問4 次にあげる①から⑯までの言葉などについて、内容を知っていますか。それぞれあてはまるものを選んでください。(①～⑯それぞれ〇は1つずつ)

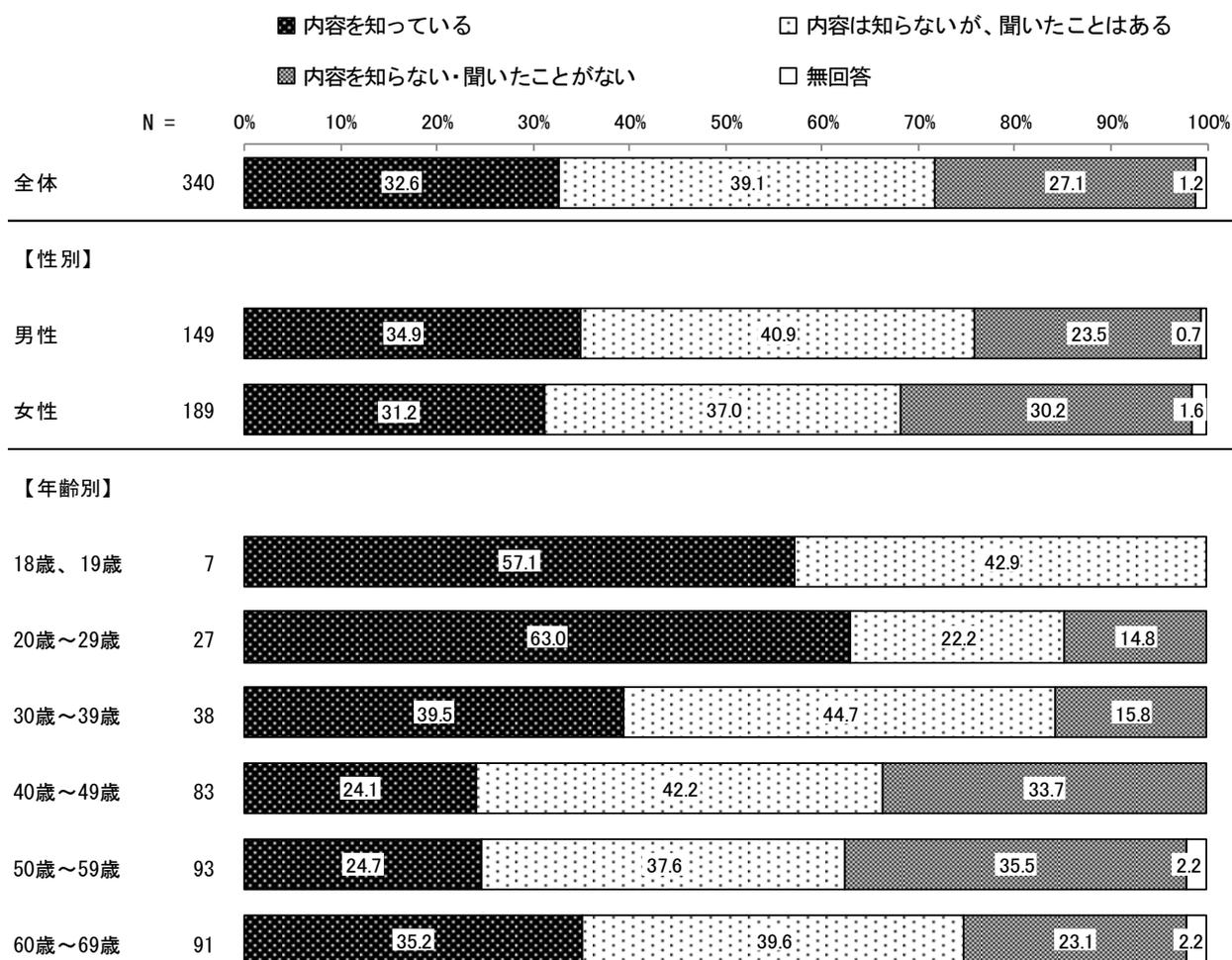


①男女共同参画社会

「内容を知っている」 32.6%

『男女共同参画社会』の認知度は、全体で見ると「内容は知らないが、聞いたことはある」が39.1%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高く、男性では40.9%、女性では37.0%となっています。

年齢別で見ると、20代では「内容を知っていた」が最も高く、30代以上では「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高くなっています。

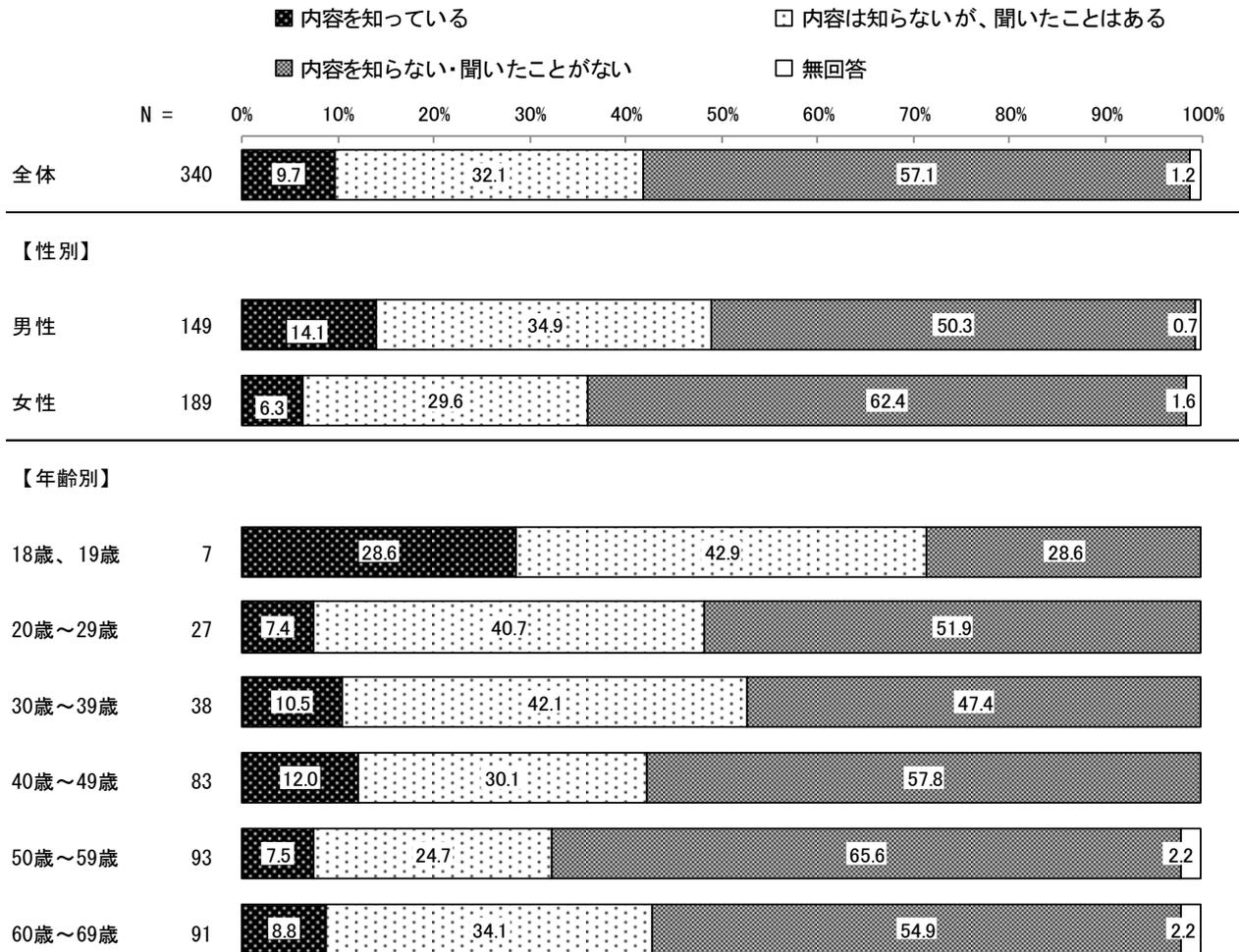


②ポジティブ・アクション（積極的改善処置）

「内容を知っている」 9.7%

『ポジティブ・アクション』の認知度は、全体で見ると「内容を知らない・聞いたことがない」が57.1%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高く、男性では50.3%、女性では62.4%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代においても「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高く、特に50代では65.6%と高くなっています。

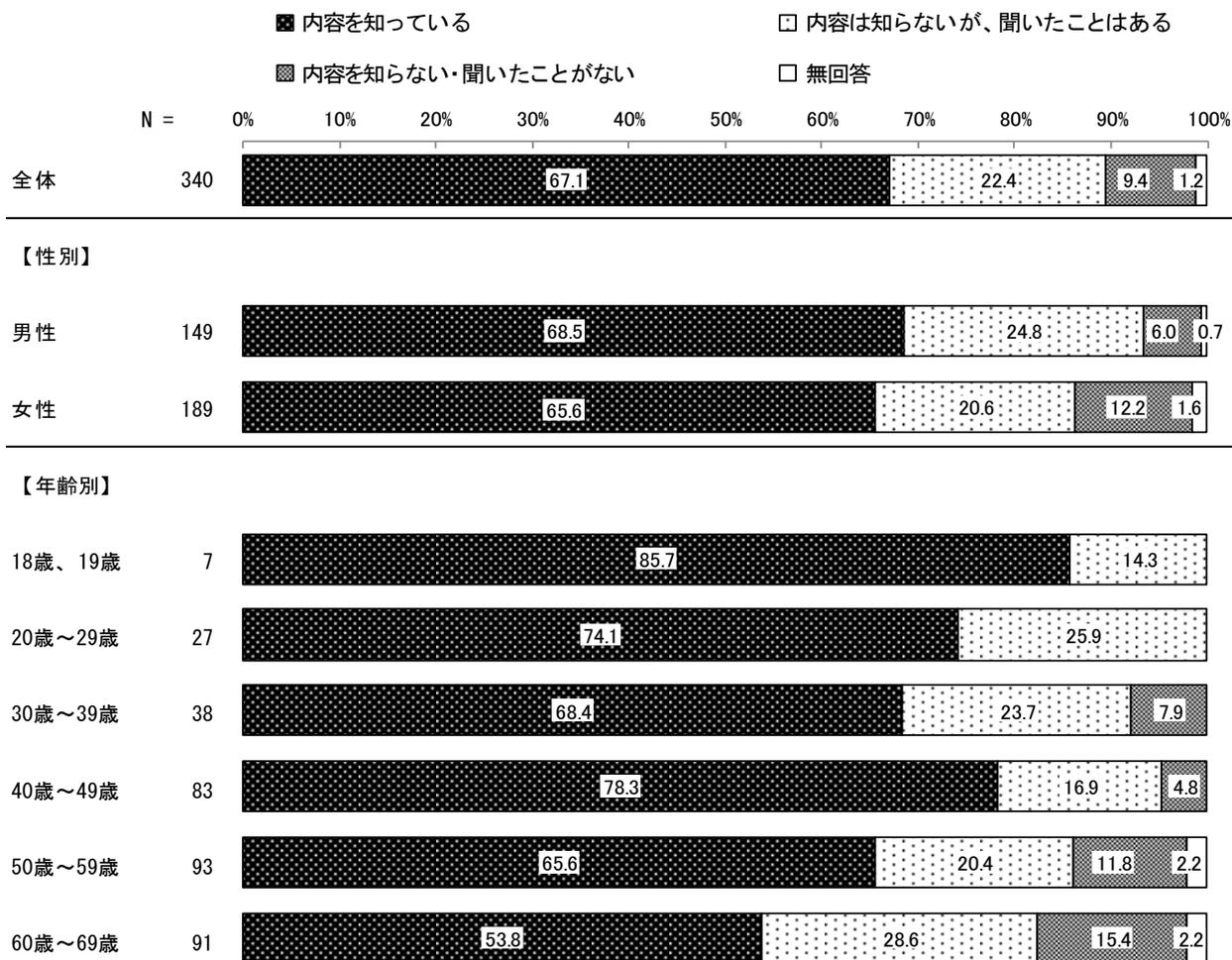


③SDG s（持続可能な開発目標）

「内容を知っている」 67.1%

『SDG s』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が67.1%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では68.5%、女性では65.6%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代においても「内容を知っている」が最も高く、特に40代では78.3%と高くなっています。

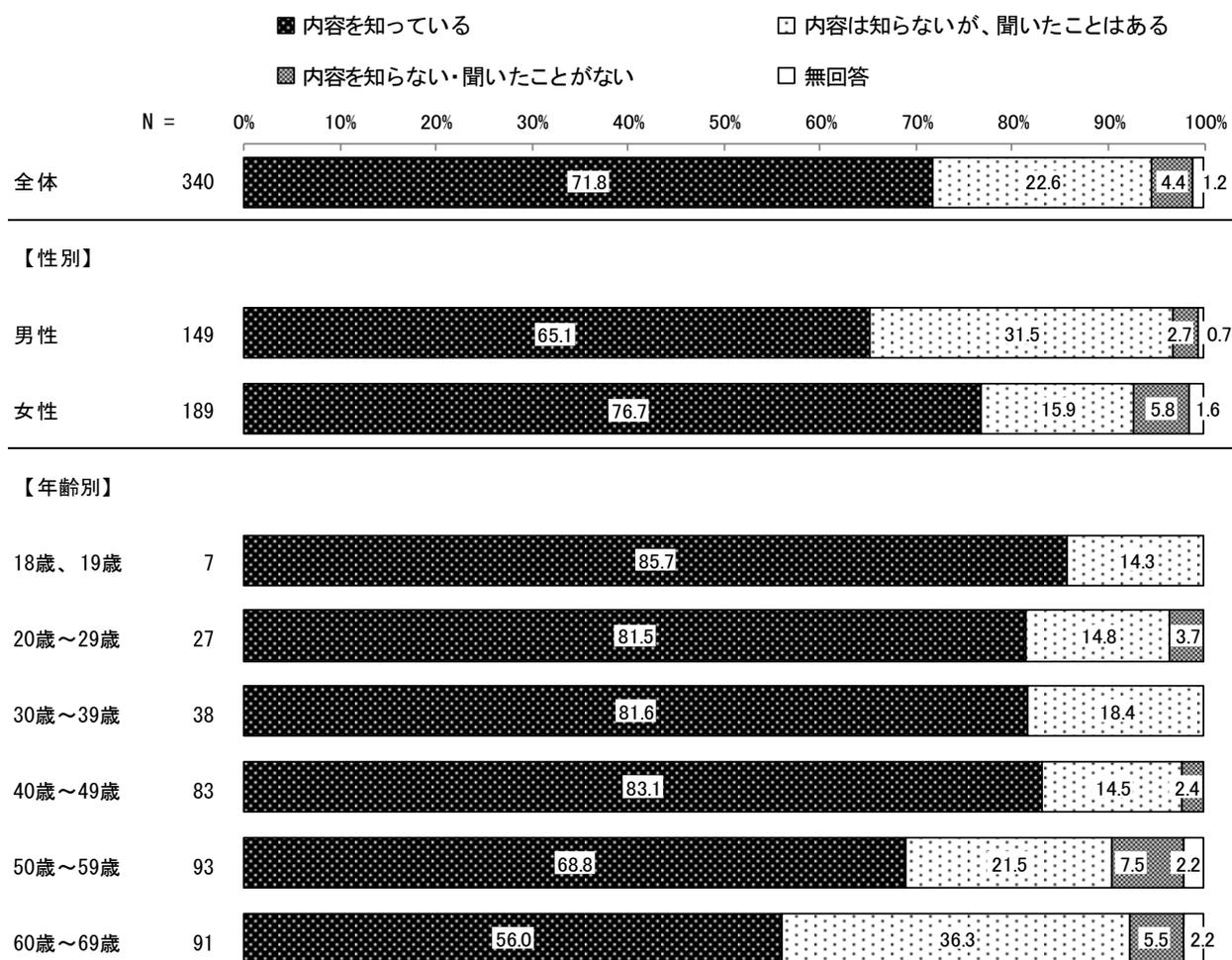


④ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

「内容を知っている」 71.8%

『ジェンダー』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が71.8%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では65.1%、女性では76.7%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容を知っている」が最も高く、特に20代から40代は80%以上と高くなっています。

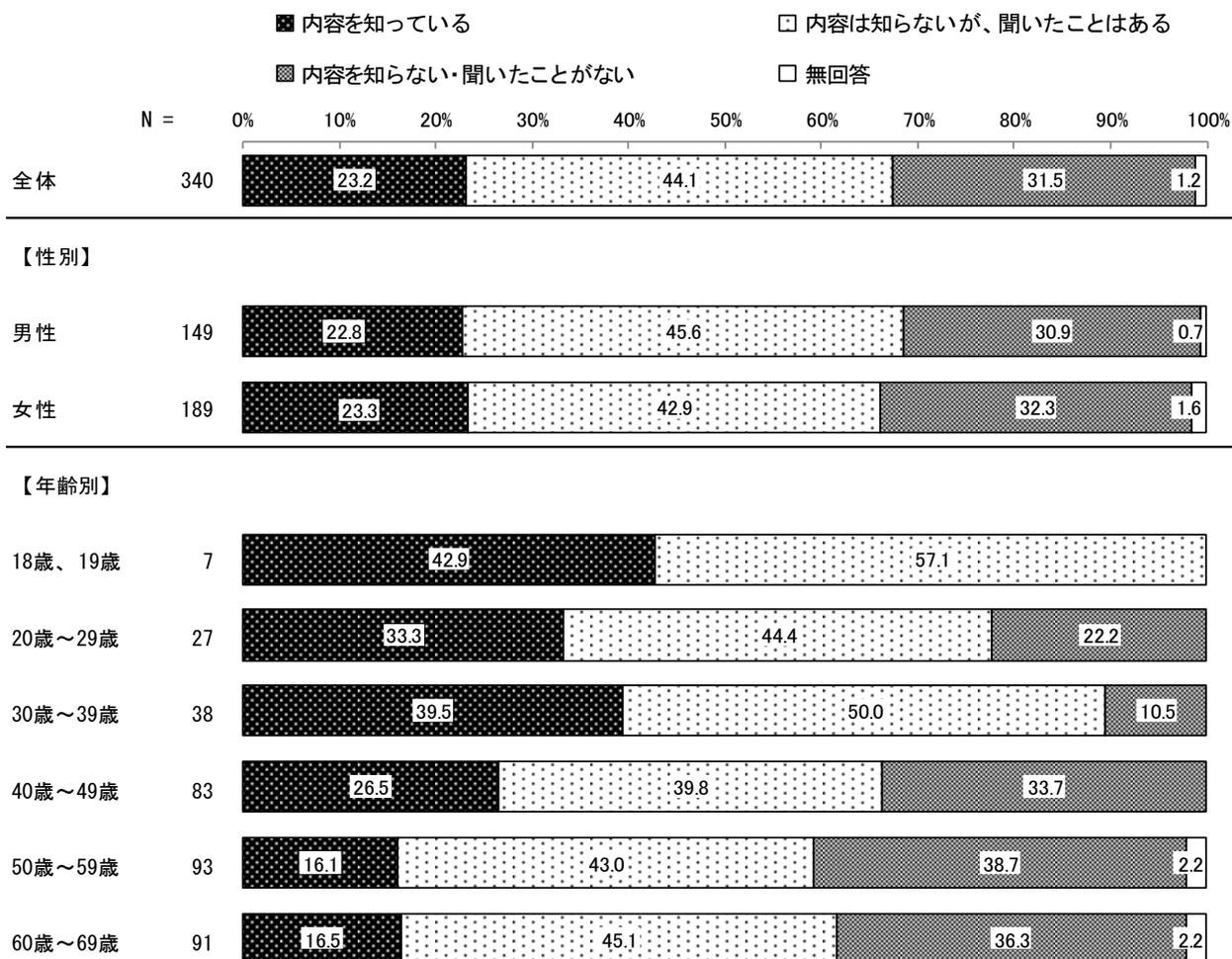


⑤ジェンダー・ギャップ指数（各国における男女格差を測る指数）

「内容を知っている」 23.2%

『ジェンダー・ギャップ指数』の認知度は、全体で見ると「内容は知らないが、聞いたことはある」が44.1%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高く、男性では45.6%、女性では42.9%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高くなっています。

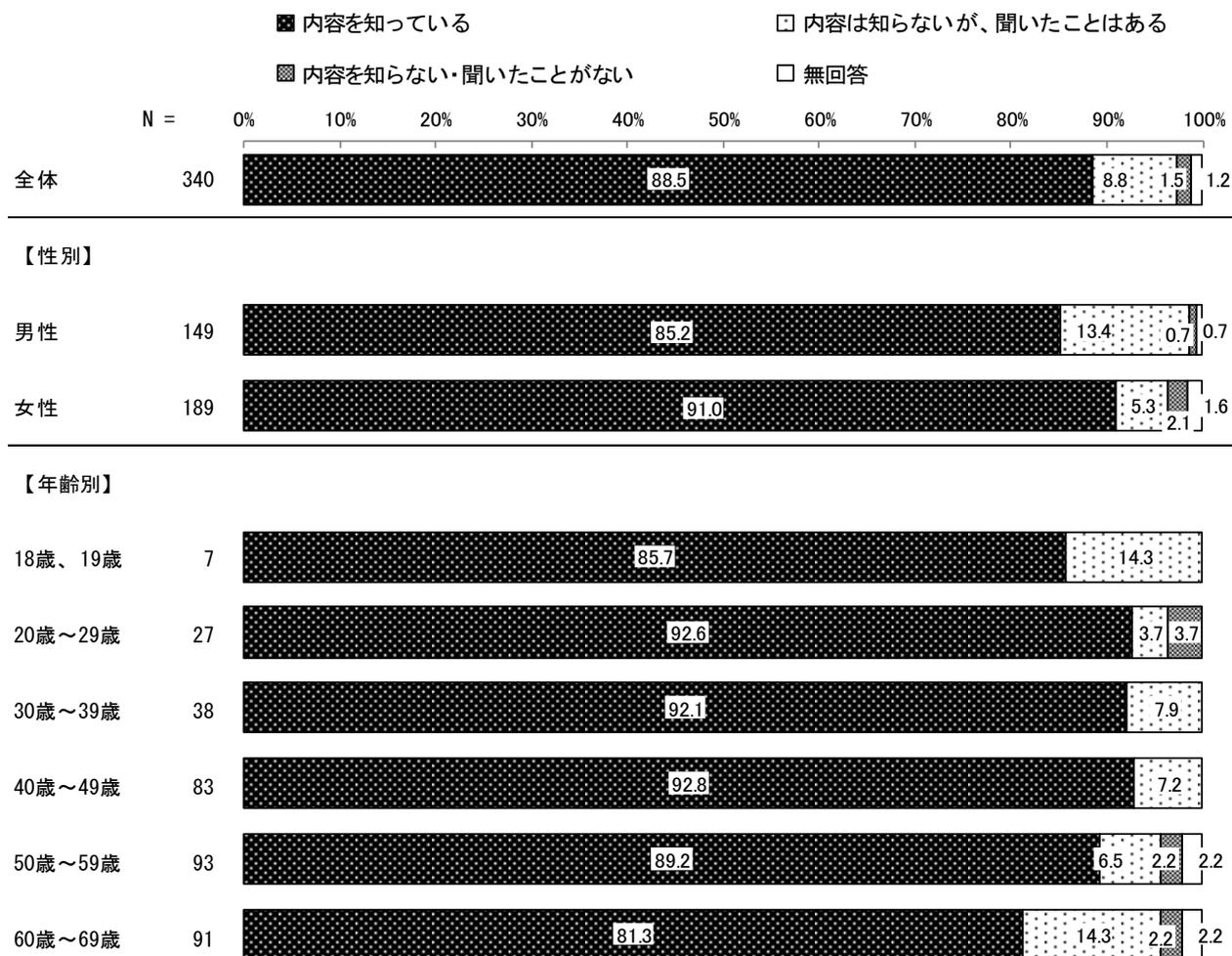


⑥ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者・パートナーからの暴力）

「内容を知っている」 88.5%

『ドメスティック・バイオレンス』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が88.5%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では85.2%、女性では91.0%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容を知っている」が最も高く、80%以上を占めています。特に、20代から40代では90%以上となっています。

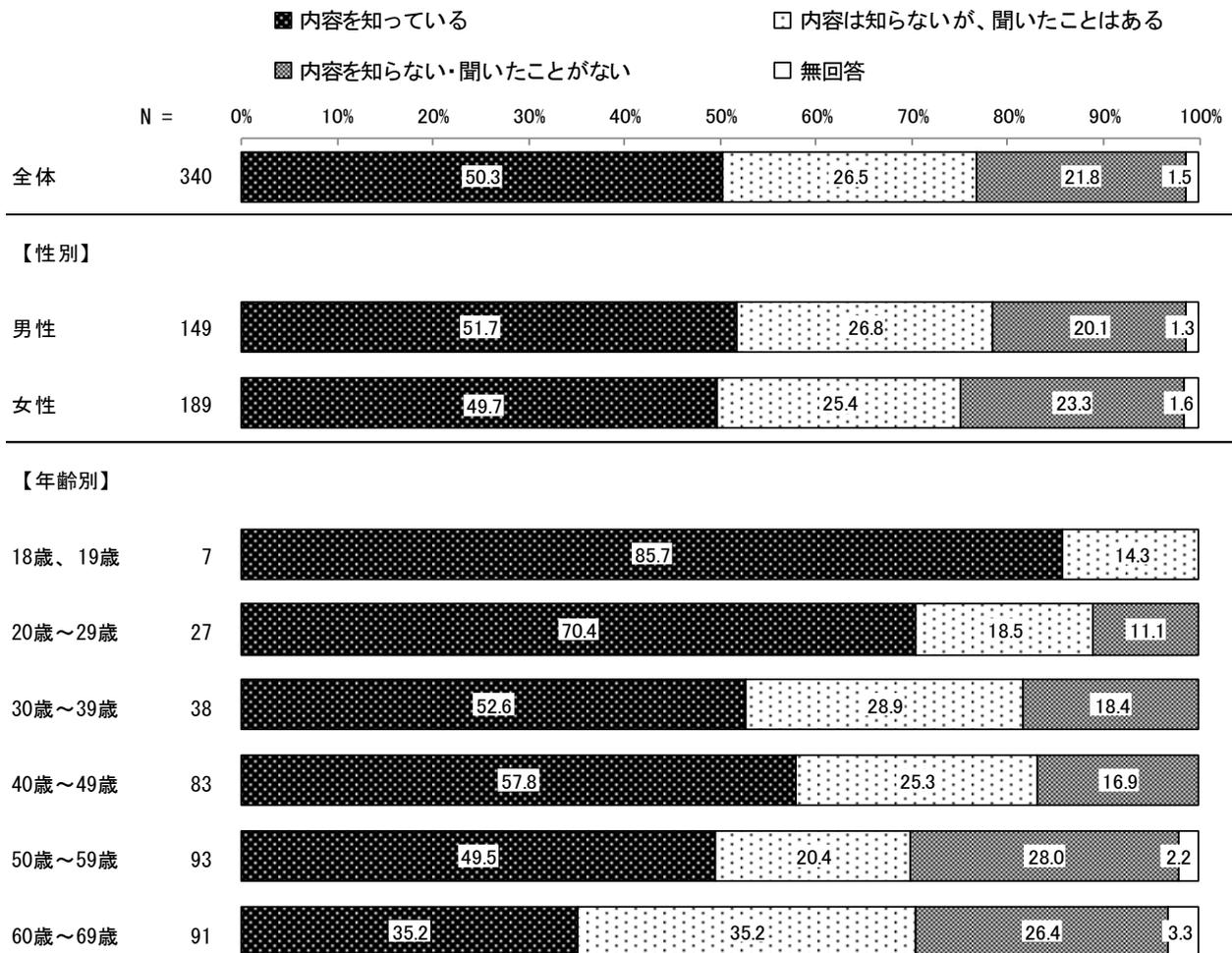


⑦ワークライフバランス（仕事と生活の調和）

「内容を知っている」 50.3%

『ワークライフバランス』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が50.3%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では51.7%、女性では49.7%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容を知っている」が最も高くなっています。特に、20代では70.4%と高くなっています。

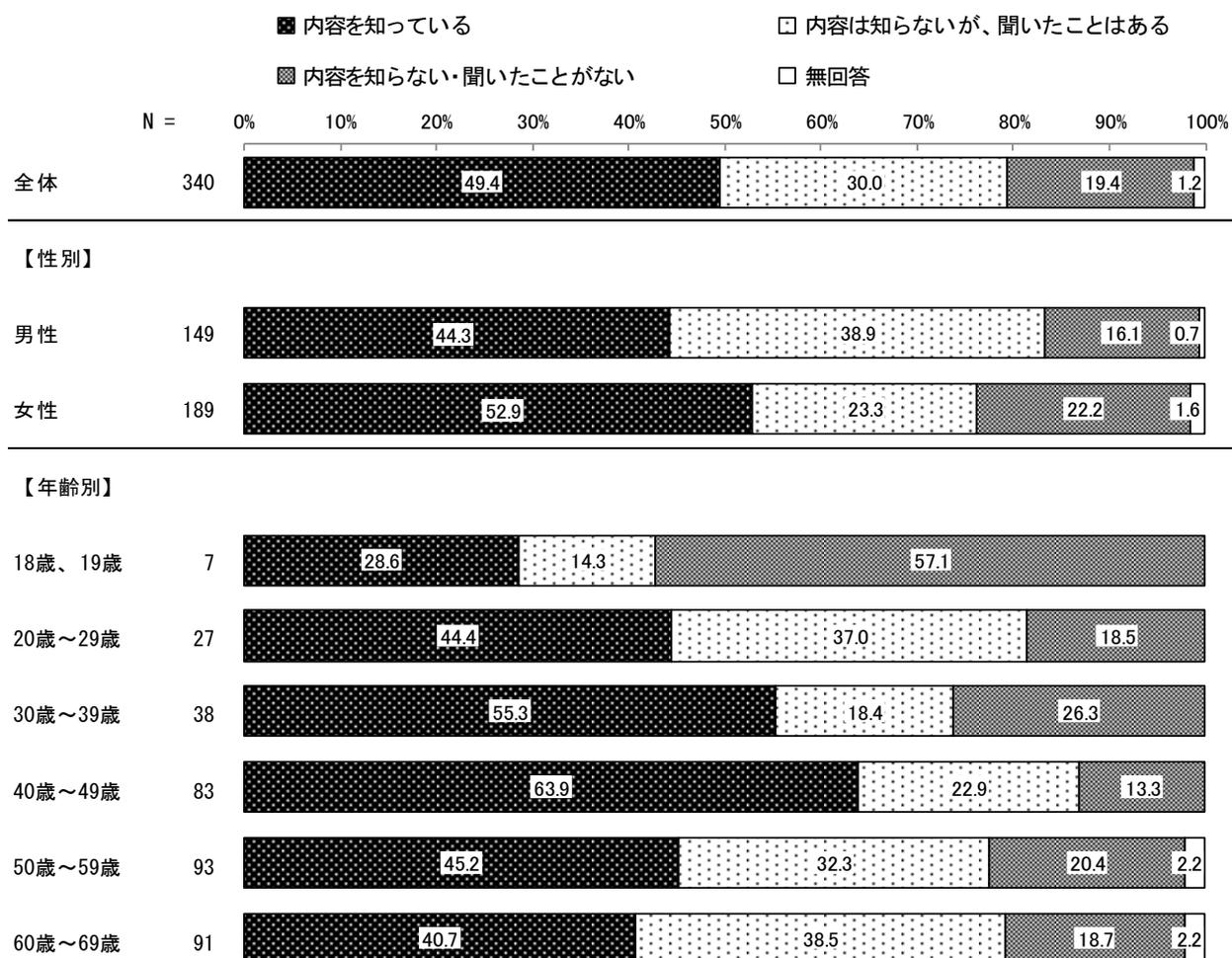


⑧ JKビジネス（女子高校生等の子どもの性を売り物とする形態の営業）

「内容を知っている」 49.4%

『JKビジネス』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が49.4%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では44.3%、女性では52.9%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容を知っている」が最も高くなっています。特に、40代では63.9%と高くなっています。

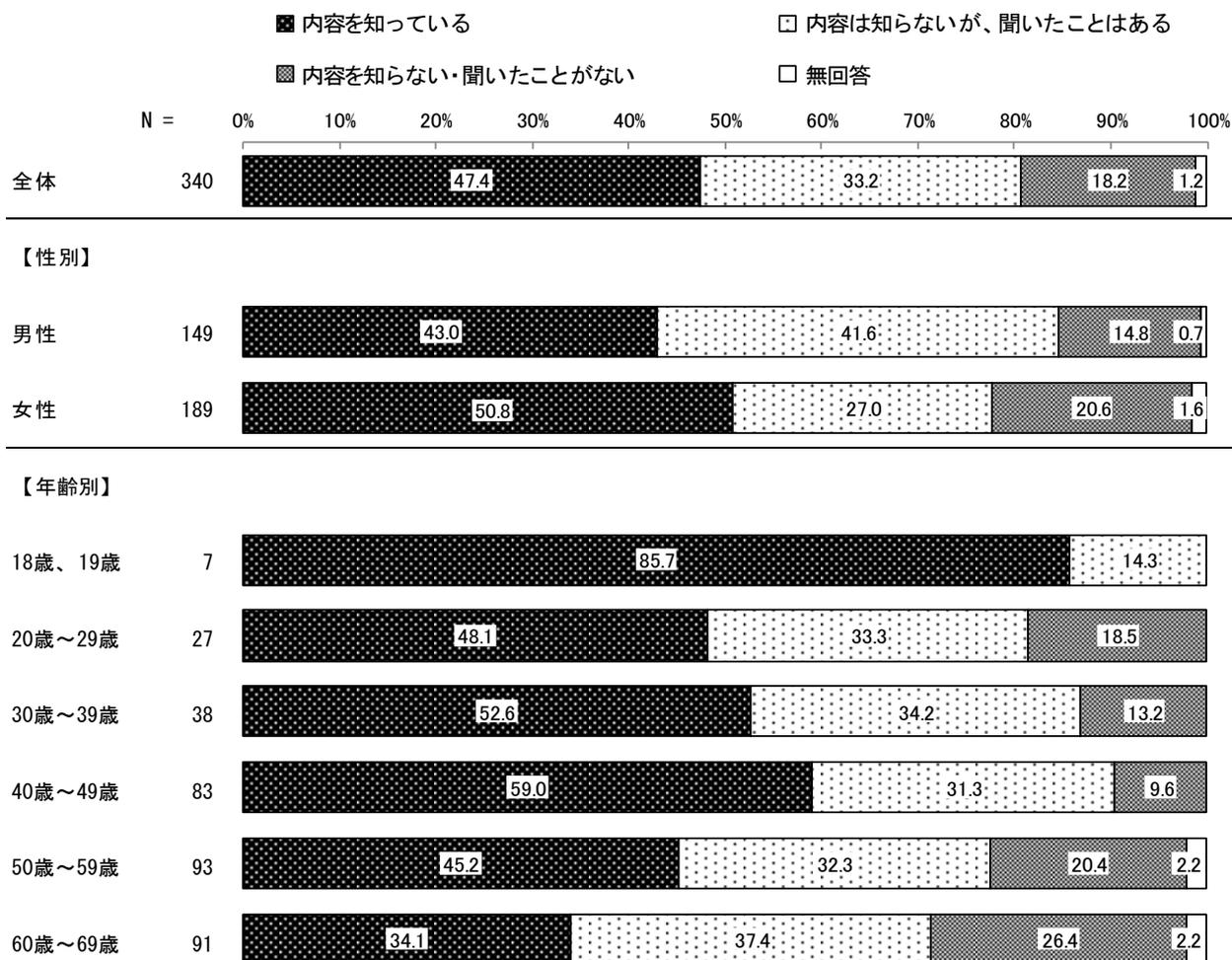


⑨性自認、性的指向、LGBTQ+

「内容を知っている」 47.4%

『性自認、性的指向、LGBTQ+』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が47.4%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では43.0%、女性では50.8%となっています。

年齢別で見ると、20代から50代までは「内容を知っている」が最も高くなっていますが、60代では「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高くなっています。



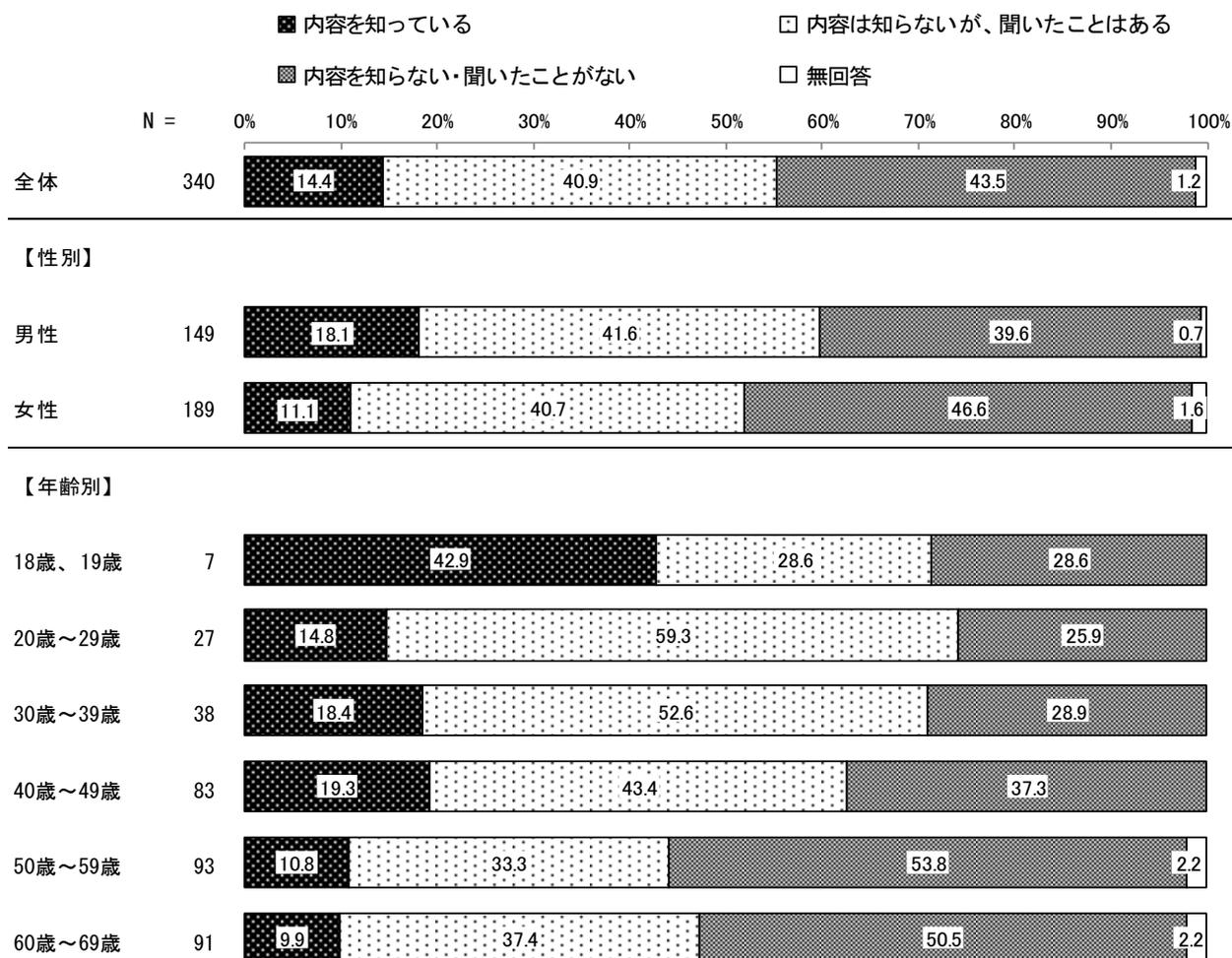
⑩女子差別撤廃条約

「内容を知っている」 14.4%

『女子差別撤廃条約』の認知度は、全体で見ると「内容を知らない・聞いたことがない」が43.5%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「内容は知らないが、聞いたことはある」が41.6%と最も高くなっていますが、女性では「内容を知らない・聞いたことがない」が46.6%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、20代から40代までは「内容を知らないが、聞いたことはある」、50代以上では「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高くなっています。



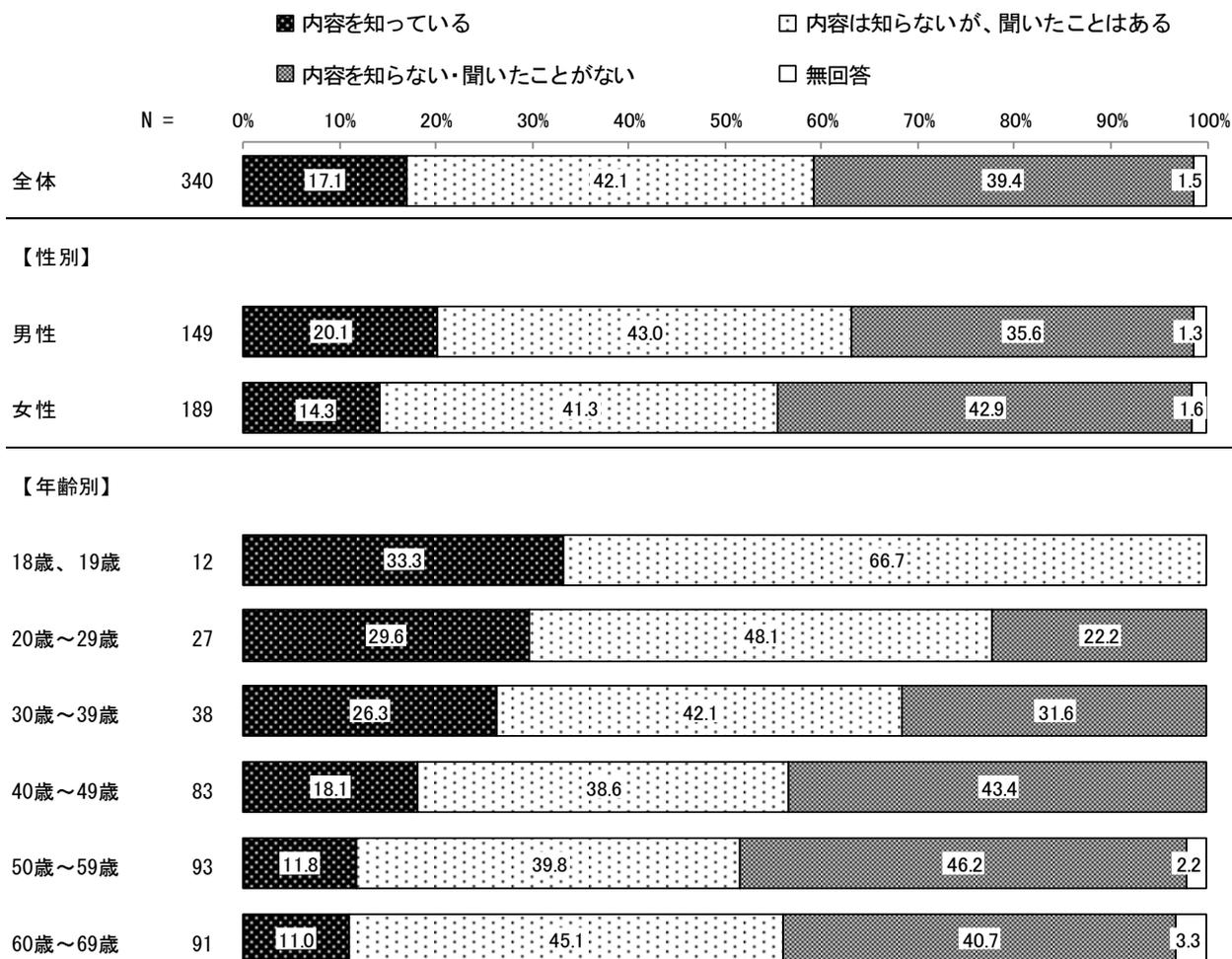
⑪男女共同参画社会基本法

「内容を知っている」 17.1%

『男女共同参画社会基本法』の認知度は、全体で見ると「内容は知らないが、聞いたことはある」が42.1%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「内容は知らないが、聞いたことはある」が43.0%と最も高くなっていますが、女性では「内容を知らない・聞いたことがない」が42.9%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、20代、30代、60代では「内容は知らないが、聞いたことはある」、40代と50代では「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高くなっています。



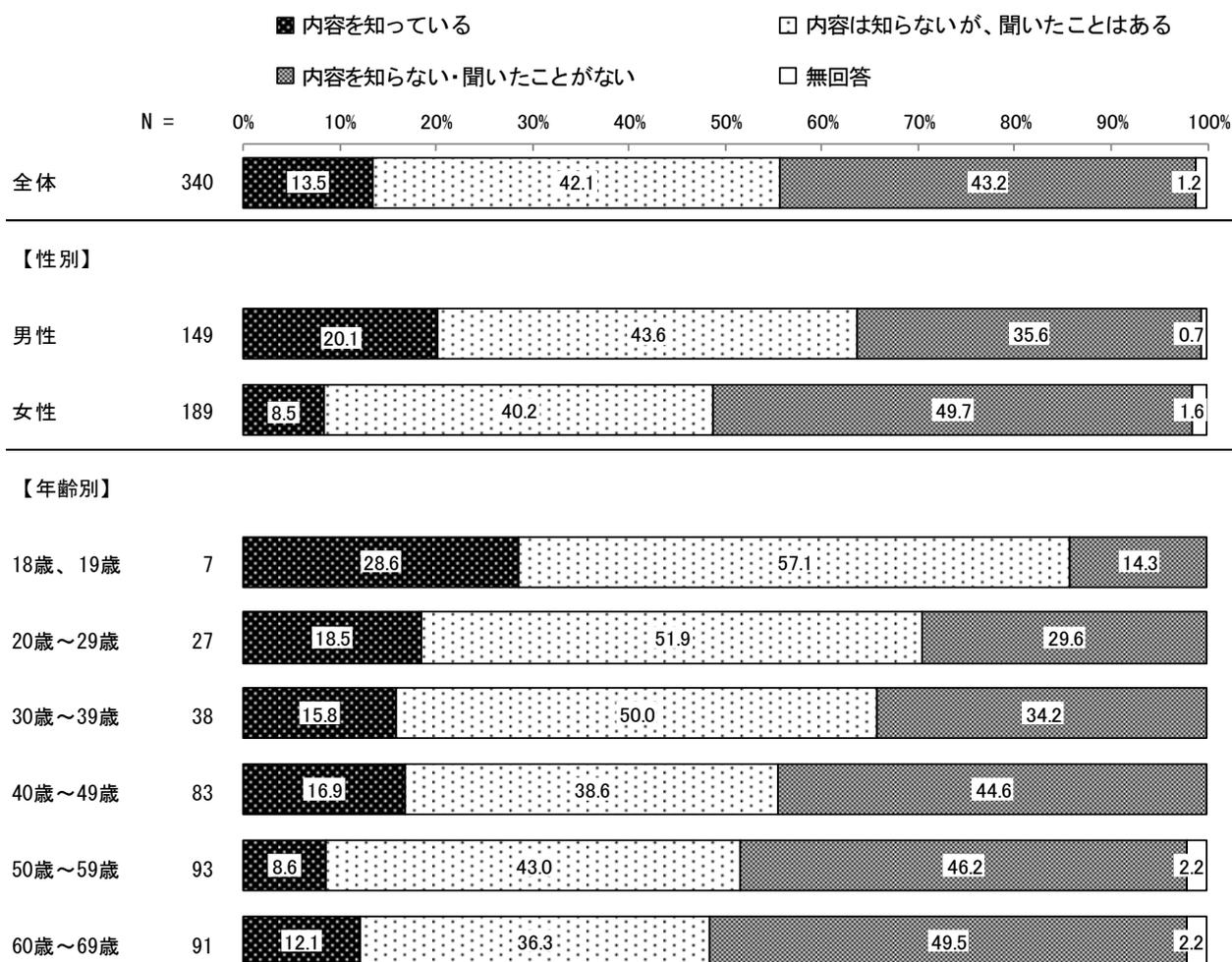
⑫女性活躍推進法（女性の職業選択における活躍の推進に関する法律）

「内容を知っている」 13.5%

『女性活躍推進法』の認知度は、全体で見ると「内容を知らない・聞いたことがない」が43.2%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「内容は知らないが、聞いたことはある」が43.6%と最も高くなっていますが、女性では「内容を知らない・聞いたことがない」が49.7%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、20代と30代では「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高く、40代以上では「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高くなっています。



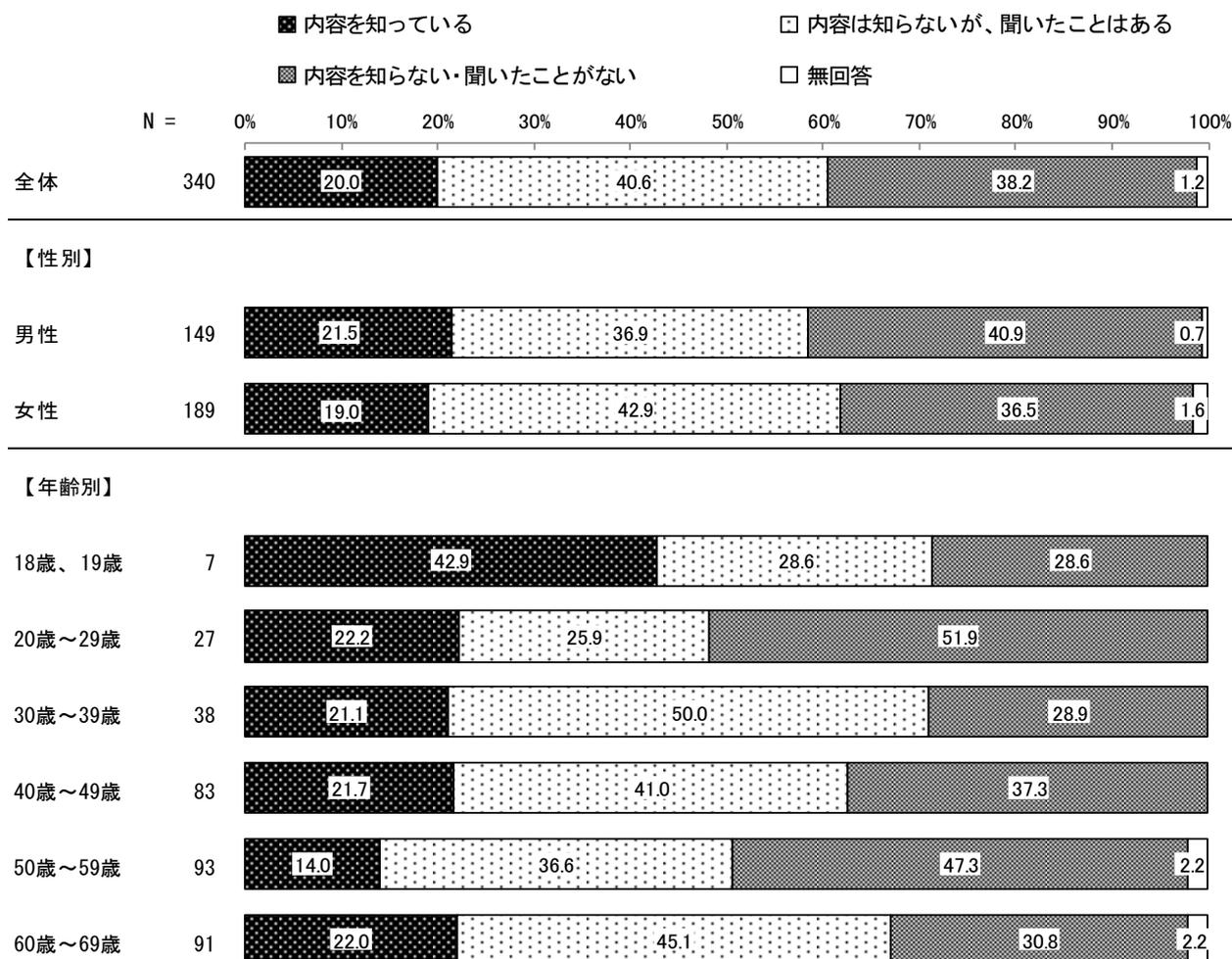
⑬ 配偶者暴力防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画）

「内容を知っている」 20.0%

『配偶者暴力防止法』の認知度は、全体で見ると「内容は知らないが、聞いたことはある」が40.6%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「内容を知らない・聞いたことがない」が40.9%と最も高くなっていますが、女性では「内容は知らないが、聞いたことはある」が42.9%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「内容を知っている」は20%程度となっています。



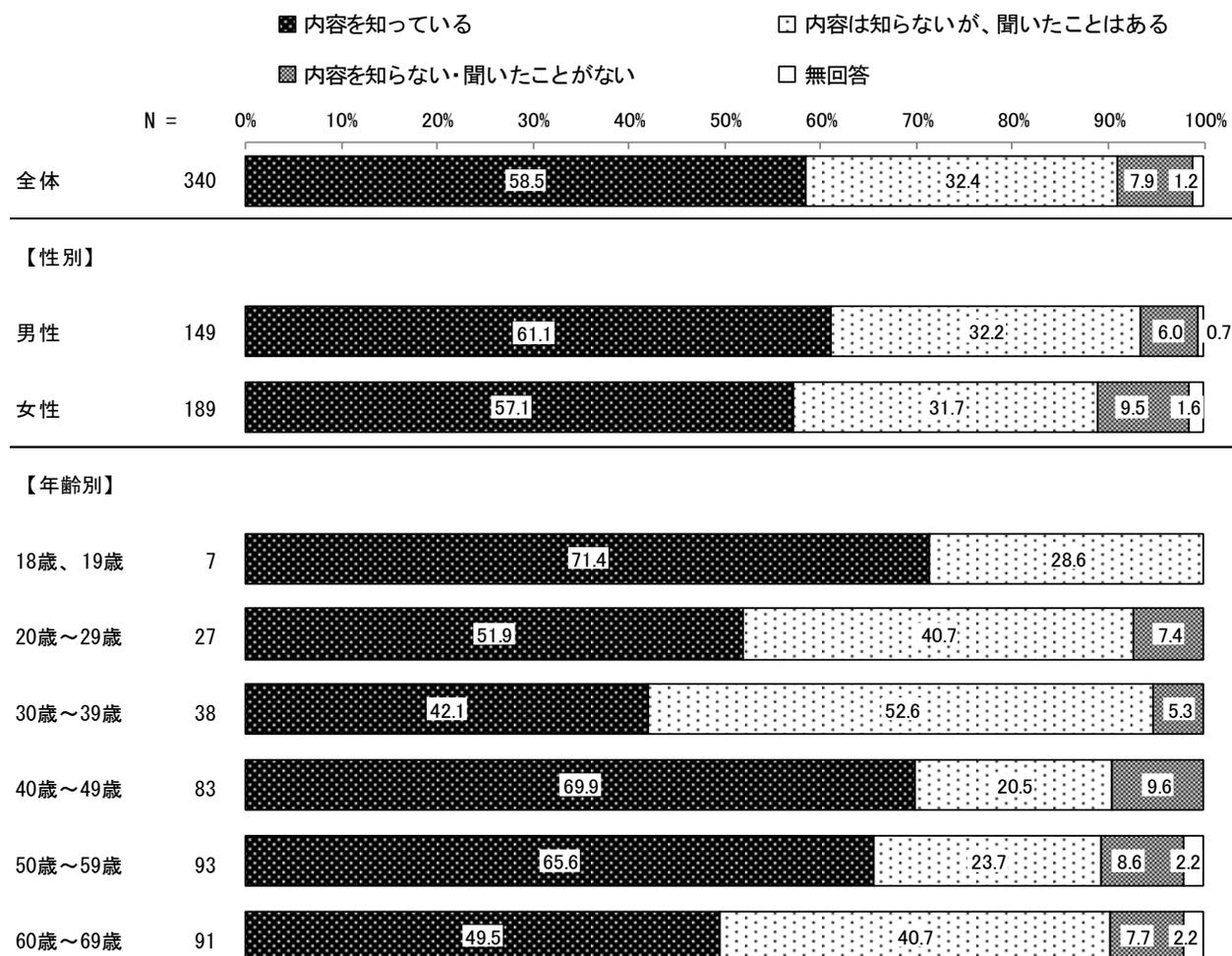
⑭男女雇用機会均等法

(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)

「内容を知っている」 58.5%

『男女雇用機会均等法』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が58.5%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では61.1%、女性では57.1%となっています。

年齢別で見ると、30代では「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高くなっていますが、その他の年代では「内容を知っている」が最も高くなっています。



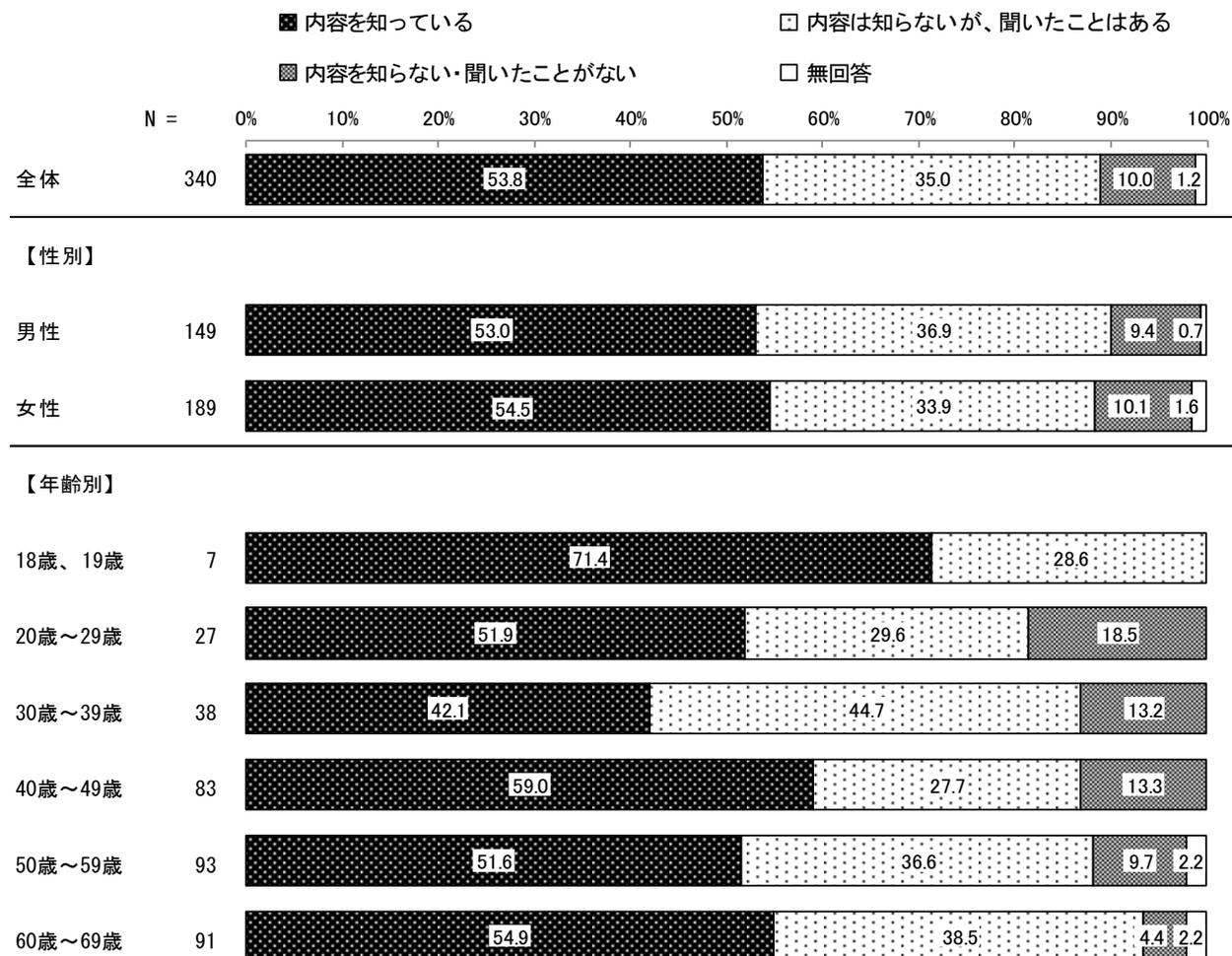
⑮ 育児・介護休業法

(育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)

「内容を知っている」 53.8%

『育児・介護休業法』の認知度は、全体で見ると「内容を知っている」が53.8%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知っている」が最も高く、男性では53.0%、女性では54.5%となっています。

年齢別で見ると、30代では「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も高くなっていますが、その他の年代では「内容を知っている」が最も高くなっています。

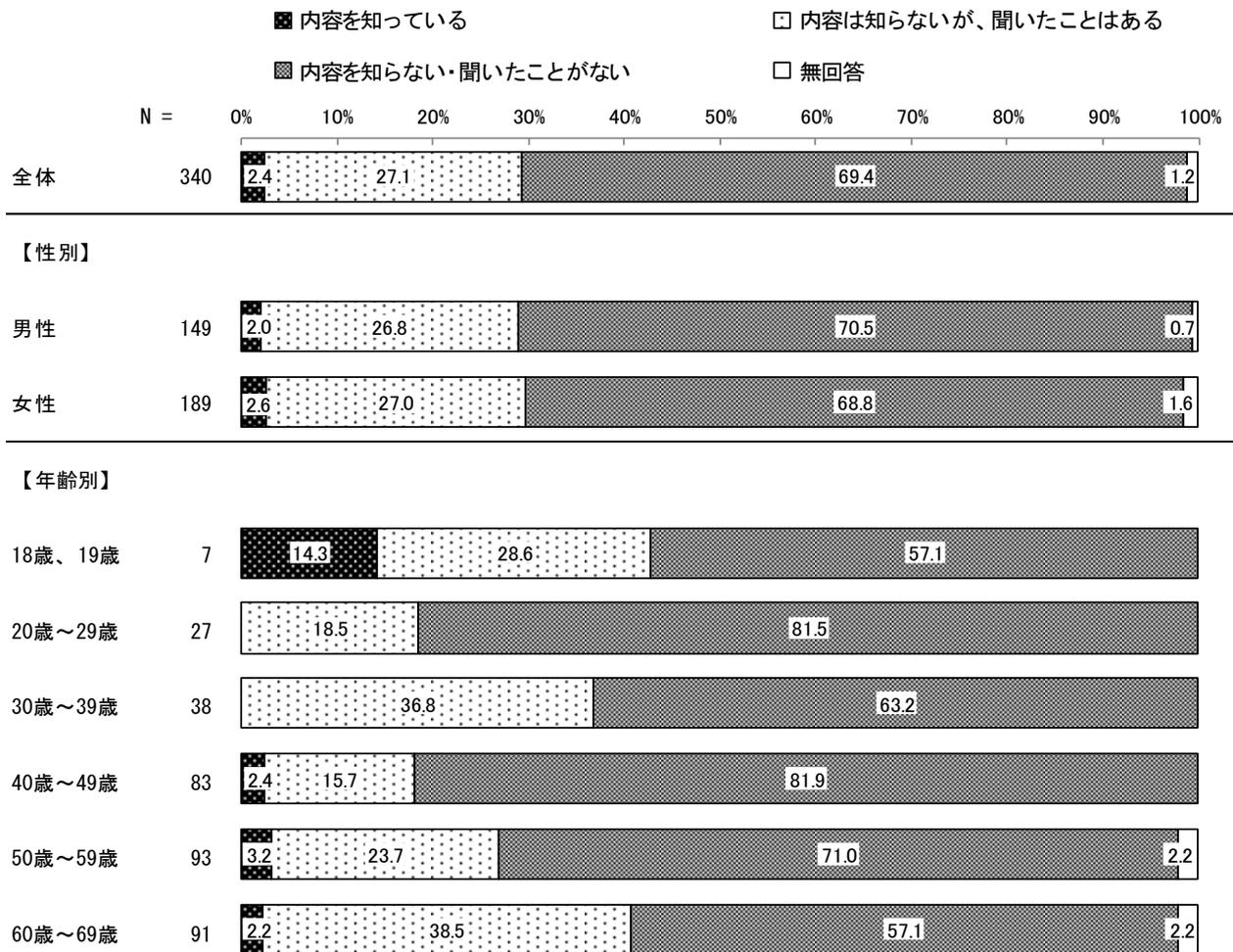


⑩羽島市男女共同参画プラン

「内容を知っている」 2.4%

『羽島市男女共同参画プラン』の認知度は、全体で見ると「内容を知らない・聞いたことがない」が69.4%と最も高く、性別で見ても、男女ともに「内容を知らない・聞いたことがない」が最も高く、男性では70.5%、女性では68.8%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代においても「内容を知らない・聞いたことがない」が最も多くなっています。



2 家庭生活・結婚・家庭観について

【問5】 出生率低下の原因

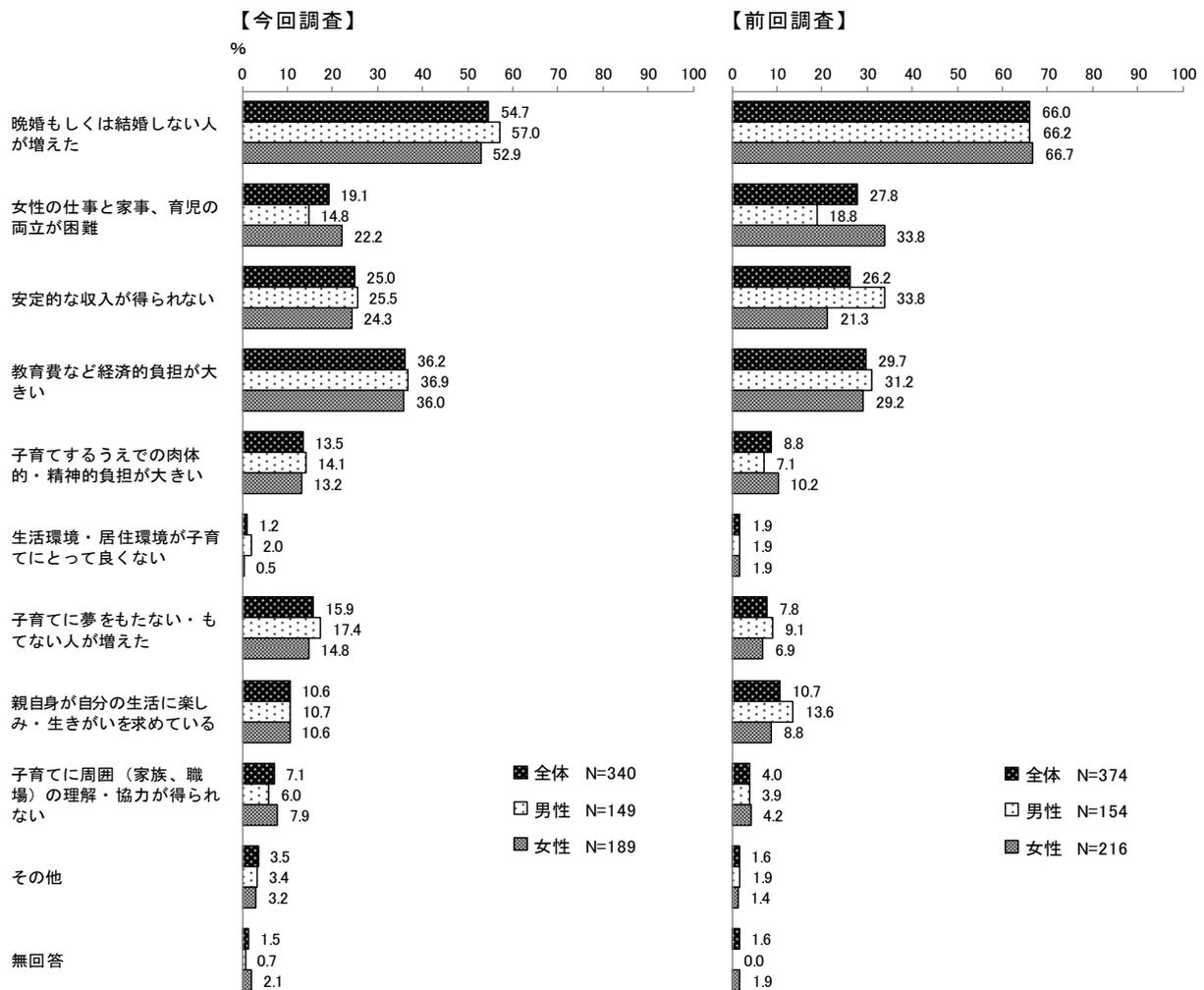
「晩婚もしくは結婚しない人が増えた」が最も高い

出生率低下の原因については、全体、性別ともに「晩婚もしくは結婚しない人が増えた」が最も高く、全体では54.7%、男性では57.0%、女性では52.9%となっています。

<前回調査との比較>

前回調査においても「晩婚もしくは結婚しない人が増えた」が最も高くなっていましたが、今回は11.3ポイント減少しています。一方、「教育費など経済的負担が大きい」が6.5ポイント、「子育てに夢をもたない・もてない人が増えた」が8.1ポイント増加しています。

問5 最近の出生率の低下の主な原因は何だと思えますか。(〇は2つまで)



その他の意見

1人での生活に不都合を感じないため。

若年層の働き方の自由度が上がった。

男女問わず仕事と家事、育児の両立が困難。

子どもを産みたくても産めない人もいる。

【問6】 子育てに対する考え方

「親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよい」
 「子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」が多い

子育てに対する考え方については、「そう思う」と回答した割合は、「親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよい」が68.2%、「子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」が66.5%と高くなっています。また、「そう思わない」は、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が38.2%と最も高くなっています。

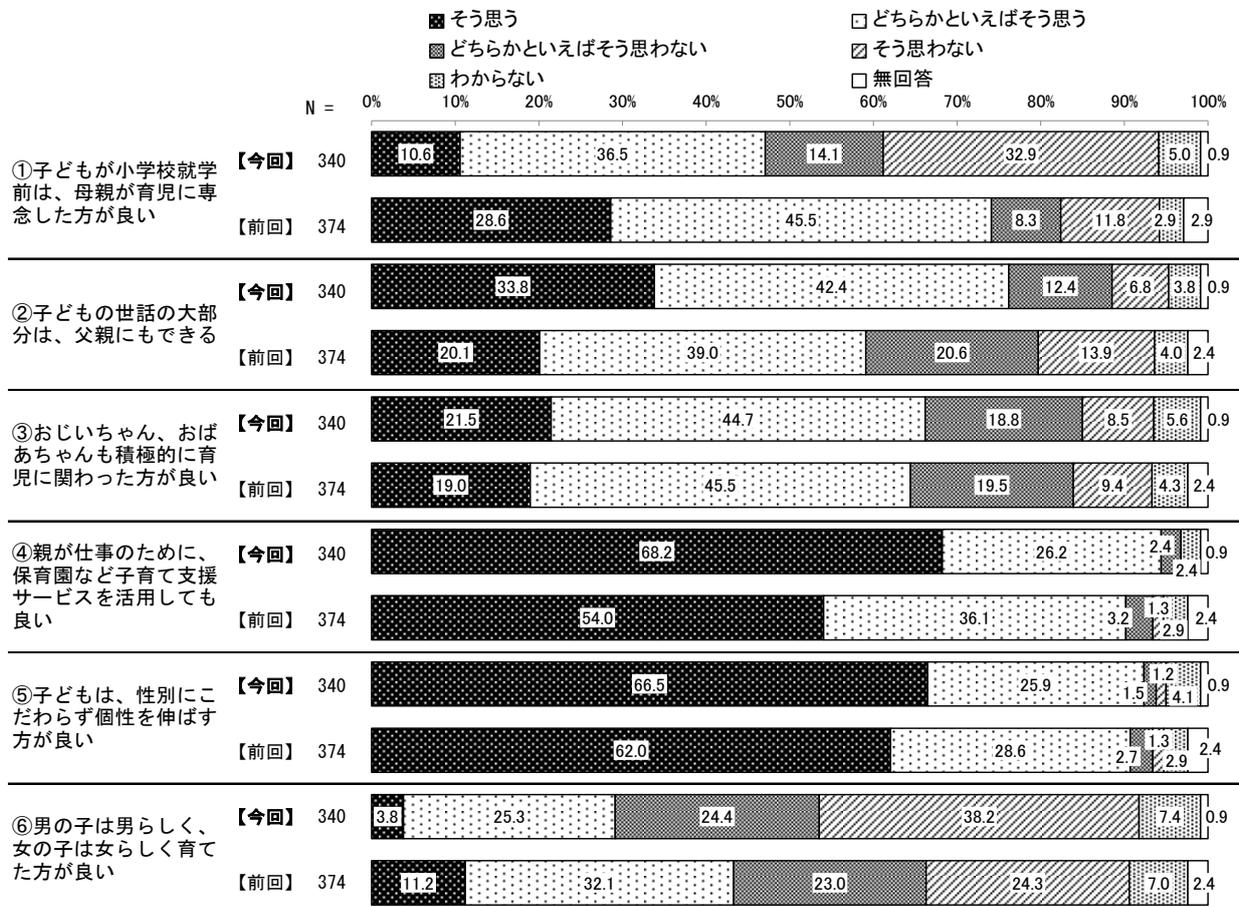
<前回調査との比較>

前回調査においては「子どもが小学校就学前は、母親が育児に専念した方がよい」という考えについては『肯定的』が全体で74.1%であったのに対し、今回は47.1%と27ポイント減少しています。

※問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。
 『肯定的』・・・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」
 『否定的』・・・「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」

問6 子育てに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。

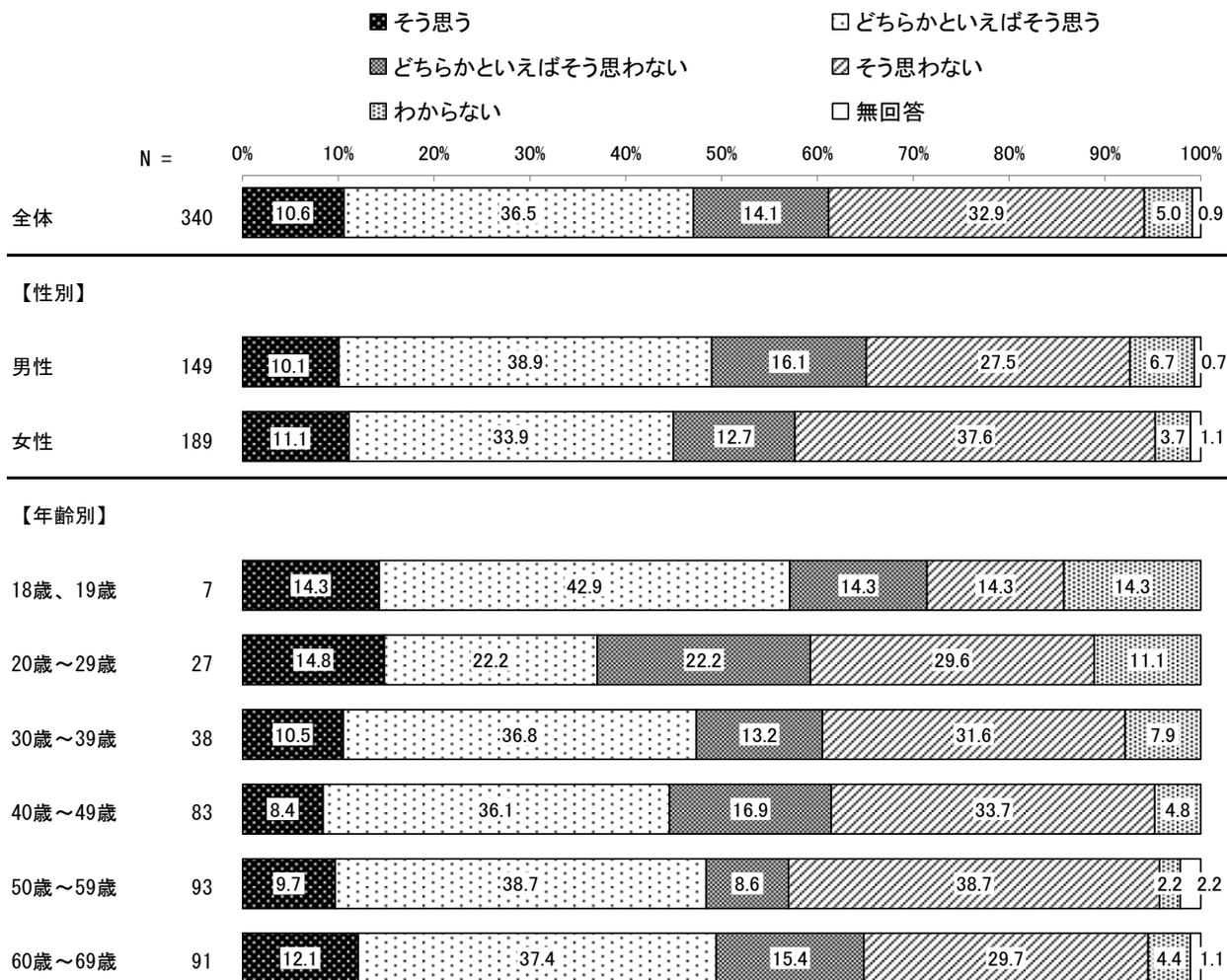
それぞれあてはまるものを選んでください。(①~⑥それぞれ〇は1つずつ)



①子どもが小学校就学前は、母親が育児に専念した方が良い

『肯定的』47.1% ≒ 『否定的』47.0%
 全体では「どちらかといえばそう思う」が最も高い

「子どもが小学校就学前は、母親が育児に専念した方がよい」という考えについては、性別で見ると、男性では「どちらかといえばそう思う」が38.9%と最も高くなっていますが、女性では「そう思わない」が37.6%と最も高くなっています。
 年齢別で見ると、20代と40代で『否定的』が高くなっています。



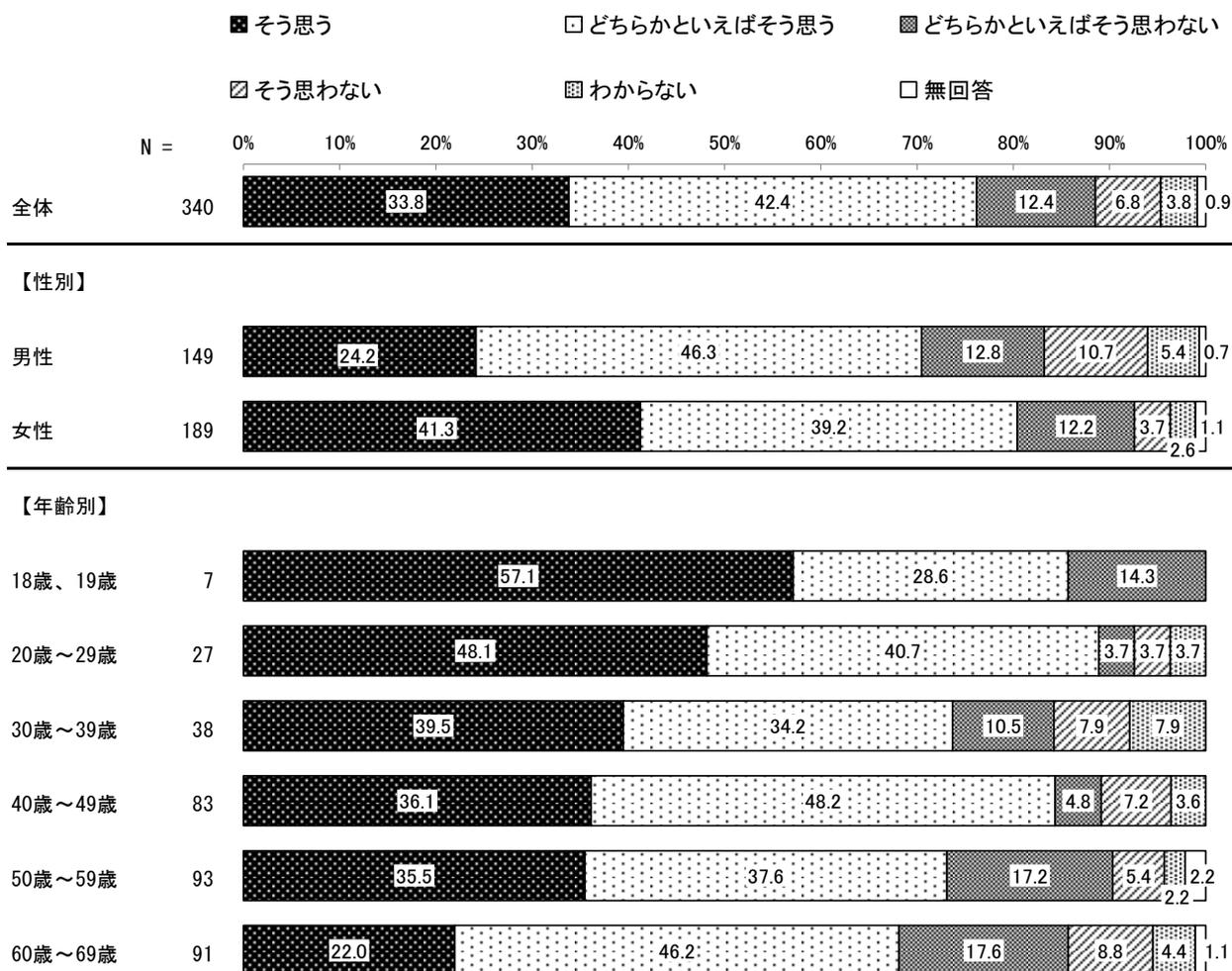
②子どもの世話の大部分は、父親にもできる

『肯定的』76.2% > 『否定的』19.2%

全体では「どちらかといえばそう思う」が最も高い

「子どもの世話の大部分は、父親にもできる」という考えについては、性別でみると、「そう思う」が、男性では24.2%であるのに対し、女性では41.3%であり、17.1ポイント女性の方が高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年代も『肯定的』が高くなっています。また、年代が低くなるにつれて「そう思う」が高くなっています。

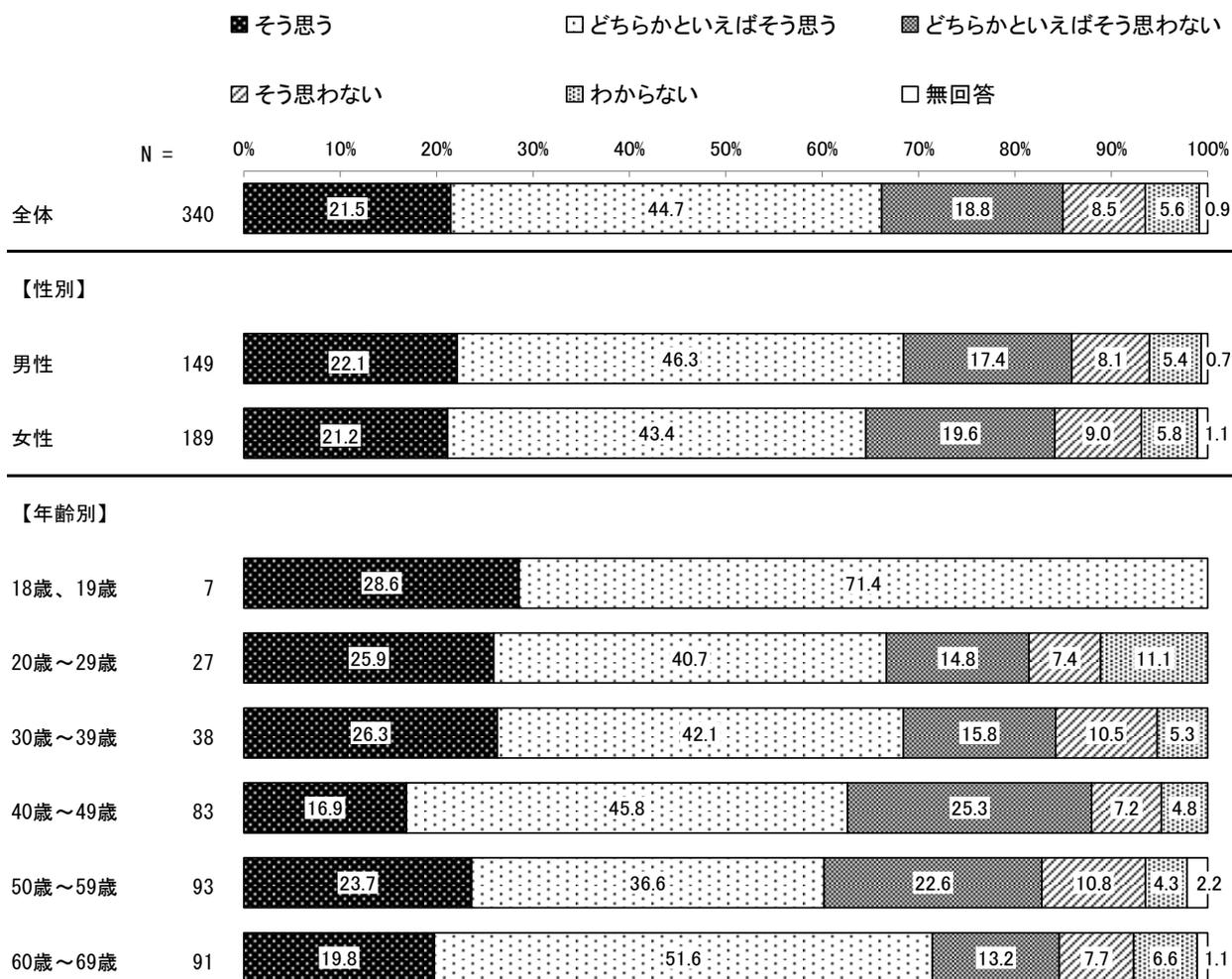


③おじいちゃん、おばあちゃんも積極的に育児に関わった方が良い

『肯定的』66.2% > 『否定的』27.3%
男女ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高い

「おじいちゃん、おばあちゃんも積極的に育児に関わった方がよい」という考えについては、性別で見ると、男女ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高く、男性では46.3%、女性では43.4%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『肯定的』が高くなっており、特に60代では71.4%と高くなっています。

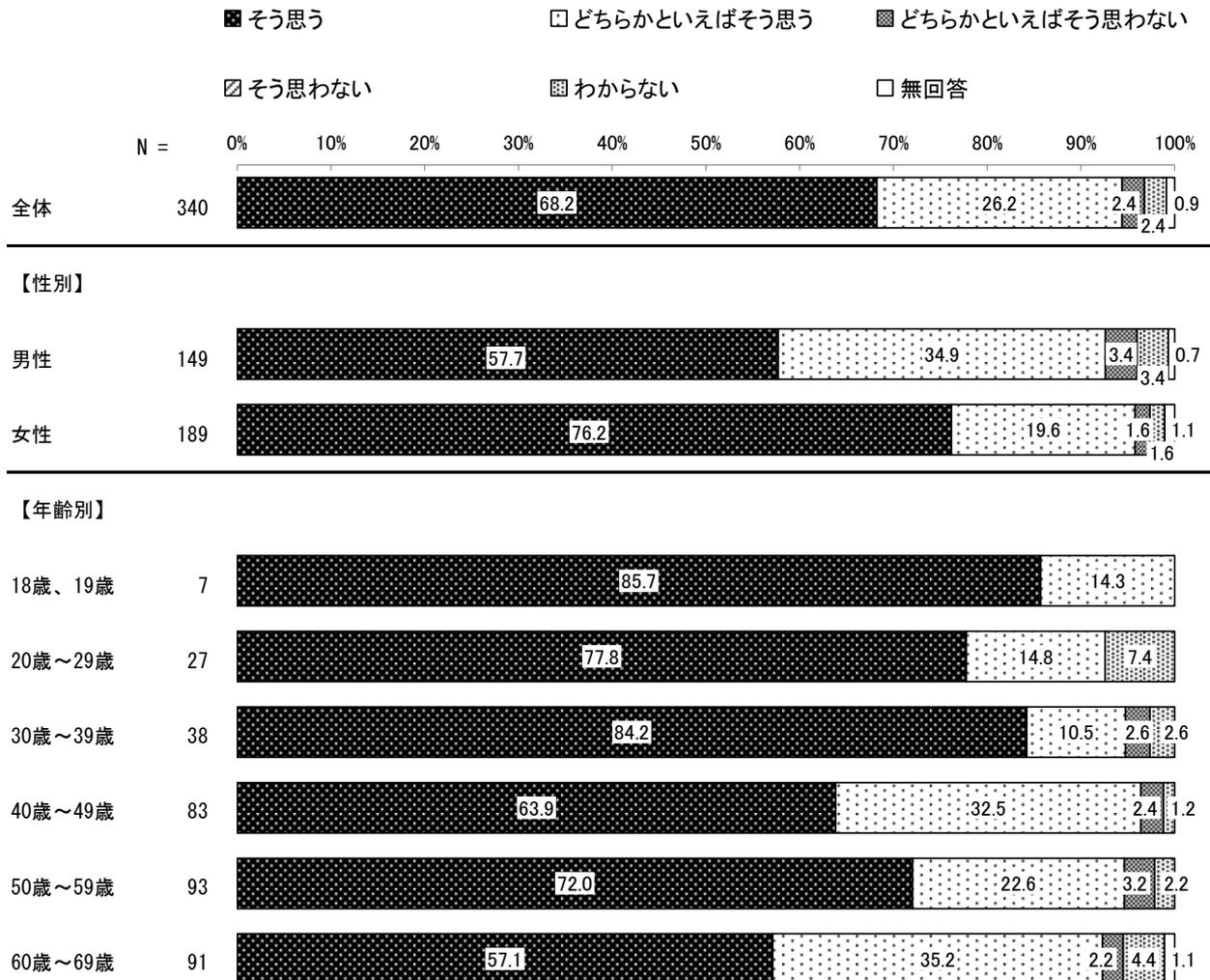


④親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用しても良い

『肯定的』94.4% > 『否定的』4.8%

男女ともに「そう思う」が最も高い

「親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよい」という考えについては、性別で見ると、男女ともに「そう思う」が最も高く、男性では57.7%であるのに対し、女性では76.2%であり、女性の方が18.5ポイント高くなっています。
年齢別で見ると、「そう思う」が、特に30代以下で高くなっています。



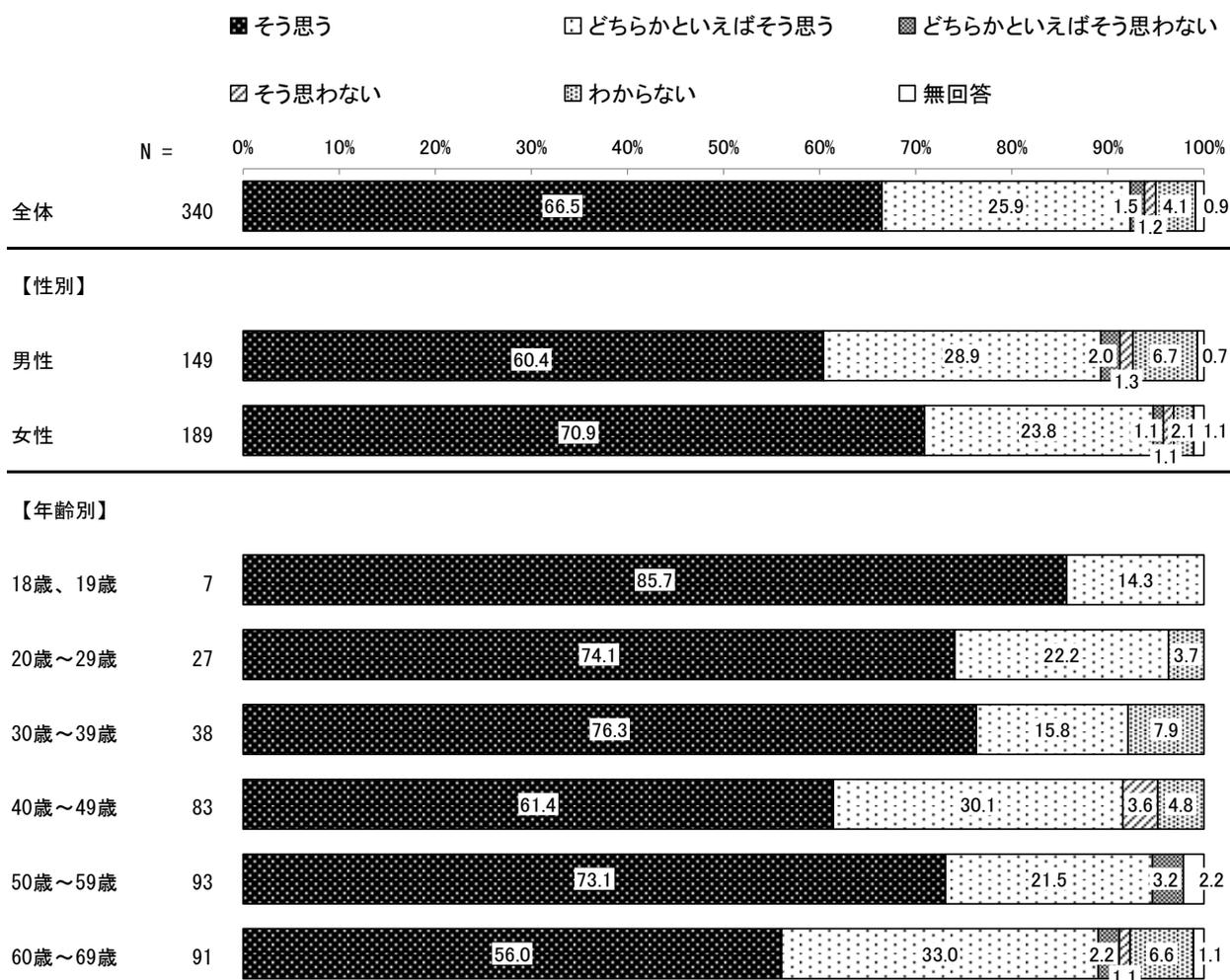
⑤子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばす方が良い

『肯定的』92.4% > 『否定的』2.7%

男女ともに「そう思う」が最も高い

「子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」という考えについては、性別で見ると、男女ともに「そう思う」が最も高く、男性では60.4%、女性では70.9%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「そう思う」が50%以上となっていますが、特に30代以下と50代で高くなっています。



⑥男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい

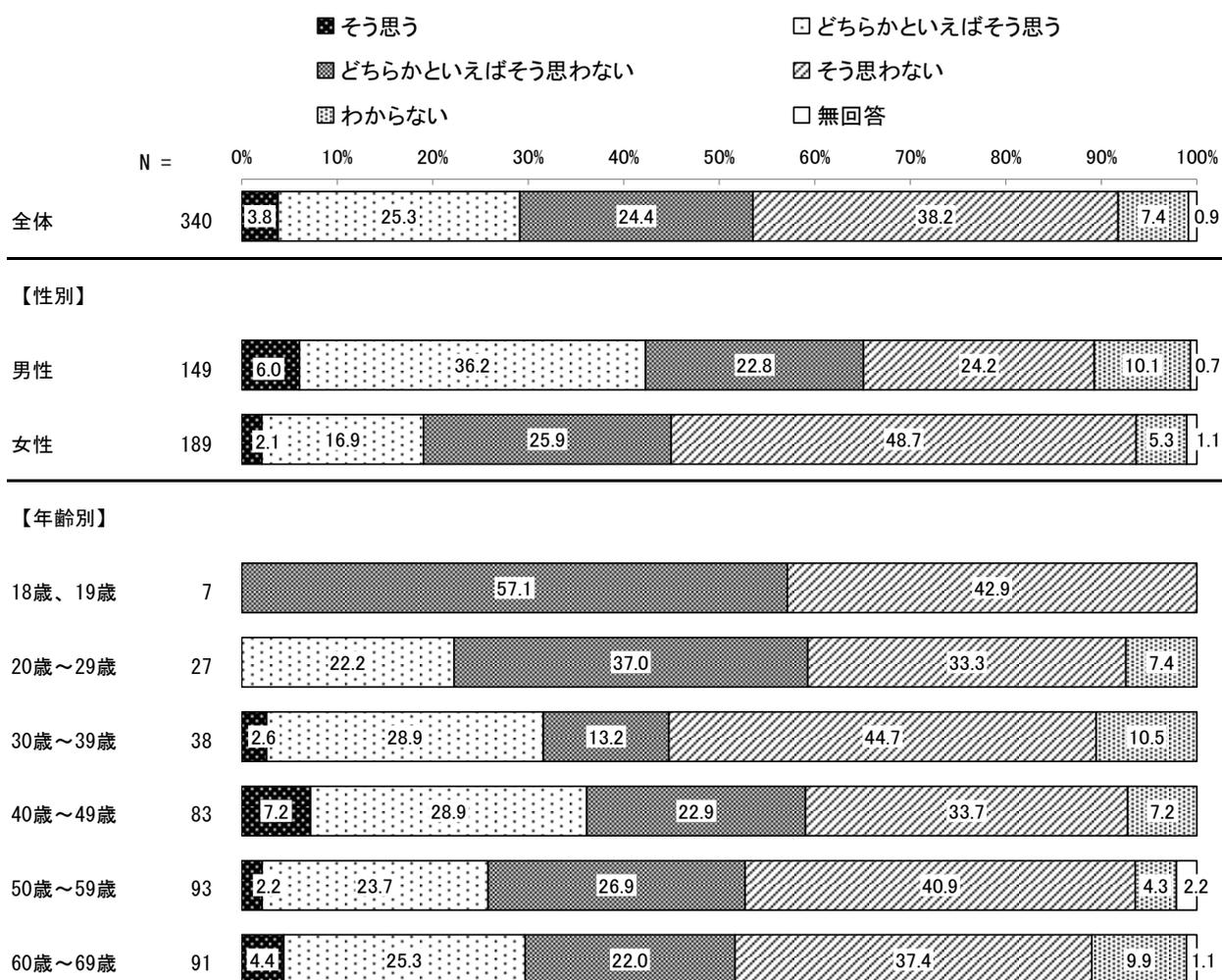
『肯定的』 29.1% < 『否定的』 62.6%

全体では「そう思わない」が最も高い

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」という考えについては、全体で見ると、「そう思わない」が38.2%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「どちらかといえばそう思う」が36.2%と最も高くなっていますが、女性では「そう思わない」が48.7%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『否定的』が高くなっていますが、特に20代で高くなっています。



【問7】結婚、家庭、離婚に対する考え方

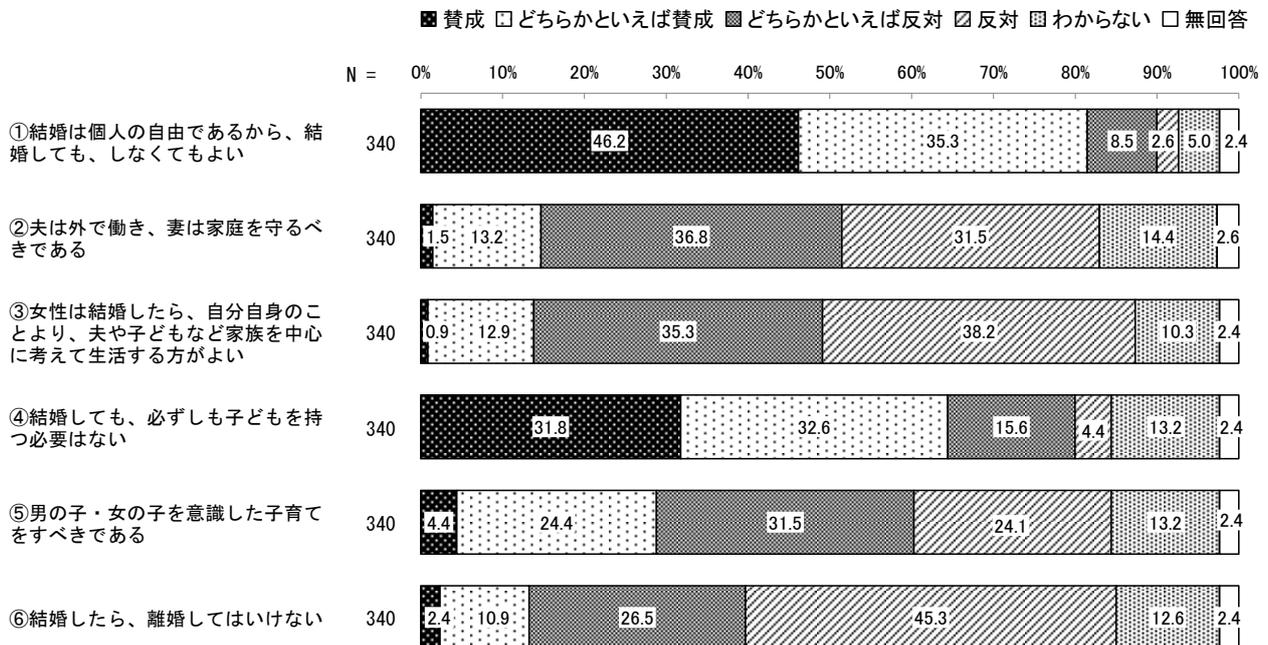
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」
 「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」が多い

結婚、家庭、離婚に対する考え方については、「賛成」と回答した割合は、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」が46.2%、「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」が31.8%と高くなっています。また、「反対」は「結婚したら、離婚してはいけない」が45.3%と最も高くなっています。

※問7の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。
 『肯定的』・・・「賛成」+「どちらかといえば賛成」
 『否定的』・・・「反対」+「どちらかといえば反対」

問7 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見を伺います。

それぞれあてはまるものを選んでください。(①～⑥それぞれ〇は1つずつ)



「結婚について」

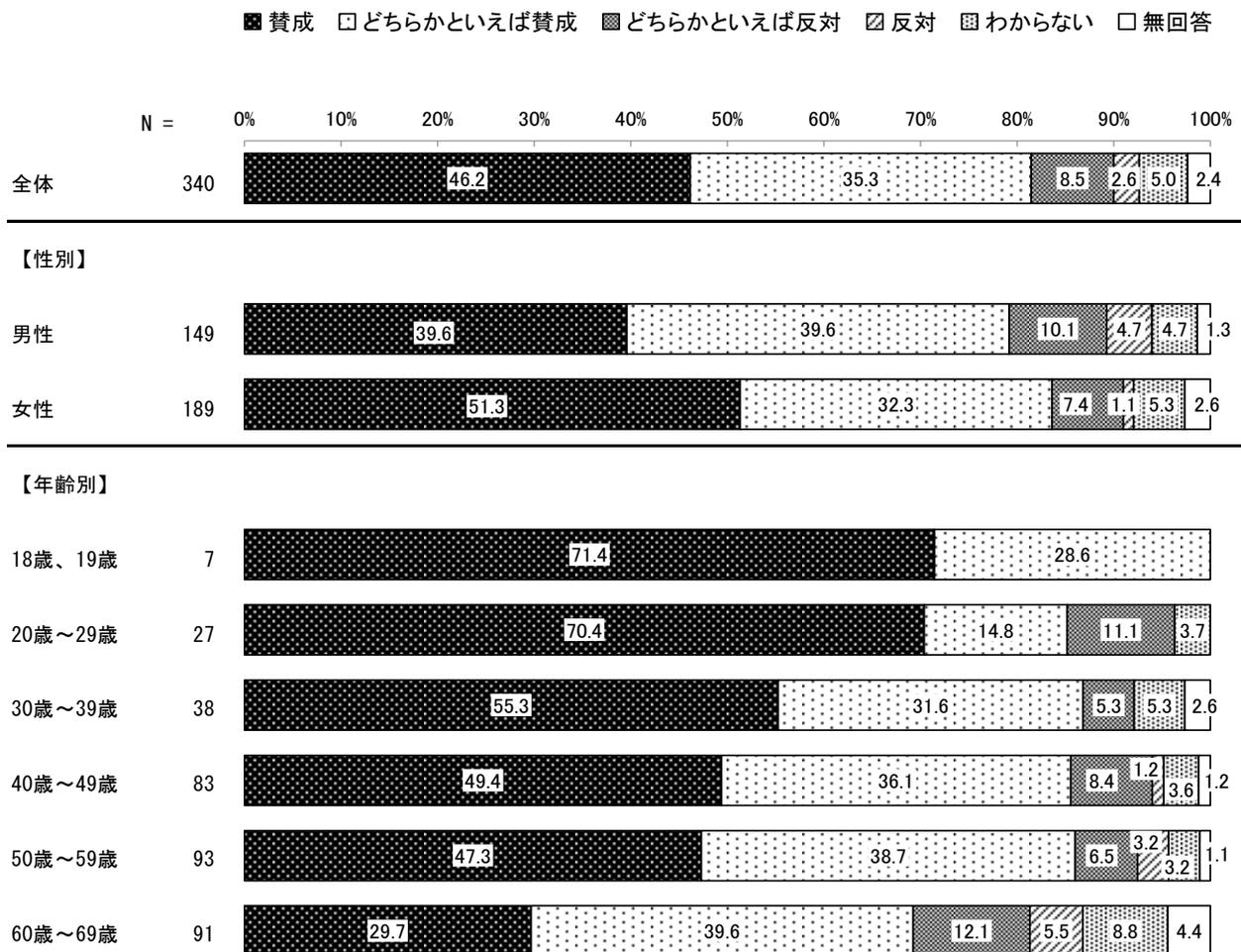
①結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい

『肯定的』 81.5% > 『否定的』 11.1%

全体では「賛成」が最も高い

「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」という考えについては、性別で見ると、男女ともに『肯定的』が最も高く、男性では79.2%、女性では83.6%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『肯定的』が最も高くなっています。また、年代が低くなるにつれ「賛成」が高くなっています。



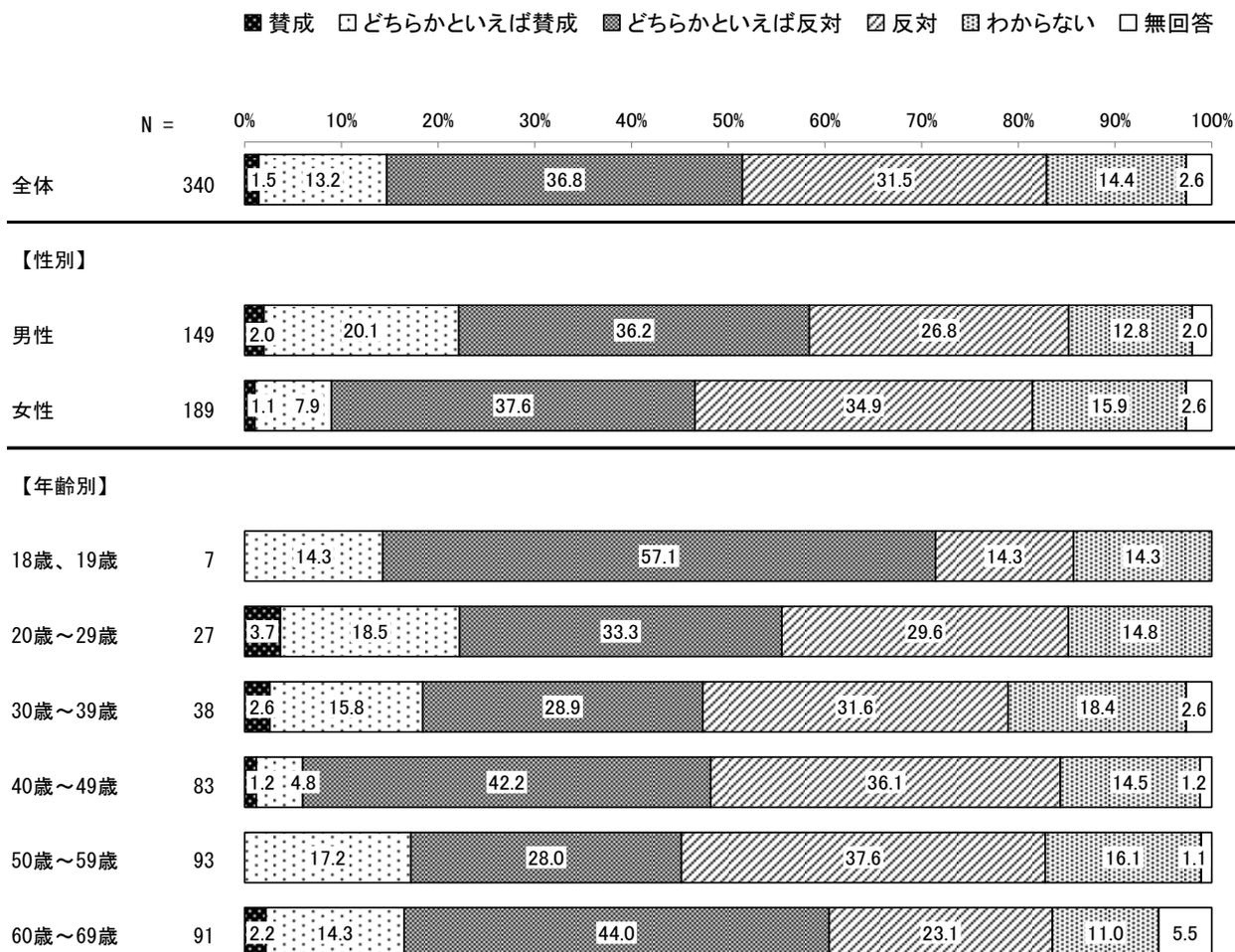
「家庭について」

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

『肯定的』 14.7% < 『否定的』 68.3%
男女ともに「どちらかといえば反対」が最も高い

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについては、性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば反対」が最も高く、男性では36.2%、女性では37.6%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『否定的』が高くなっており、特に40代では78.3%と高くなっています。



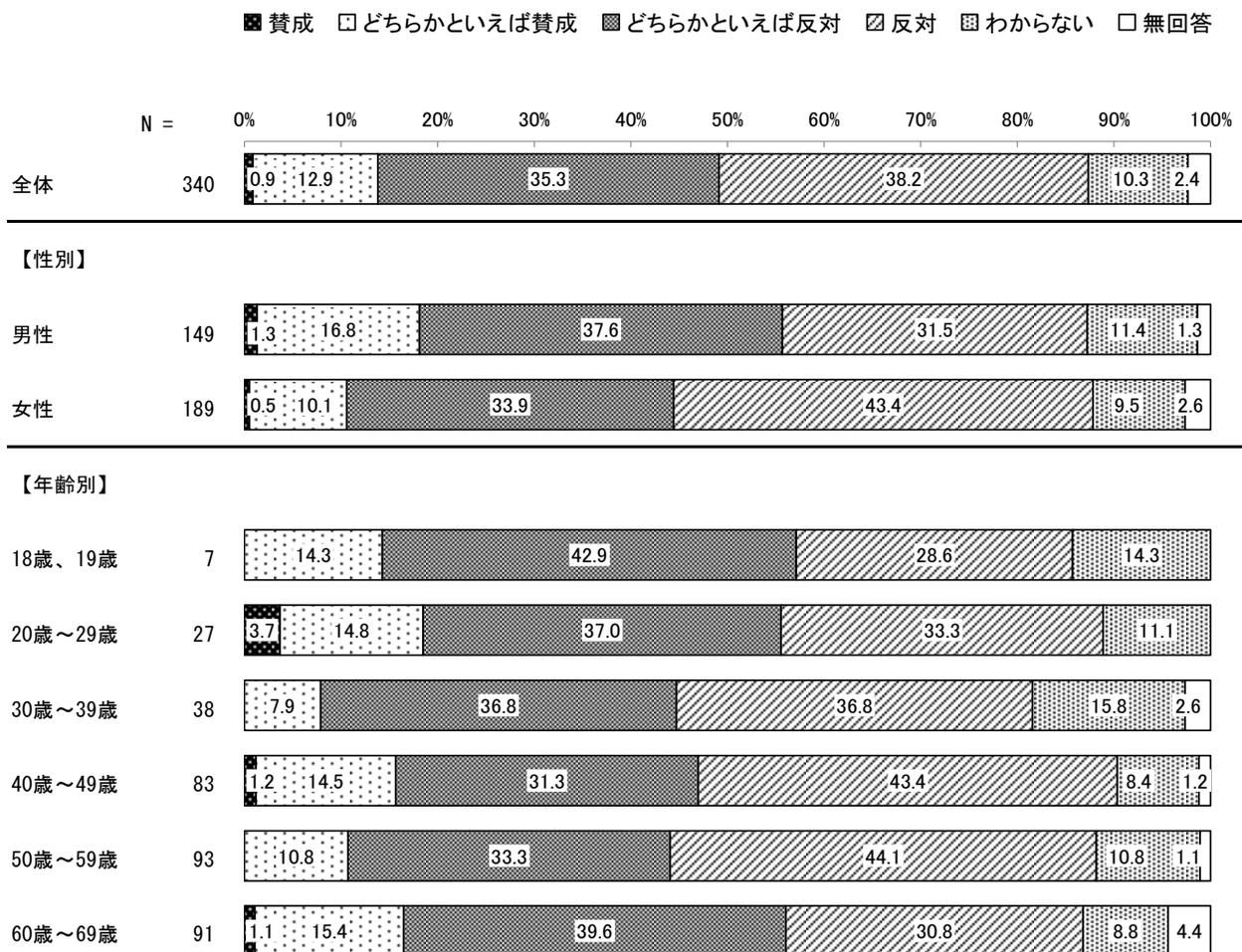
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい

『肯定的』 13.8% < 『否定的』 73.5%

全体では「反対」が最も高い

「女性に結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」という考えについては、性別で見ると、男性では「どちらかといえば反対」が37.6%と最も高くなっていますが、女性では「反対」が43.4%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『否定的』が70%以上と高くなっています。



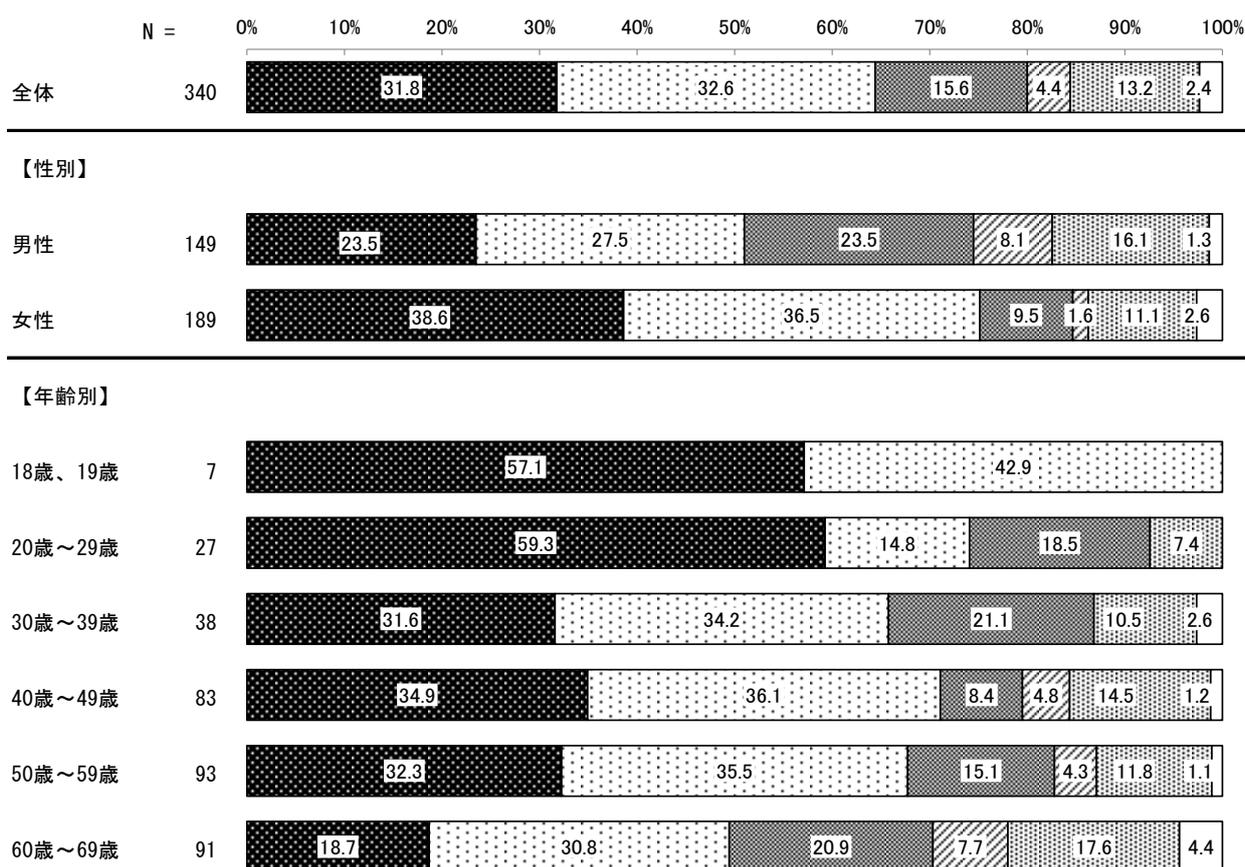
④結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

『肯定的』64.4% > 『否定的』20.0%
 全体では「どちらかといえば賛成」が最も高い

「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えについては、性別で見ると、男性では「どちらかといえば賛成」が27.5%と最も高くなっていますが、女性では「賛成」が38.6%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『肯定的』が高くなっており、特に20代では74.1%と高くなっています。なお、60代が最も低くなっており、20代より24.6ポイント低くなっています。

■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ▨ 反対 □ わからない □ 無回答



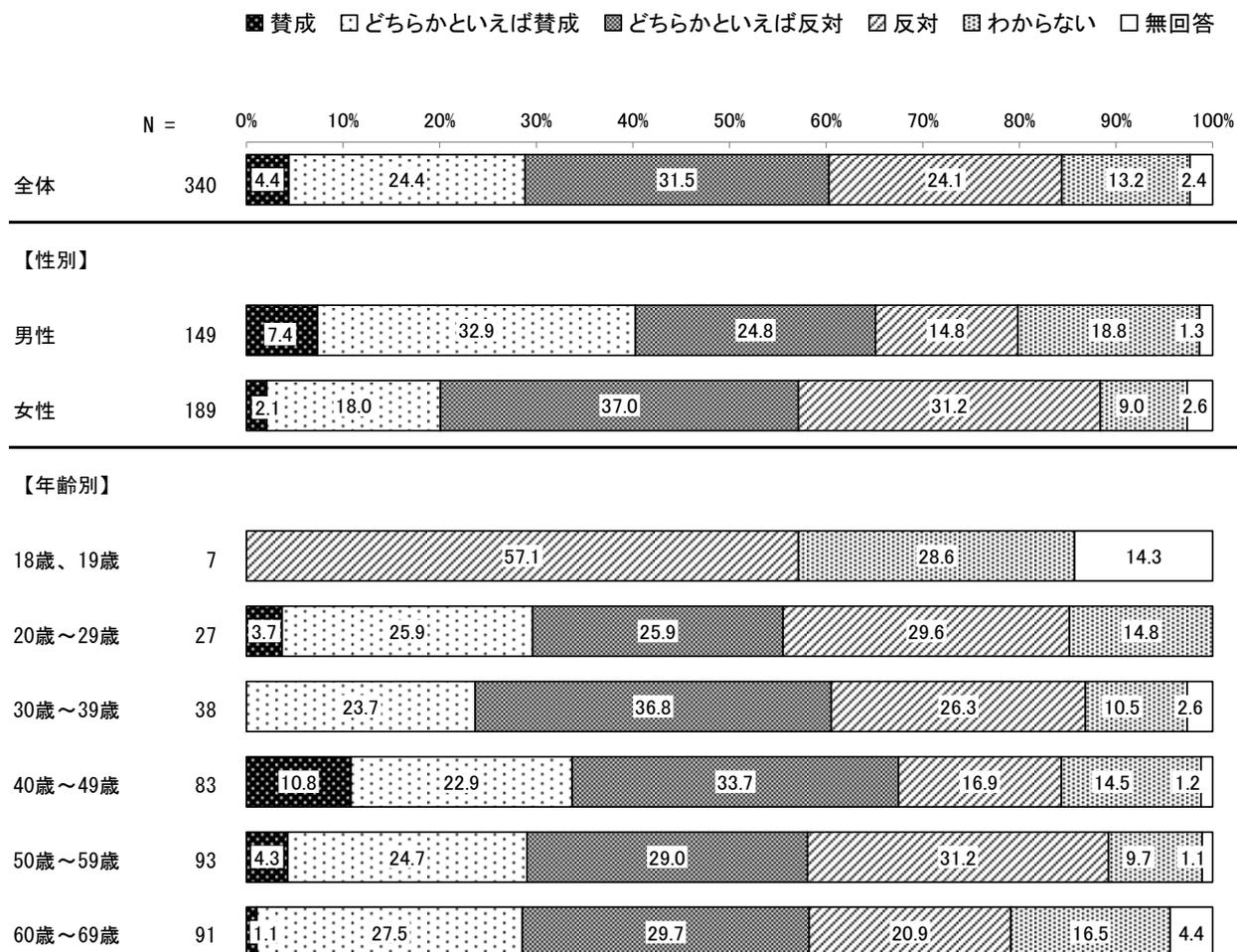
⑤男の子・女の子を意識した子育てをすべきである

『肯定的』 28.8% < 『否定的』 55.6%

男性では「どちらかといえば賛成」、女性では「どちらかといえば反対」が最も高い

「男の子・女の子を意識した子育てをすべきである」という考えについては、性別で見ると、男性では「どちらかといえば賛成」が32.9%と最も高くなっていますが、女性では「どちらかといえば反対」が37%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『否定的』が高くなっており、30代が63.1%と最も高く、次に50代が60.2%と高くなっています。



「離婚について」

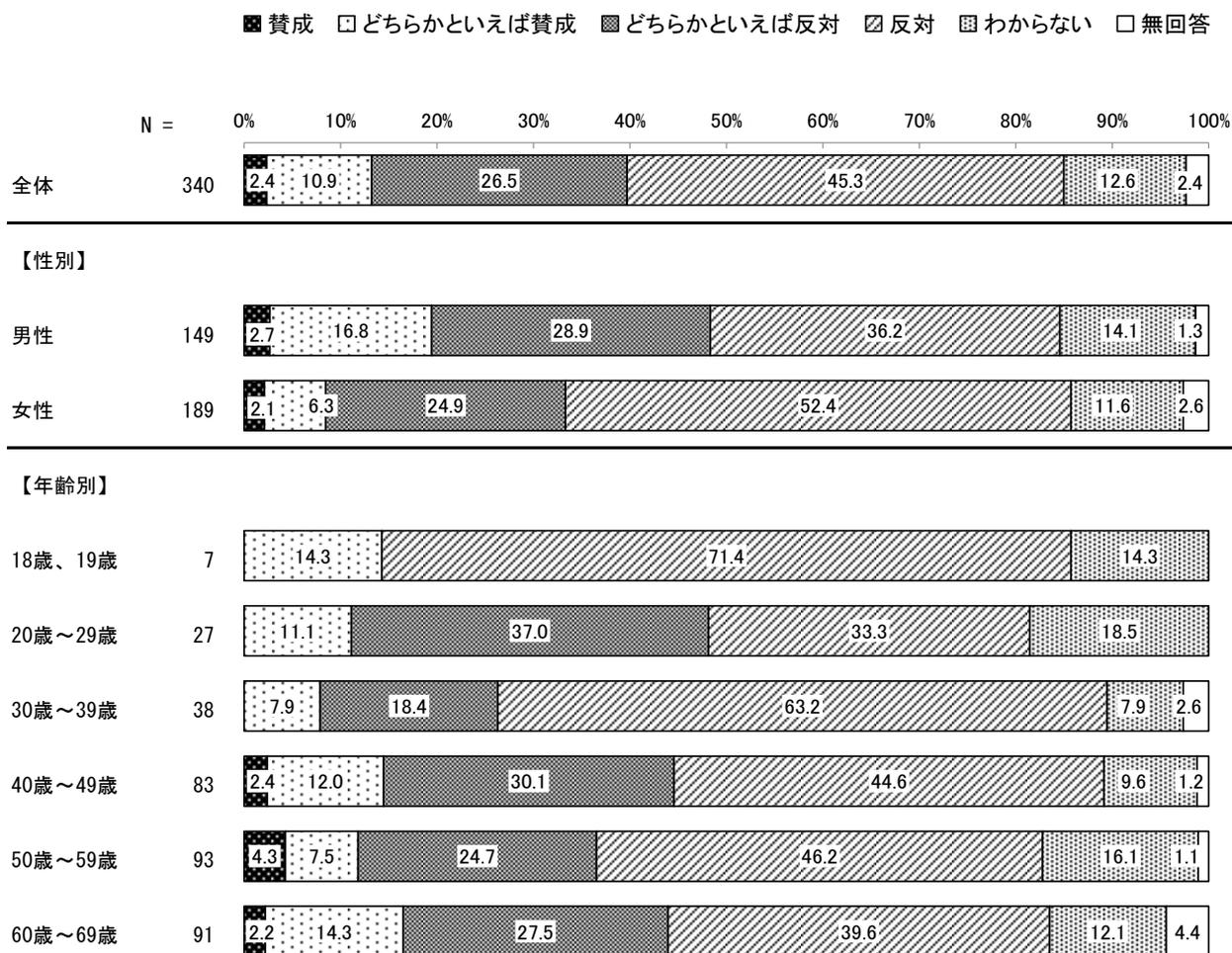
⑥結婚したら、離婚してはいけない

『肯定的』 13.3% < 『否定的』 71.8%

男女ともに「反対」が最も高い

「結婚したら、離婚してはいけない」という考えについては、性別で見ると、「反対」が、男性では36.2%であるのに対し、女性では52.4%と男性より16.2ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も『否定的』が高くなっており、30代が81.6%と最も高く、次に40代が74.7%と高くなっています。



【問8】 家庭における役割分担

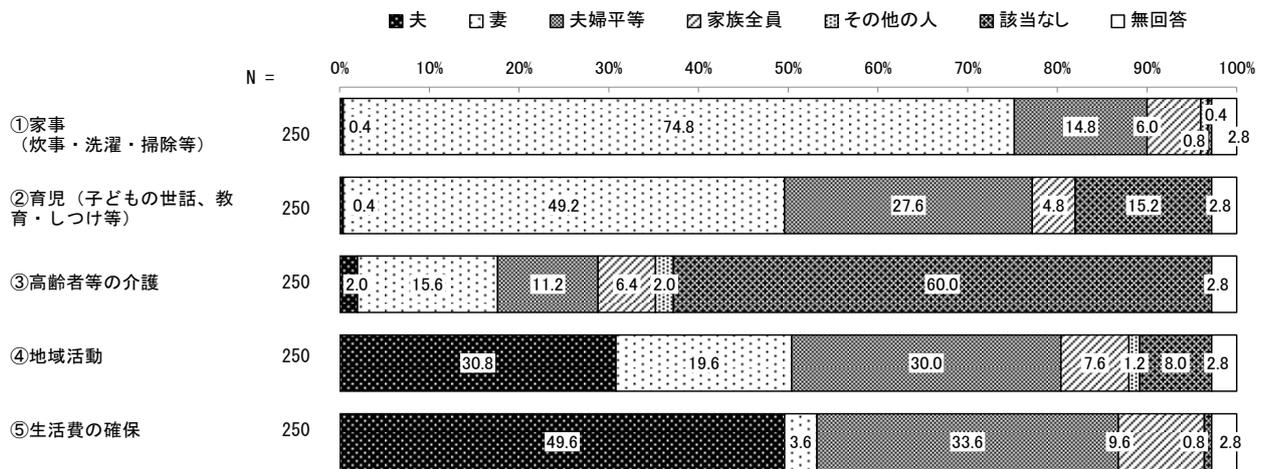
**「家事」「育児」は「妻」
「生活費の確保」は「夫」**

家庭における役割分担については、妻が主に担っている役割が、炊事・洗濯・掃除等の「家事」（74.8%）と、子どもの世話・しつけ等の「育児」（49.2%）、夫が主に担っている役割が「生活費の確保」（49.6%）となっています。

また、「育児」「地域活動」「生活費の確保」に関しては、夫婦平等で担っている家庭が30%程度となっています。

<配偶者がいる方（婚姻届を出していない事実婚を含む。）のみ回答>

問8 あなたの家庭では、次の①から⑤のことについて、主として誰が行っていますか。
それぞれあてはまるものを選んでください。（①～⑤それぞれ〇は1つずつ）



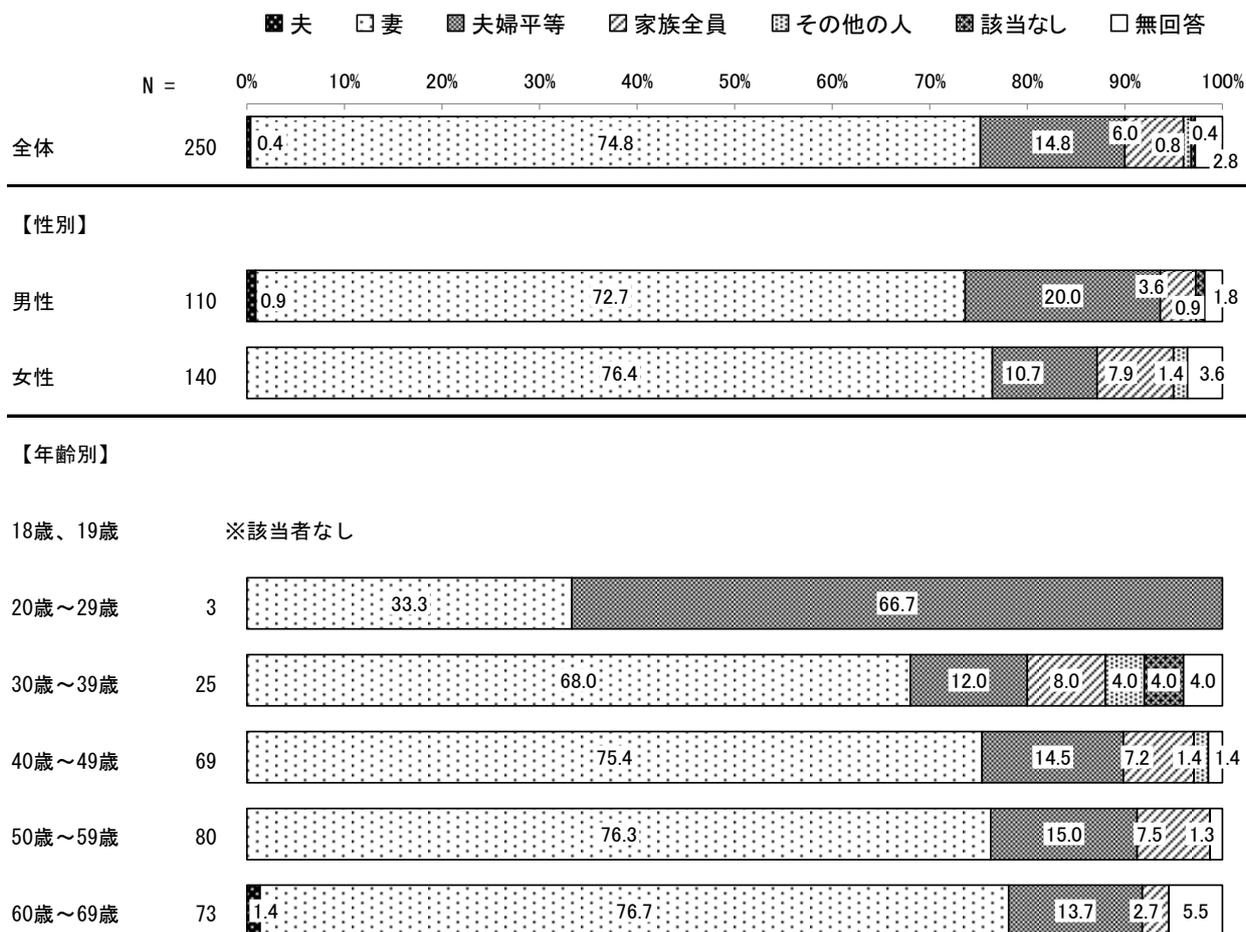
①家事（炊事・洗濯・掃除等）

「妻」74.8% > 「夫婦平等」14.8% > 「夫」0.4%

炊事・洗濯・掃除等の「家事」については、主に「妻」が担っている家庭が74.8%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「妻」が72.7%であるのに対して、女性では76.4%と男性より3.7ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「妻」が60%以上と高くなっています。



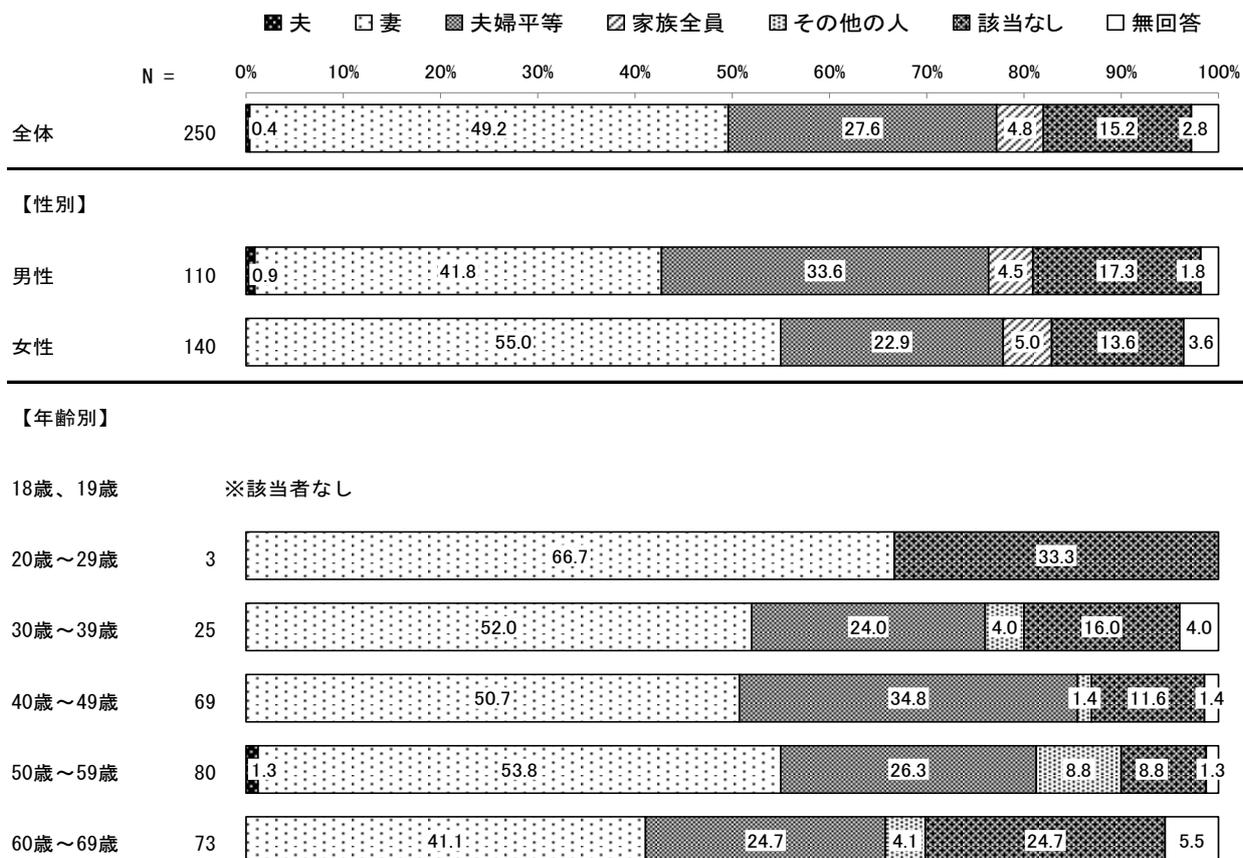
②育児（子どもの世話、教育・しつけ等）

「妻」49.2% > 「夫婦平等」27.6% > 「夫」0.4%

子どもの世話、教育・しつけ等の「育児」については、主に「妻」が担っている家庭が49.2%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「妻」が41.8%であるのに対して、女性では55.0%と男性より13.2ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「妻」が高くなっており、50代以下は50%以上と高くなっています。



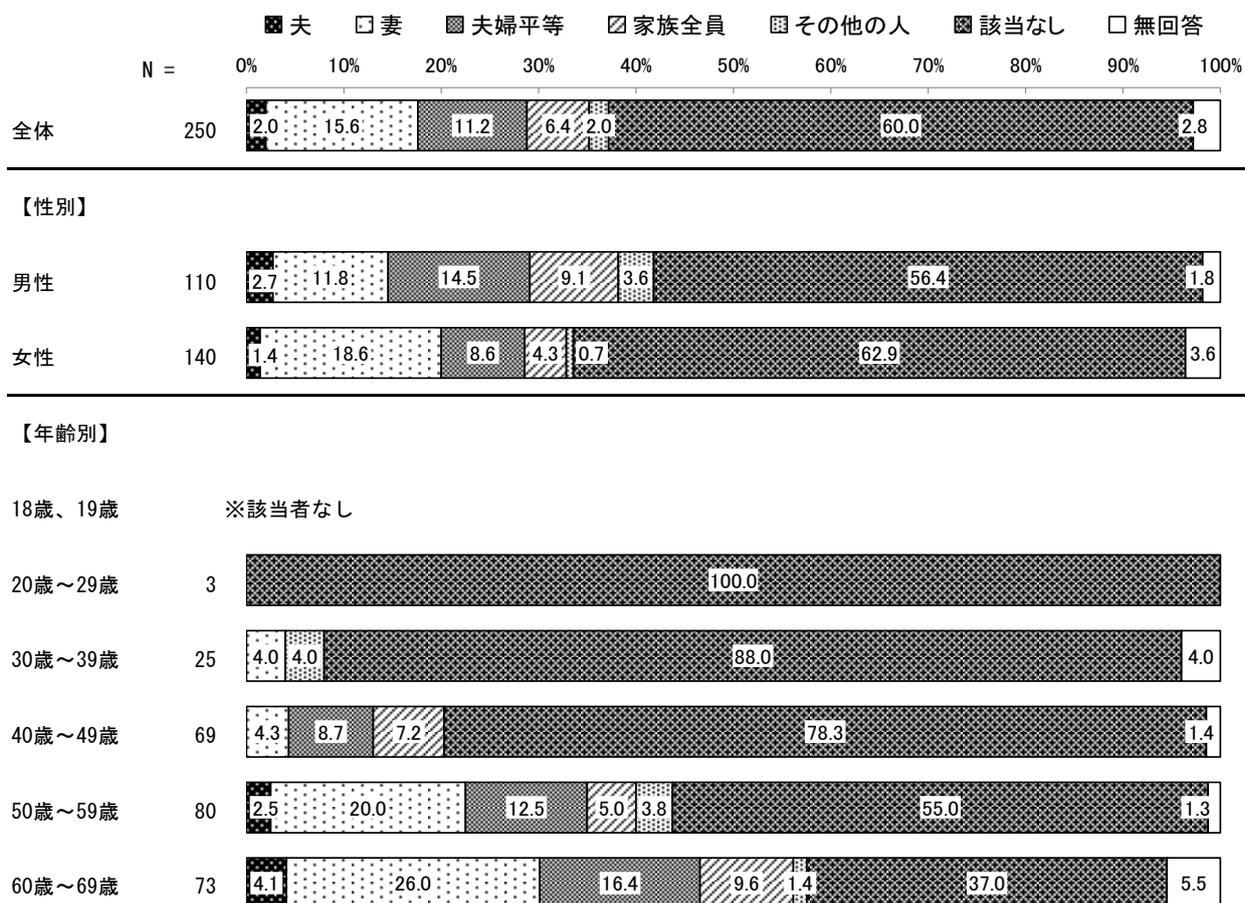
③高齢者等の介護

「妻」15.6% > 「夫婦平等」11.2% > 「夫」2.0%

高齢者等の「介護」については、主に「妻」が担っている家庭が15.6%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「妻」が11.8%であるのに対して、女性では18.6%と男性より6.8ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、50代以上では「妻」が20%以上と高くなっています。



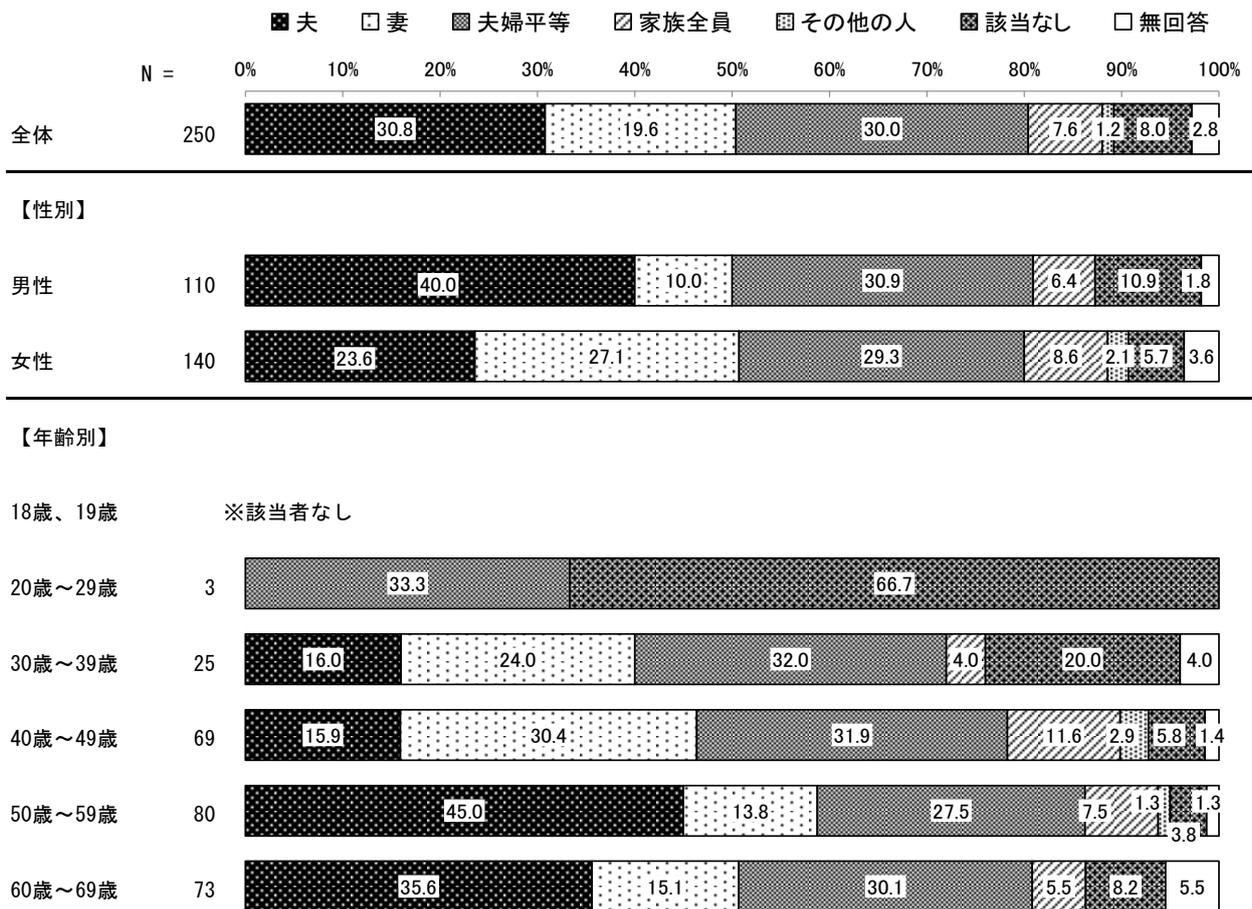
④地域活動

「夫」 30.8% ≧ 「夫婦平等」 30.0% > 「妻」 19.6%

「地域活動」については、主に「夫」が担っている家庭が30.8%と最も高くなっていますが、「夫婦平等」も30.0%とほぼ同じ割合となっています。

性別で見ると、男性では「夫」が40.0%であるのに対して、女性では23.6%と男性より16.4ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、20代から40代までは「夫婦平等」が最も高くなっていますが、50代と60代では「夫」が最も高くなっています。



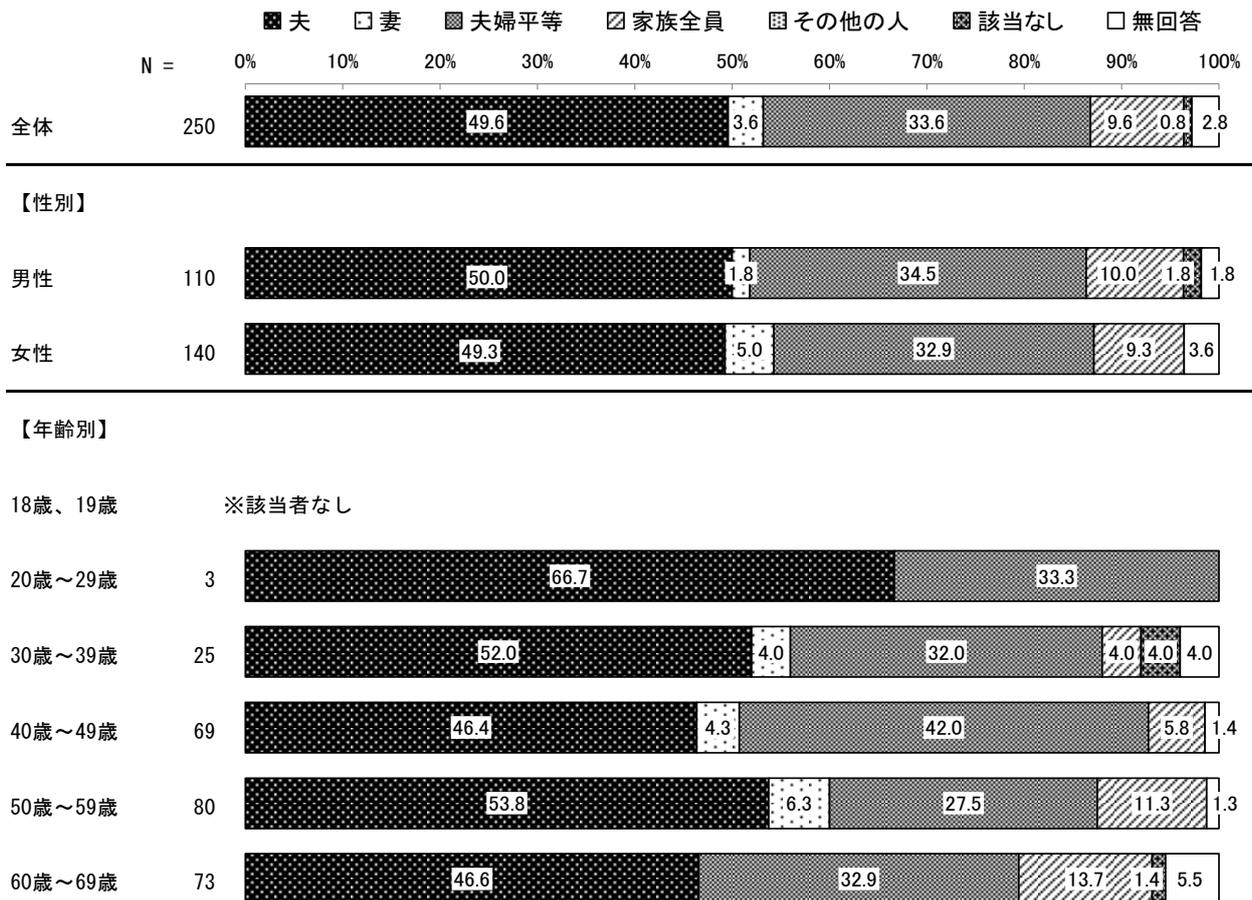
⑤生活費の確保

「夫」49.6% > 「夫婦平等」33.6% > 「妻」3.6%

「生活費の確保」については、主に「夫」が担っている家庭が49.6%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「夫」が50.0%、女性では49.3%とほぼ同じ割合となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も主に「夫」が高くなっていますが、40代では「夫」が46.4%、「夫婦平等」が42%と、ほぼ同じ割合となっています。



【問8-2】家事・育児・介護に携わる時間

勤務日は「1時間以上3時間未満」が最も高い
 勤務日以外の日は「5時間以上」が最も高い

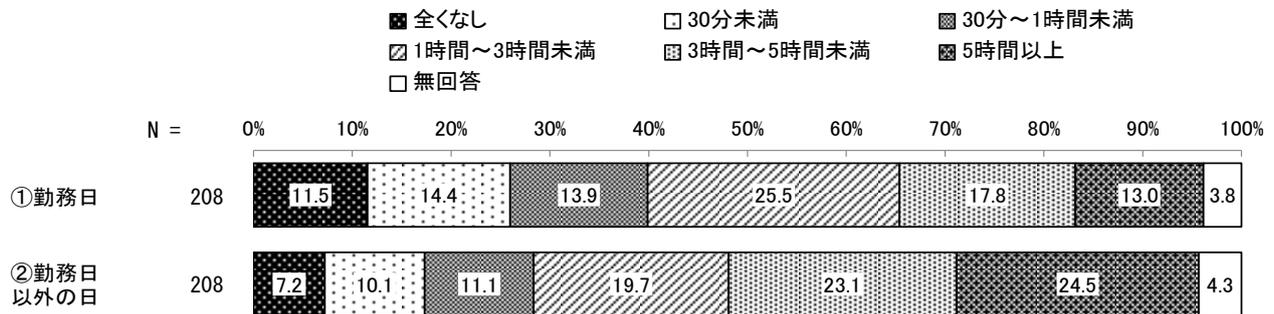
家事・育児・介護に携わる時間については、勤務日は「1時間以上3時間未満」が最も高く、25.5%となっています。
 また、勤務日以外の日は「5時間以上」が最も高く、24.5%となっています。

<配偶者がいる方（婚姻届を出していない事実婚を含む。）で、現在職業に就いている方のみ回答>

問8-2 あなたが家事・育児・介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。

勤務日と勤務日以外の日について、それぞれあてはまるものを選んでください。

(①②それぞれ〇は1つずつ)



①勤務日

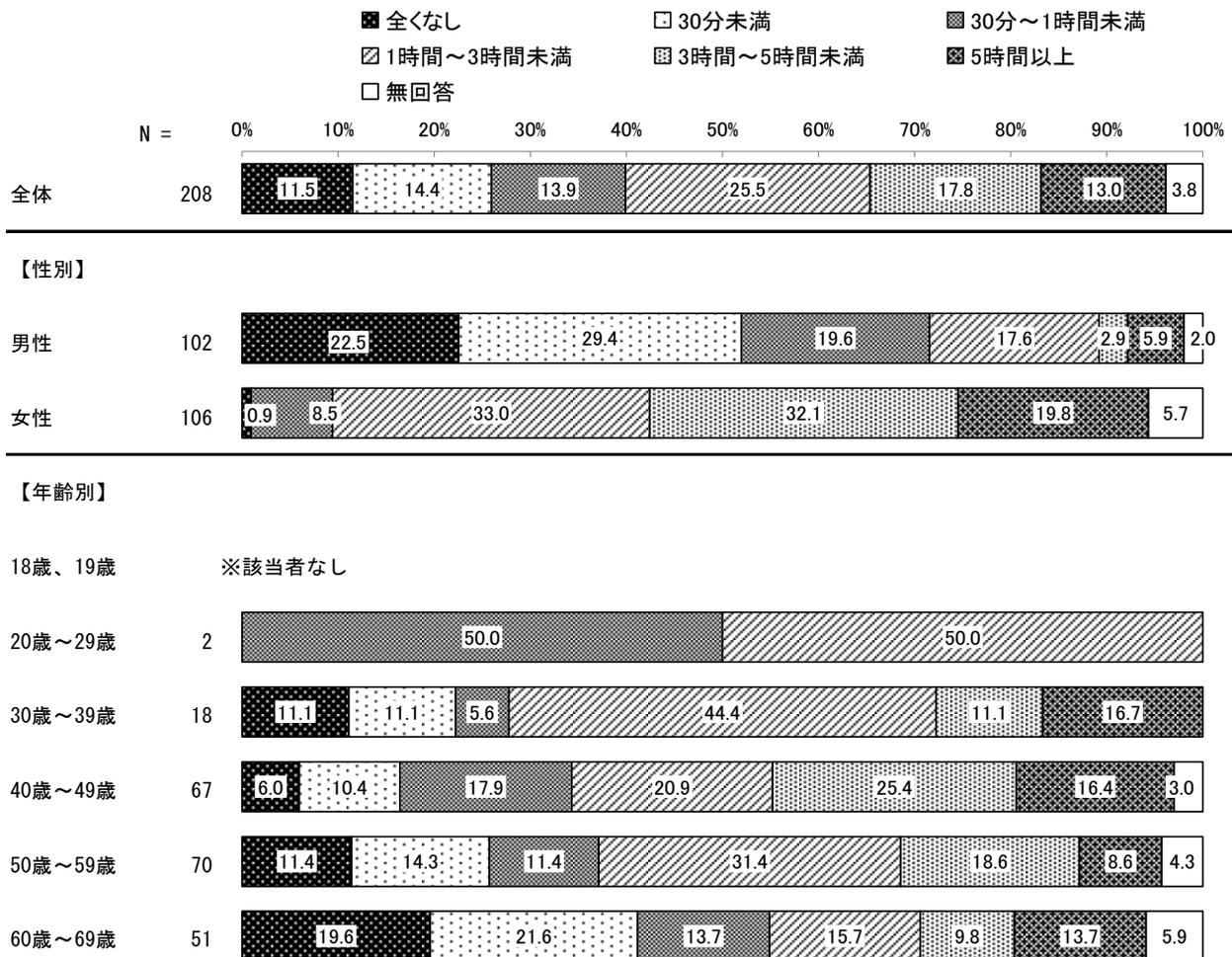
男性では「30分未満」が最も高い

女性では「1時間以上3時間未満」が最も高い

勤務日については、全体で見ると「1時間以上3時間未満」が25.5%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「30分未満」が29.4%、女性では「1時間以上3時間未満」が33.0%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、30代と50代では「1時間以上3時間未満」、40代では「3時間以上5時間未満」、60代では「30分未満」が最も高くなっています。



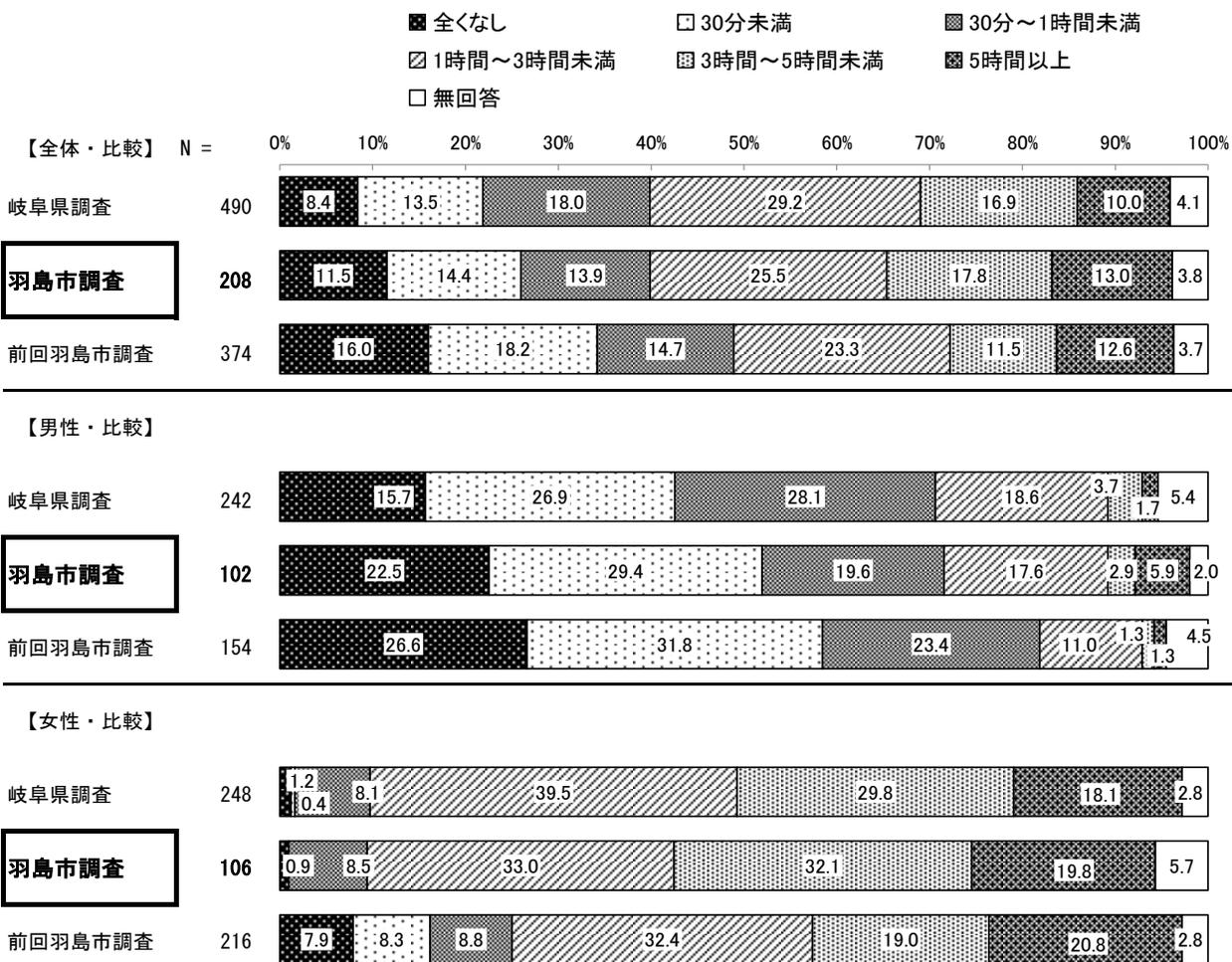
参考：県調査、前回調査との比較（勤務日の家事・育児・介護に携わる時間）

<県調査との比較>

全体で見ると、市調査と同様に「1時間以上3時間未満」が最も高くなっています。

<前回調査（市）との比較>

前回調査においても「1時間以上3時間未満」が最も高くなっていましたが、今回は2.2ポイント増加しています。



※前回羽島市調査については「勤務日」ではなく「平日」

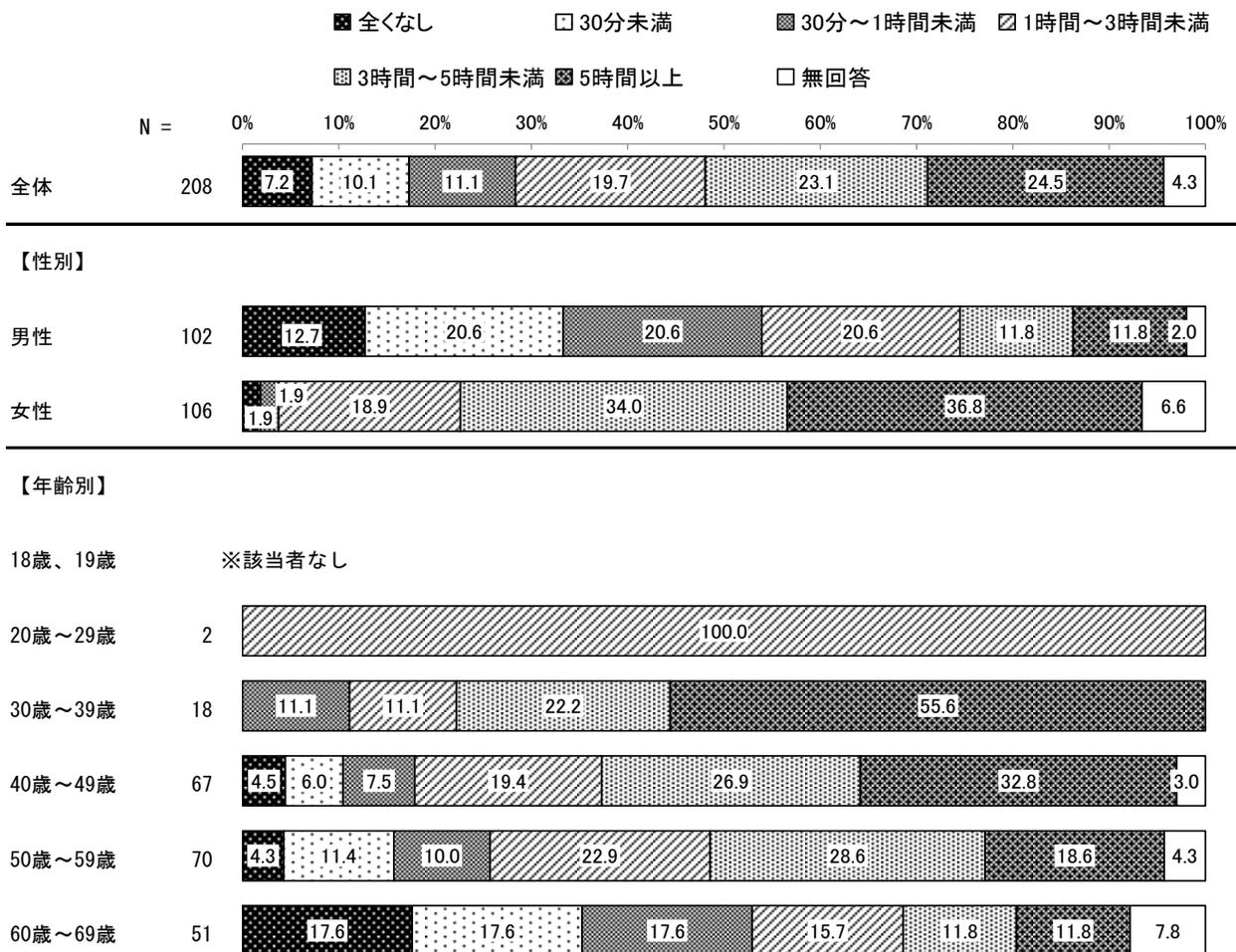
②勤務日以外の日

**男性は「30分未満」「30分以上1時間未満」「1時間以上3時間未満」が高い
女性は「5時間以上」が最も高い**

勤務日以外の日については、全体で見ると「5時間以上」が24.5%が最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「30分未満」「30分以上1時間未満」「1時間以上3時間未満」が同じ割合で20.6%と最も高く、女性では「5時間以上」が36.8%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、30代と40代では「5時間以上」、50代では「3時間以上5時間未満」が最も高くなっています。60代では1時間未満が50%以上となっています。



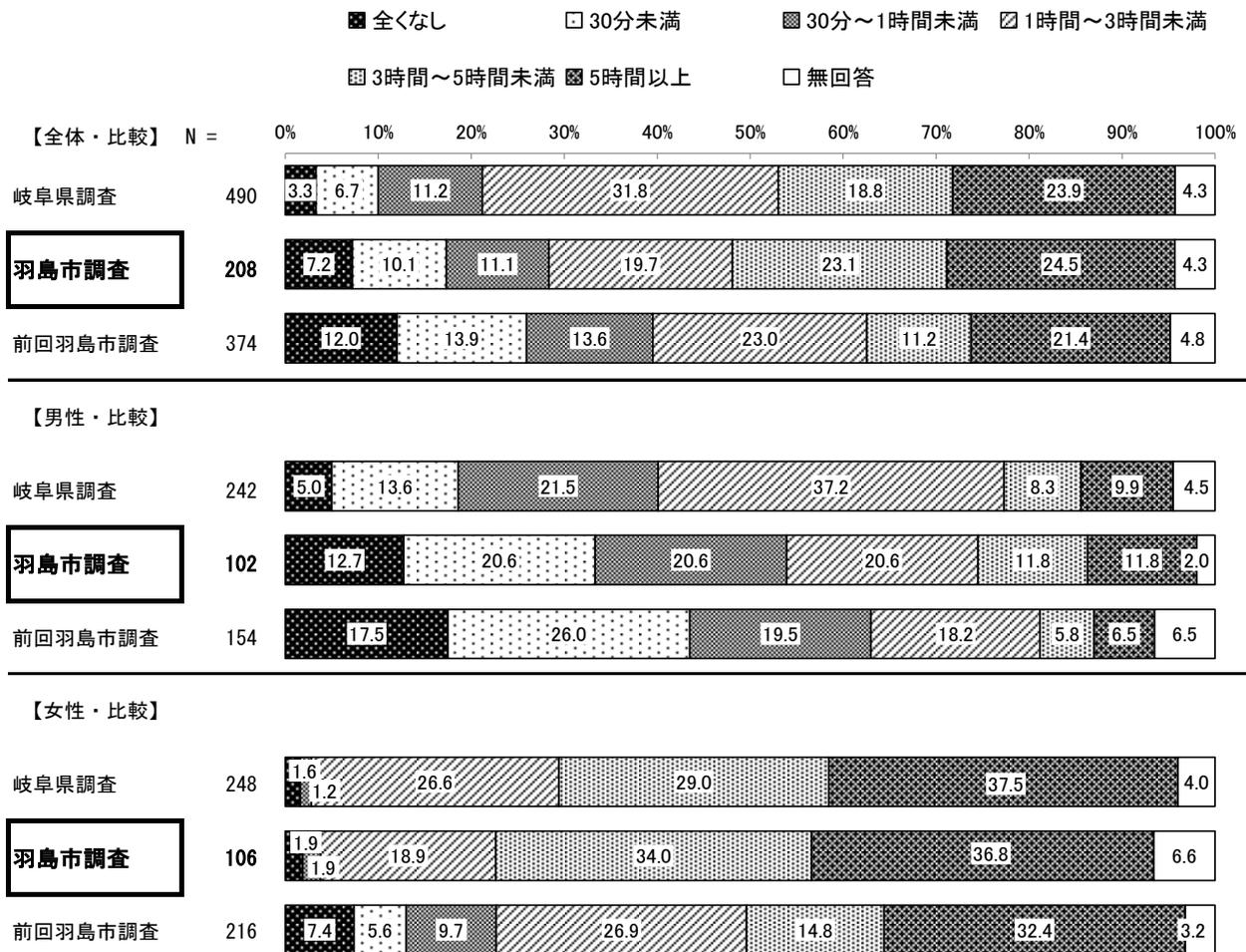
参考：県調査、前回調査との比較（勤務日以外の日の家事・育児・介護に携わる時間）

＜県調査との比較＞

全体でみると、県調査は「1時間以上3時間未満」、市調査では「5時間以上」が最も高くなっています。

＜前回調査（市）との比較＞

前回調査においては、「1時間以上3時間未満」が最も高くなっていましたが、今回は「5時間以上」が最も高くなっています。



※前回羽島市調査については「勤務日以外」ではなく「休日」

3 就労・働き方について

【問9】生活の優先度

理想の生活は「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立」が最も高い

実際の生活は「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が最も高い

生活の優先度については、全体では、理想の生活は「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立」が38.2%、実際の生活は「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が41.2%で最も高くなっています。

性別で見ると、男性は、理想の生活と実際の生活ともに仕事を優先する傾向にあります。女性は、仕事との両立を理想としていますが実際には仕事を優先する生活となっています。

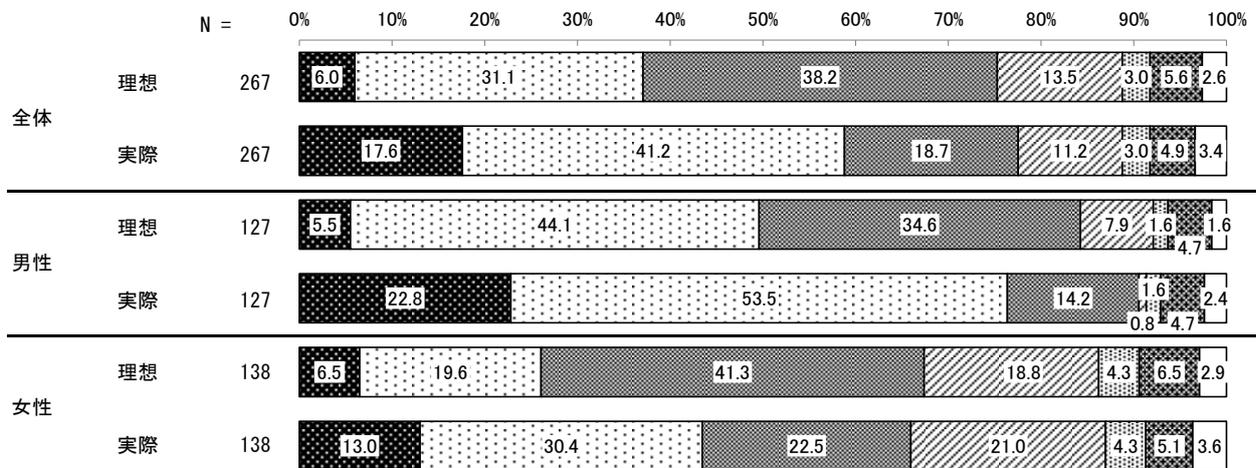
『理想』・・・問の中では「希望」と表現しています
『実際』・・・問の中では「現在の状況」と表現しています

<現在、職業に就いている方のみ回答>

問9 あなたの働き方について、希望に最も近いもの・現在の状況に最も近いものは次のどれですか。それぞれあてはまるものを選んでください。

(①②それぞれ〇は1つずつ)

- 家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念
- 家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先
- ▨ 家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立
- ▩ 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先
- ▧ 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念
- ▦ わからない
- 無回答



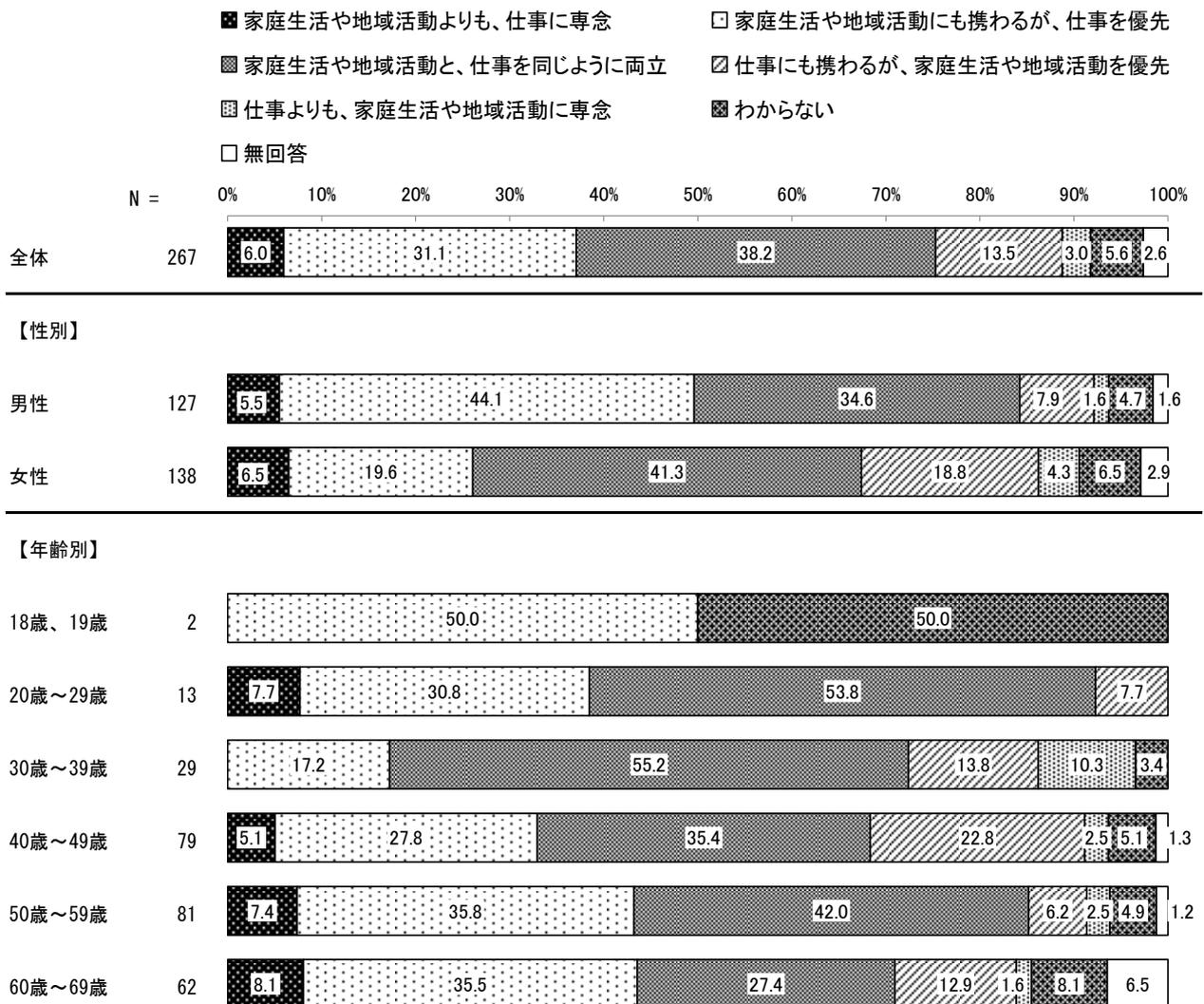
①希望に最も近いもの（理想）

男性は「家庭生活や地域活動にも携わるが仕事を優先」が最も高い
女性は「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立」が最も高い

理想の生活については、全体では「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立」が38.2%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が44.1%、女性では「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立」が41.3%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、20代から50代では「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立」が最も高くなっていますが、60代では「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が最も高くなっています。



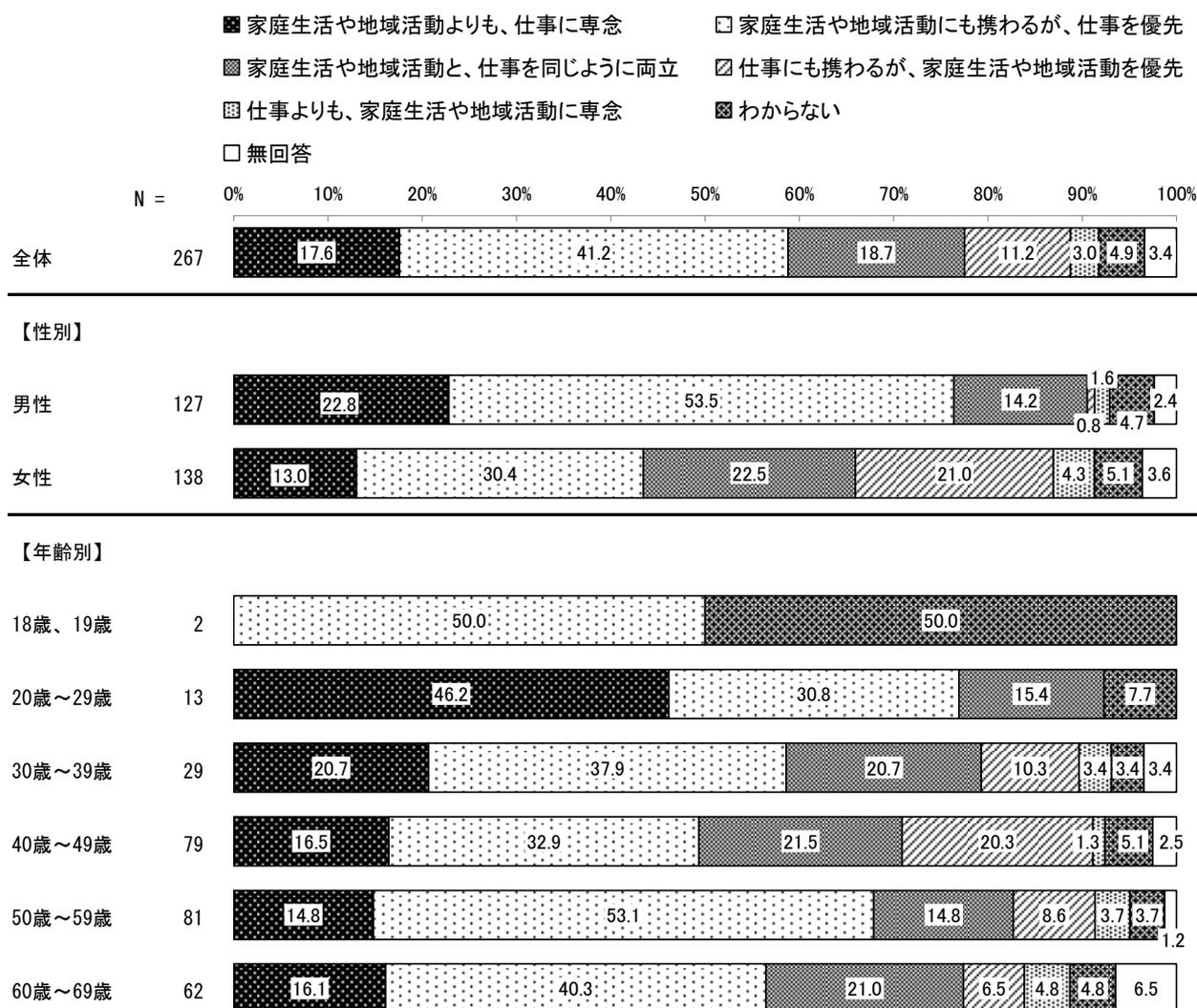
②現在の状況に最も近いもの（実際）

男女ともに「家庭生活や地域活動にも携わるが仕事を優先」が最も高い

実際の生活については、全体では「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が41.2%と最も高くなっています。

性別でも、男女ともに「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が最も高く、男性では53.5%、女性では30.4%となっています。

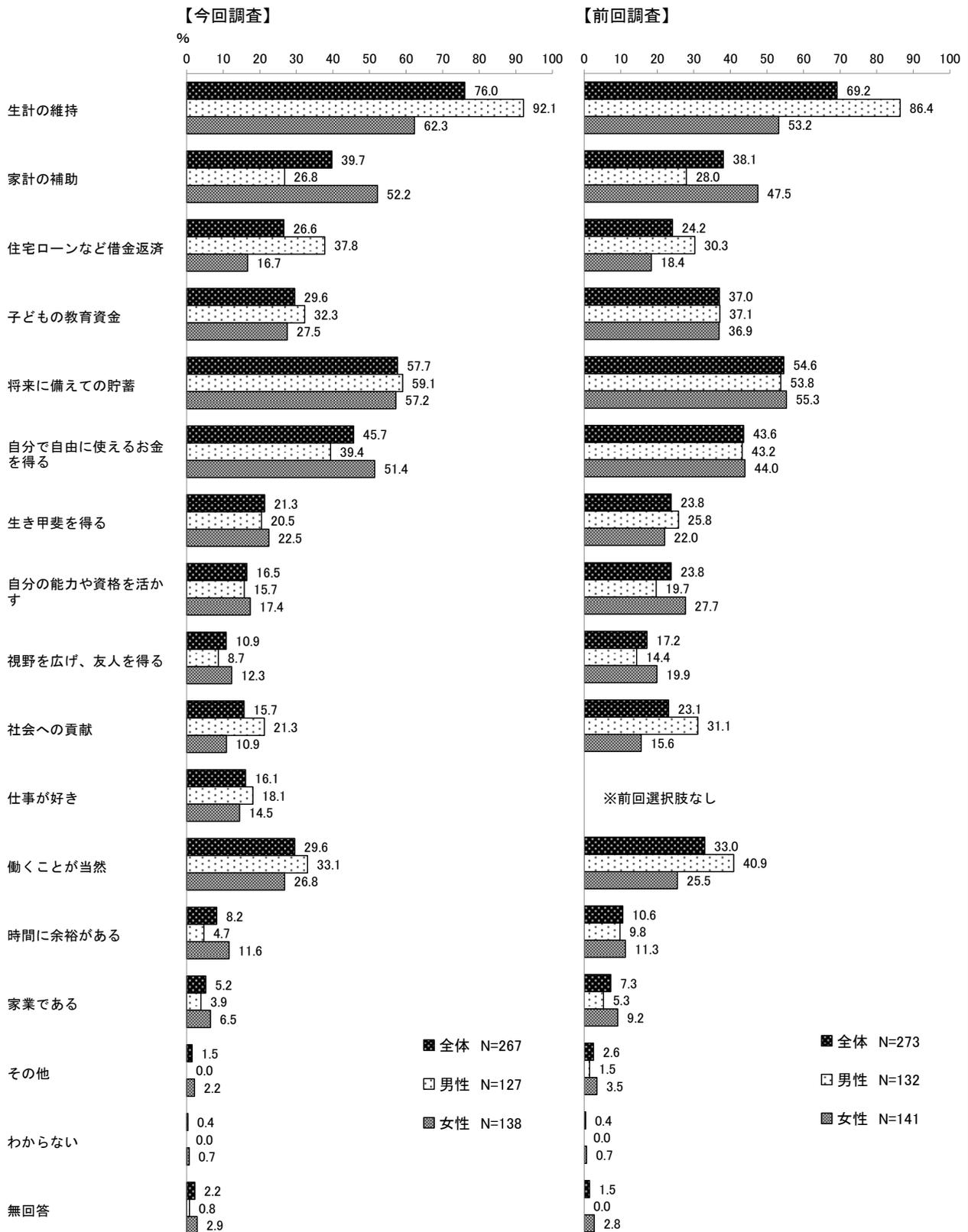
年齢別で見ると、20代では「家庭生活や地域活動よりも仕事に専念」が最も高くなっていますが、その他の年代では「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先」が最も高くなっています。



【問10】働いている理由

<現在、職業に就いている方のみ回答>

問10 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)



男女ともに「生計維持」が最も高い

働いている理由については、全体では「生計の維持」が76.0%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「生計の維持」が92.1%と最も高く、次に「将来に備えての貯蓄」が59.1%となっています。女性も同様に「生計の維持」が62.3%と最も高く、次に「将来に備えての貯蓄」57.2%となっています。

その他の回答

病気があるため、まず社会に出ることに慣れたい。

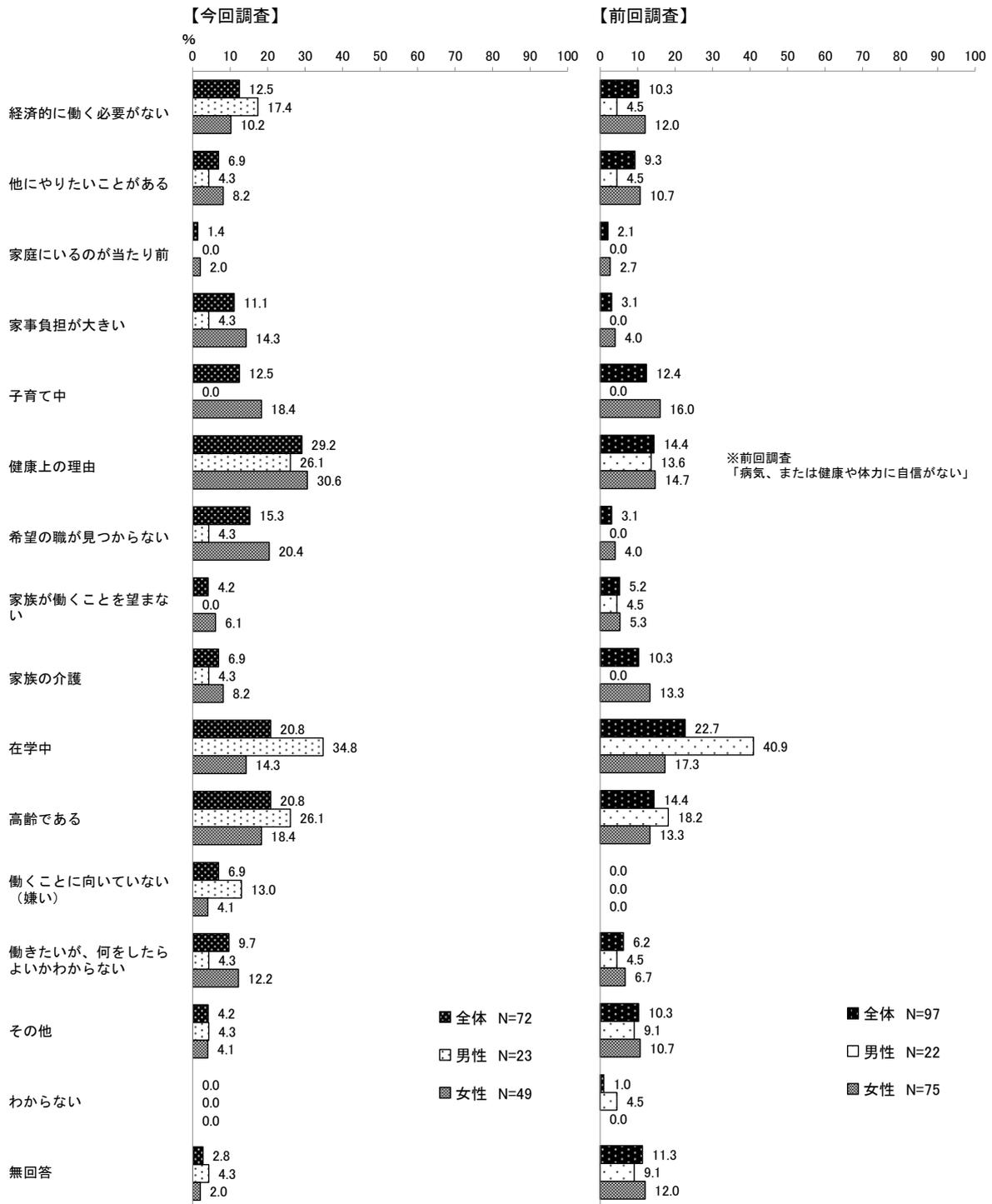
家にいるのが嫌だから。

キャリア継続のため。

【問11】働いていない理由

<現在、職業に就いていない方のみ回答>

問11 あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)



男性は「在学中」が最も高い

女性は「健康上の理由」が最も高い

働いていない理由については、全体では「健康上の理由」が29.2%と最も高くなっています。

性別でみると、男性では「在学中」が34.8%と最も高く、次に「健康上の理由」「高齢である」が同じ割合で26.1%と高くなっています。女性では「健康上の理由」が30.6%と最も高く、次に「希望の職が見つからない」が20.4%と高くなっています。

その他の回答

条件に合う子どもの預け先がない。

【年齢別】

	(N)																(%)
		回答数	経済的に働く必要がない	他にやりたいことがある	家庭にしているのが当たり前	家事負担が大きい	子育て中	健康上の理由	希望の職が見つからない	家族が働くことを望まない	家族の介護	在学中	高齢である	働くことに向いていない(嫌い)	働きたいが、何をしたらよいかわからない	その他	
全体	72	12.5	6.9	1.4	11.1	12.5	29.2	15.3	4.2	6.9	20.8	20.8	6.9	9.7	4.2	-	2.8
18歳、19歳	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
20歳～29歳	13	-	7.7	-	7.7	7.7	7.7	15.4	-	-	76.9	-	15.4	7.7	-	-	-
30歳～39歳	9	11.1	-	-	33.3	77.8	-	22.2	11.1	-	-	-	11.1	22.2	11.1	-	-
40歳～49歳	4	25.0	-	-	-	-	100.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	25.0	-	-
50歳～59歳	12	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	41.7	33.3	-	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-
60歳～69歳	29	20.7	10.3	-	10.3	-	37.9	6.9	6.9	10.3	-	51.7	3.4	6.9	3.4	-	6.9

年齢別でみると、20代以下は「在学中」、30代は「子育て中」、40代と50代は「健康上の理由」、60代は「高齢である」が最も高くなっています。

【問12】 女性が職業に就くことについて

男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高い

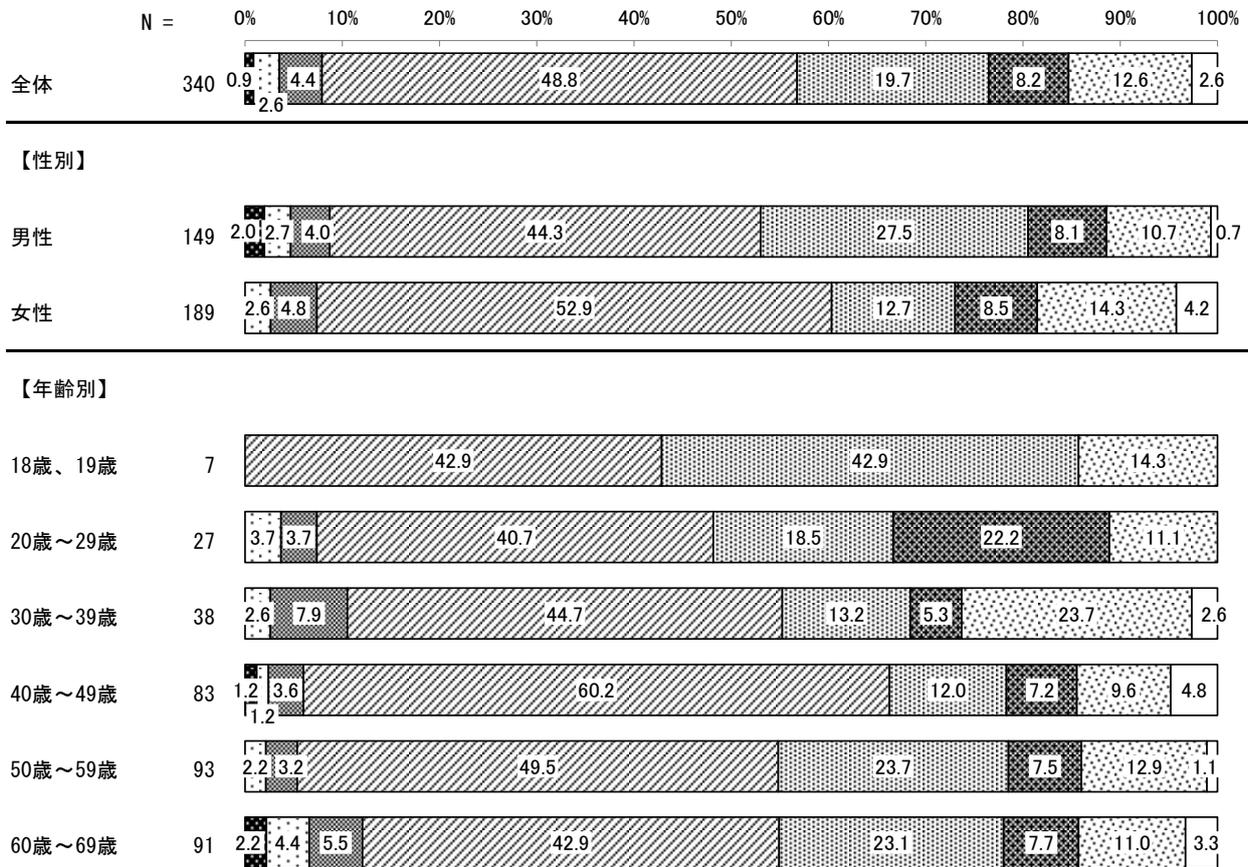
女性が職業に就くことについては、全体、性別ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高く、全体では48.8%、男性では44.3%、女性では52.9%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっていますが、特に40代では60.2%と高くなっています。

また、「女性は職業に就かない方がよい」が、全体では0.9%となっています。

問12 一般的に女性が職業に就くことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

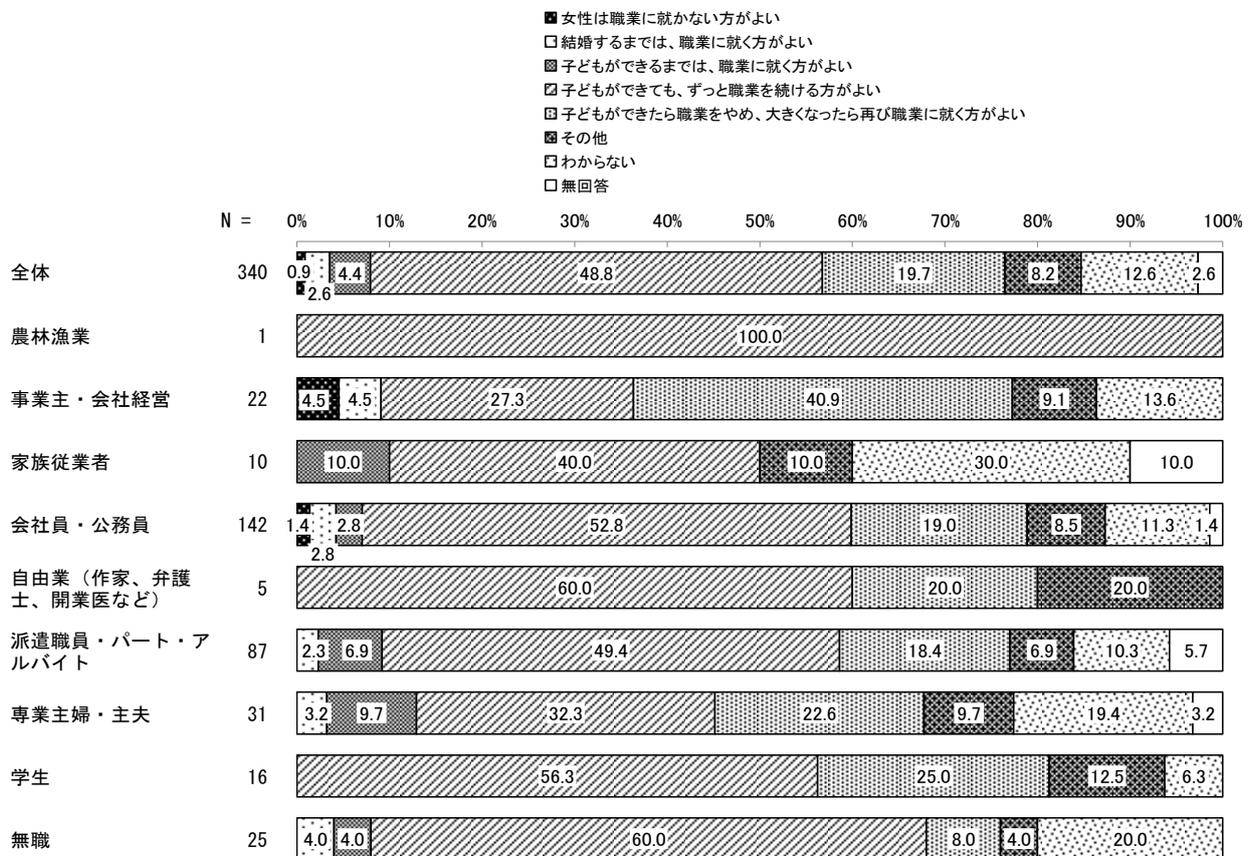
- 女性は職業に就かない方がよい
- 結婚するまでは、職業に就く方がよい
- ▨ 子どもができるまでは、職業に就く方がよい
- ▩ 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ▧ 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



その他の回答	
子どもが小さい時は妻もしくは夫が休業する方がよい。	
各家庭や各人の考え方でいいと思う。	
子どもができて産休・退職はその時の経済・家庭環境による。また子育てが落ち着いて働けそうになったら産休・育休を終了したり再就職する。	
職業に就くことが本人にとっていいと思った時にできるのがいいと思う。	
やめずに仕事量や時間を軽減して続けられるとよい。	
職業に就く事だけでなく家庭を築く大切さを考える事が大切だと思う。	
産休、育休を活用して、職業を続ける。	

【職業別】

職業別でみると、ほぼすべての職業において「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっています。



参考：全国調査、県調査、前回調査との比較（女性が職業に就くことについて）

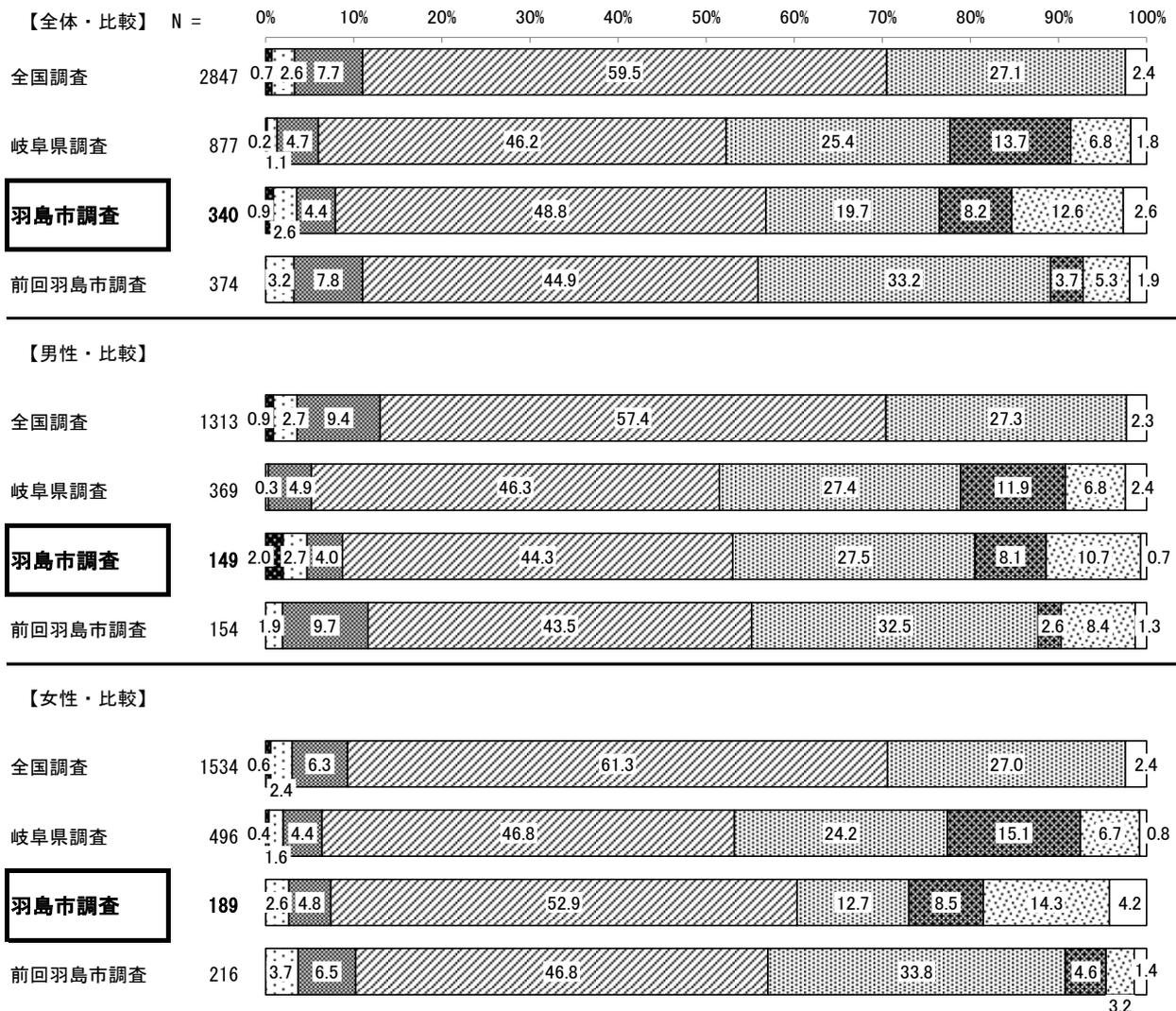
<全国調査・県調査との比較>

全体で見ると、全国調査・県調査ともに、市調査と同様に「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっています。全国では59.5%、県調査では46.2%、市調査では48.8%となっています。

<前回調査（市）との比較>

全体で見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が前回調査より3.9ポイント増加しています。

- 女性は職業に就かない方がよい
- 結婚するまでは、職業に就く方がよい
- 子どもができるまでは、職業に就く方がよい
- ▨ 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ▨ 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



※全国調査は「その他」「わからない」の選択肢無し

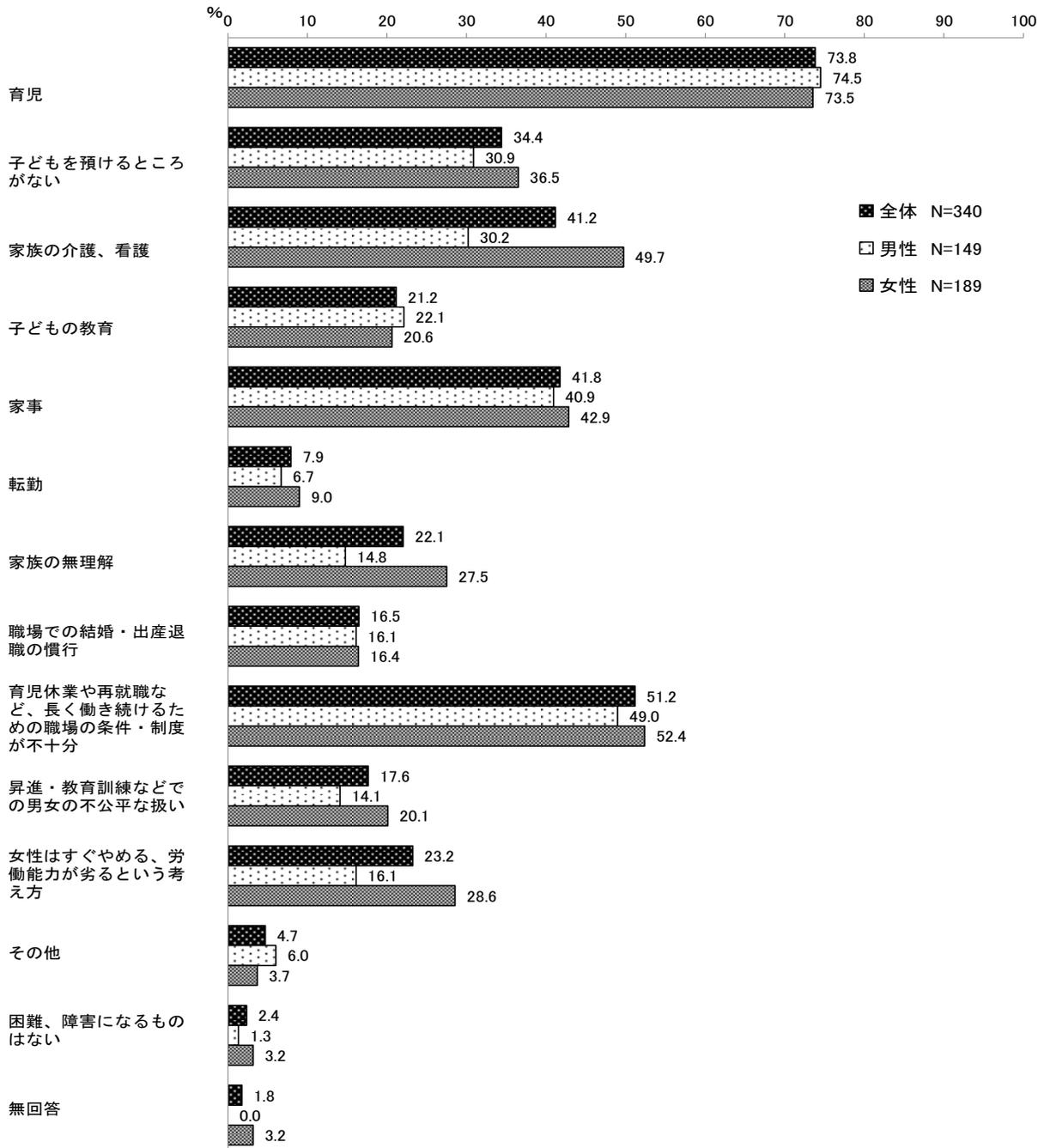
【問13】女性の就労を困難にしている理由

男女ともに「育児」が最も高い

女性の就労を困難にしている理由については、全体では「育児」が73.8%と最も高くなっています。次に、「育児休業や再就職先など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」が51.2%と高くなっています。

性別でも、男女ともに「育児」が最も高くなっています。

問13 女性が長く働き続けることを困難にしたり、障害になっている理由は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)



その他の回答

企業による差はあるが、選択できるようになってきている。

休業等に対する職場の理解が得られない。

女性の就職先が限られている。

体力がない。

女性自身の「結婚して仕事を離れたい」「非常勤でいい」という意識。

賃金が安い。

平日の男性の帰宅時間が遅い。

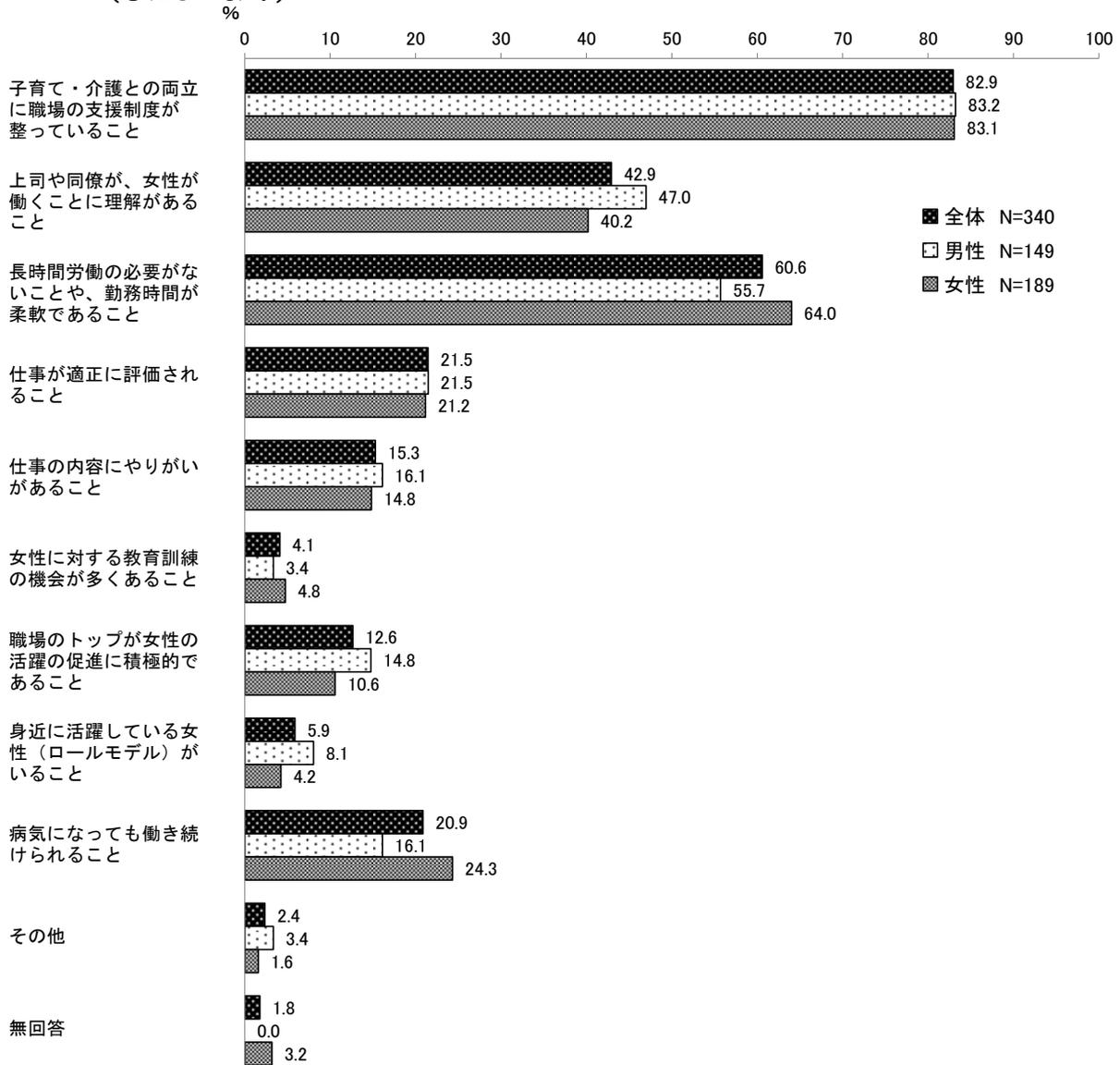
規則や制度が形だけのものになっている。

【問14】女性が活躍できる職場環境

男女ともに「子育て・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が最も高い

女性が活躍できる職場環境については、全体、性別ともに「子育て・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が最も高く、全体では82.9%、男性では83.2%、女性では83.1%となっています。次に「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」が高くなっています。

問14 女性が活躍できる職場環境にするために、必要なものは何だと思えますか。
(〇は3つまで)



その他の回答

会社への支援が必要。

家族の理解と協力、子育てと両立できる国の制度。

高賃金であること。

会社の中で不当な評価に対する女性の組合を作ってみてはどうだろうか。

【問15】 男性の家事・育児への参加

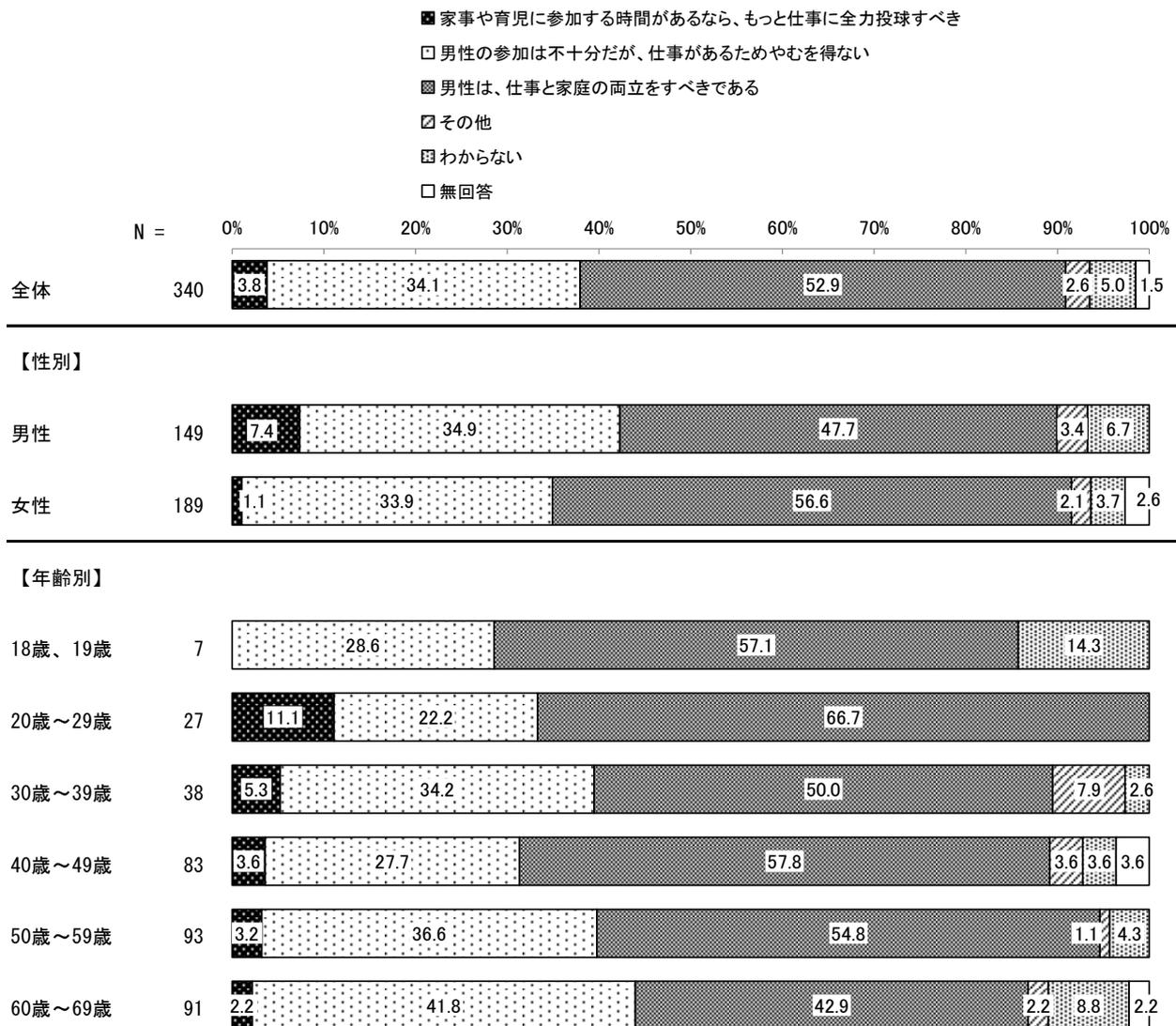
「男性は仕事と家庭の両立をすべきである」が最も高い

男性の家事・育児への参加については、「男性は仕事と家庭の両立をすべきである」が52.9%と最も高く、次に「男性の参加は不十分だが、仕事があるためやむを得ない」が34.1%となっています。

性別で見ると、「男性は仕事と家庭の両立をすべきである」が、男性では47.7%であるのに対し、女性では56.6%と男性より8.9ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「男性は仕事と家庭の両立をすべきである」が最も高くなっています。

問15 あなたは男性の家事・育児への参加についてどう思いますか。(〇は1つ)

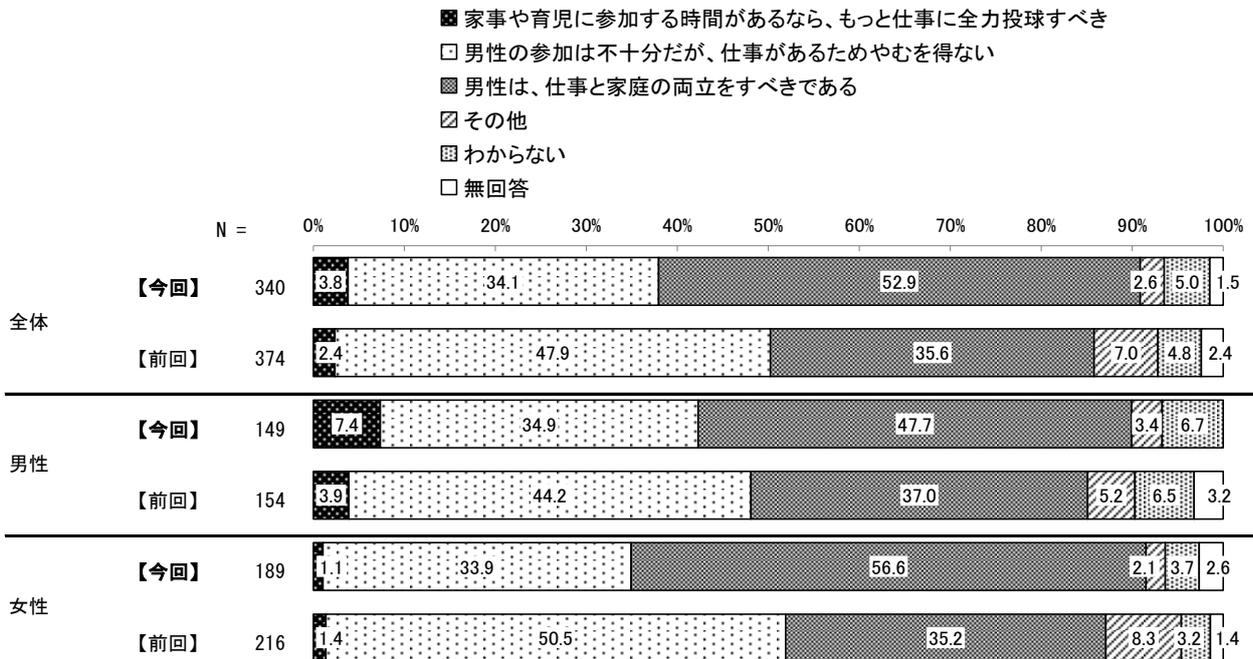


その他の回答	
男性や女性などと決めず、親が子育てを他人にまかせず、どちらかがまたは共に幼少の頃は多く関わることが必要。	
両立まではいなくても常に手助けは必要。	
互いの職種に合わせ互いが出来ることをやるだけ。	
出来る時は積極的にやってほしい。	
家族内でよく相談して決める。	
家庭状況を見て必要ならやればよい。必要なのは夫婦間で話し合い、お互い納得した上で役割分担をして、必要であればお互いにそれを超えて助け合うこと。	

参考：前回調査との比較（男性の家事・育児参加について）

＜前回調査との比較＞

前回調査においては、全体、性別ともに「男性の参加は不十分だが、仕事があるためやむを得ない」が最も高かったが、今回は「男性は仕事と家庭の両立をすべきである」が最も高くなっています。



【問16】 育児・介護休業取得に対する考え方

男性・女性の育児休業ともに「積極的に取得」が最も高い
 男性・女性の介護休業ともに「積極的に取得」が最も高い

男性の育児休業については「積極的に取得した方がよい」が47.9%と最も高く、女性の育児休業についても「積極的に取得した方がよい」が77.9%と最も高くなっています。

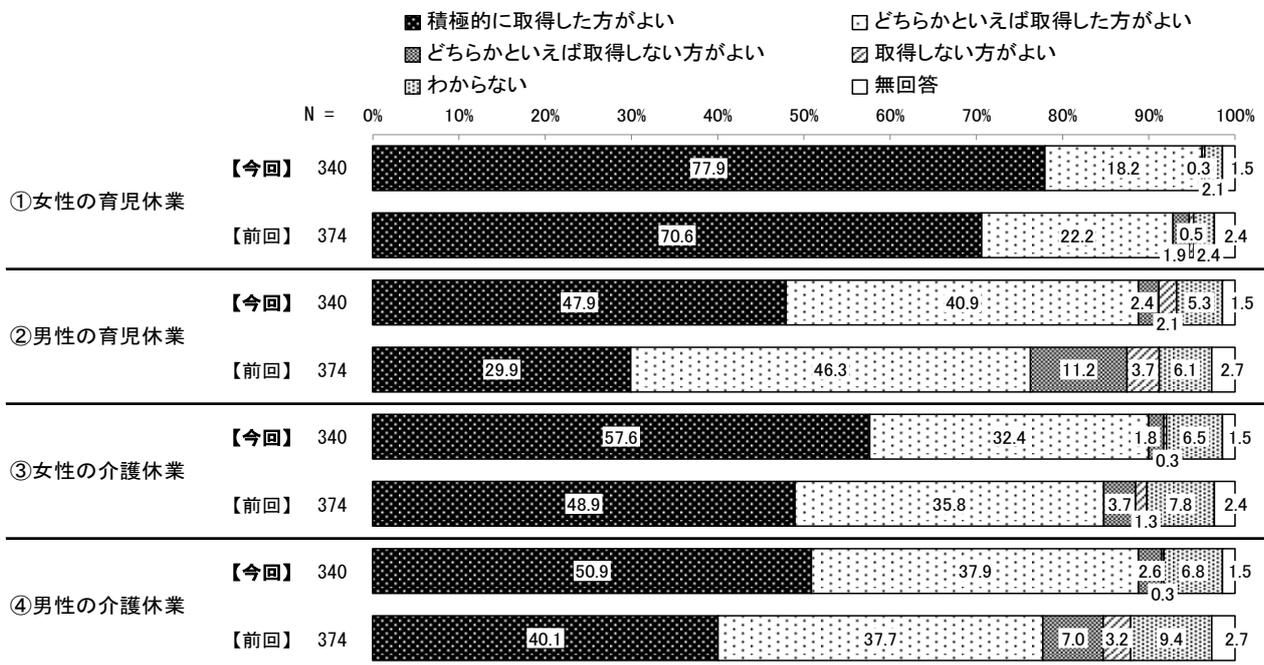
男性の介護休業については「積極的に取得した方がよい」が50.9%と最も高く、女性の介護休業についても「積極的に取得した方がよい」が57.6%と最も高くなっています。

＜前回調査との比較＞

いずれの分野も「積極的に取得した方がよい」が増加しています。

問16 あなたは育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

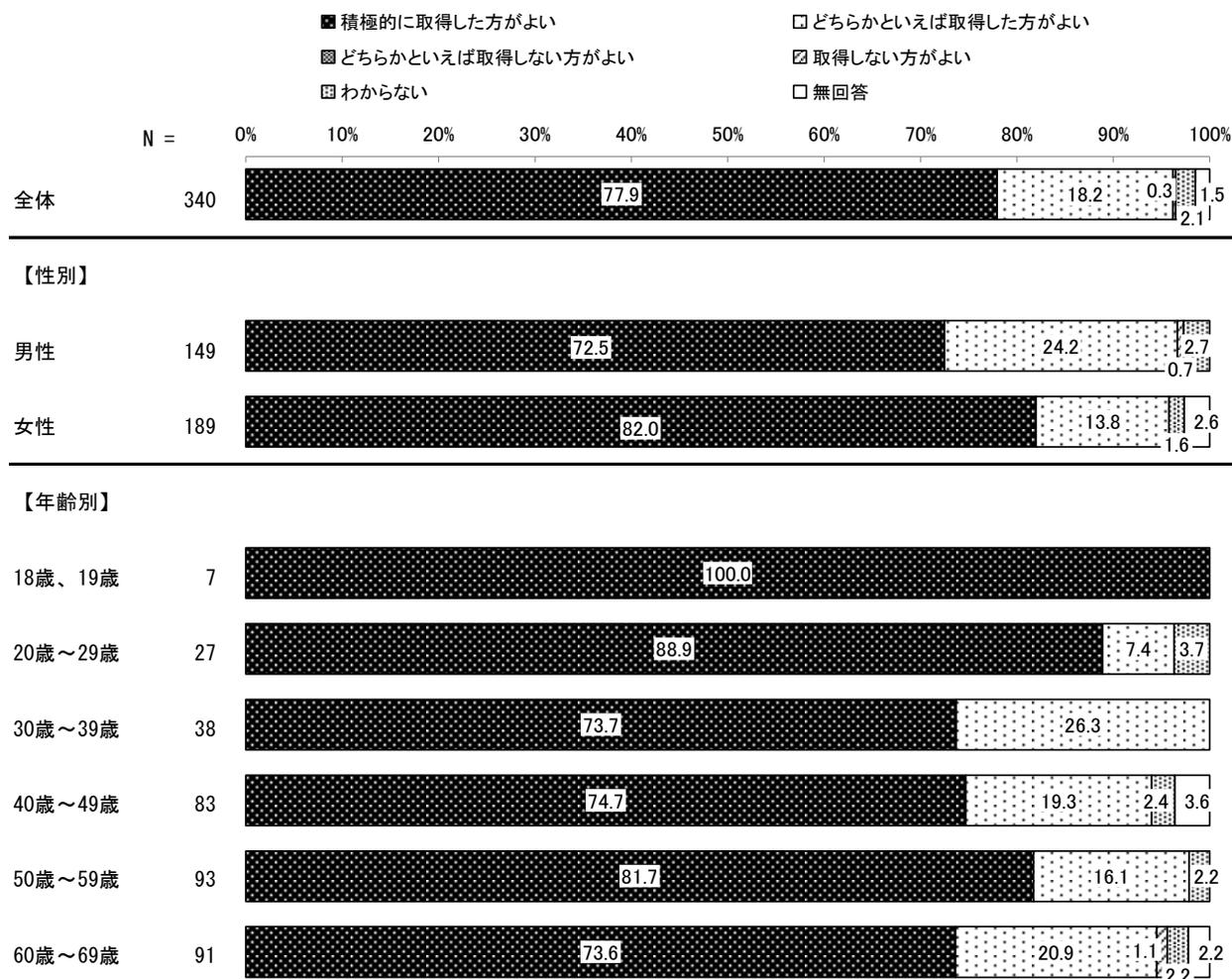
それぞれあてはまるものを選んでください。(①～④それぞれ〇は1つずつ)



①女性の育児休業

男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高い

女性の育児休業については、性別、年齢別ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高く、特に20代では88.9%と高くなっています。

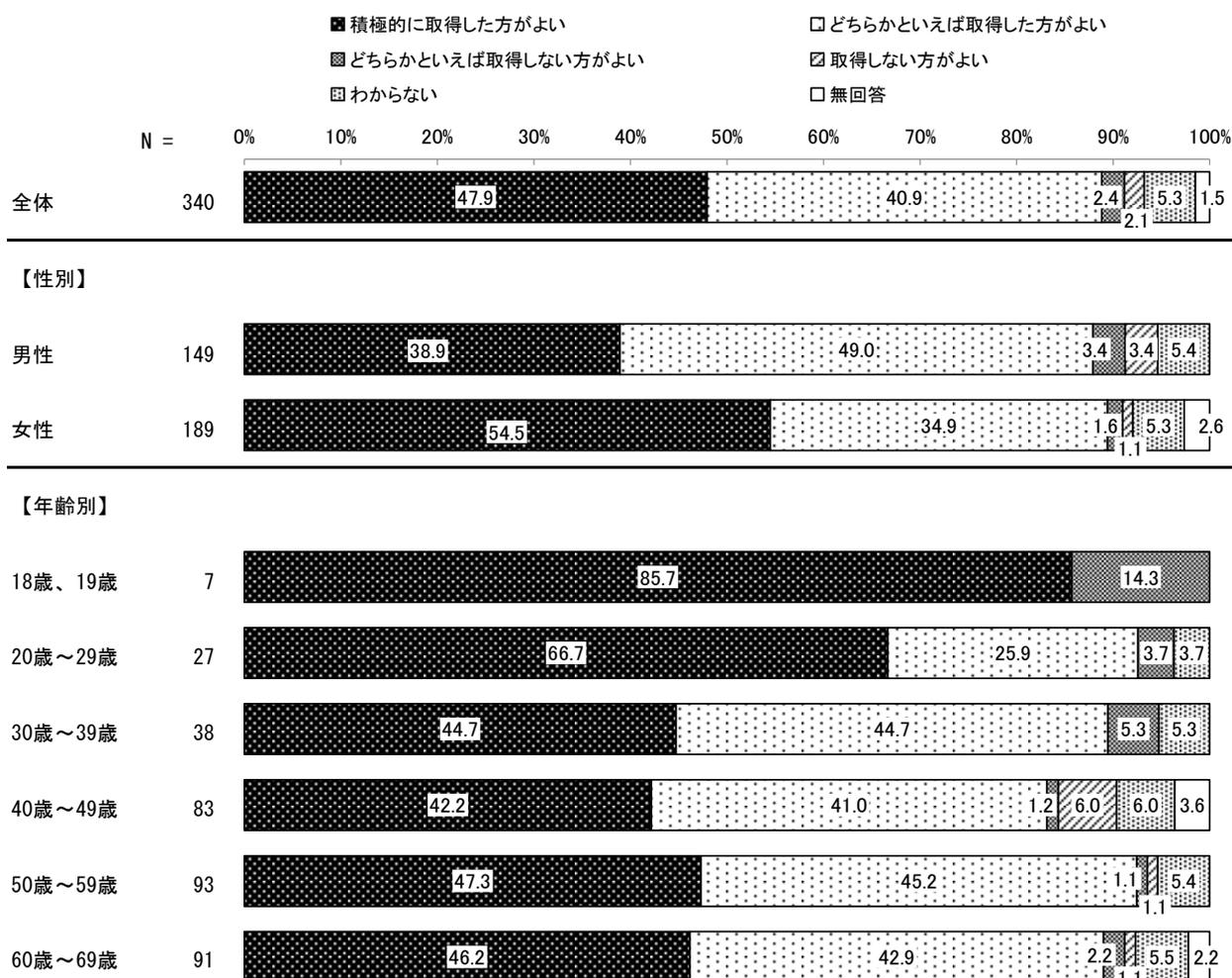


②男性の育児休業

男性は「どちらかといえば取得した方がよい」が最も高い
 女性は「積極的に取得した方がよい」が最も高い

男性の育児休業については、性別で見ると、男性では「どちらかといえば取得した方がよい」が49.0%、女性では「積極的に取得した方がよい」が54.5%と最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっており、特に20代では66.7%と高くなっています。

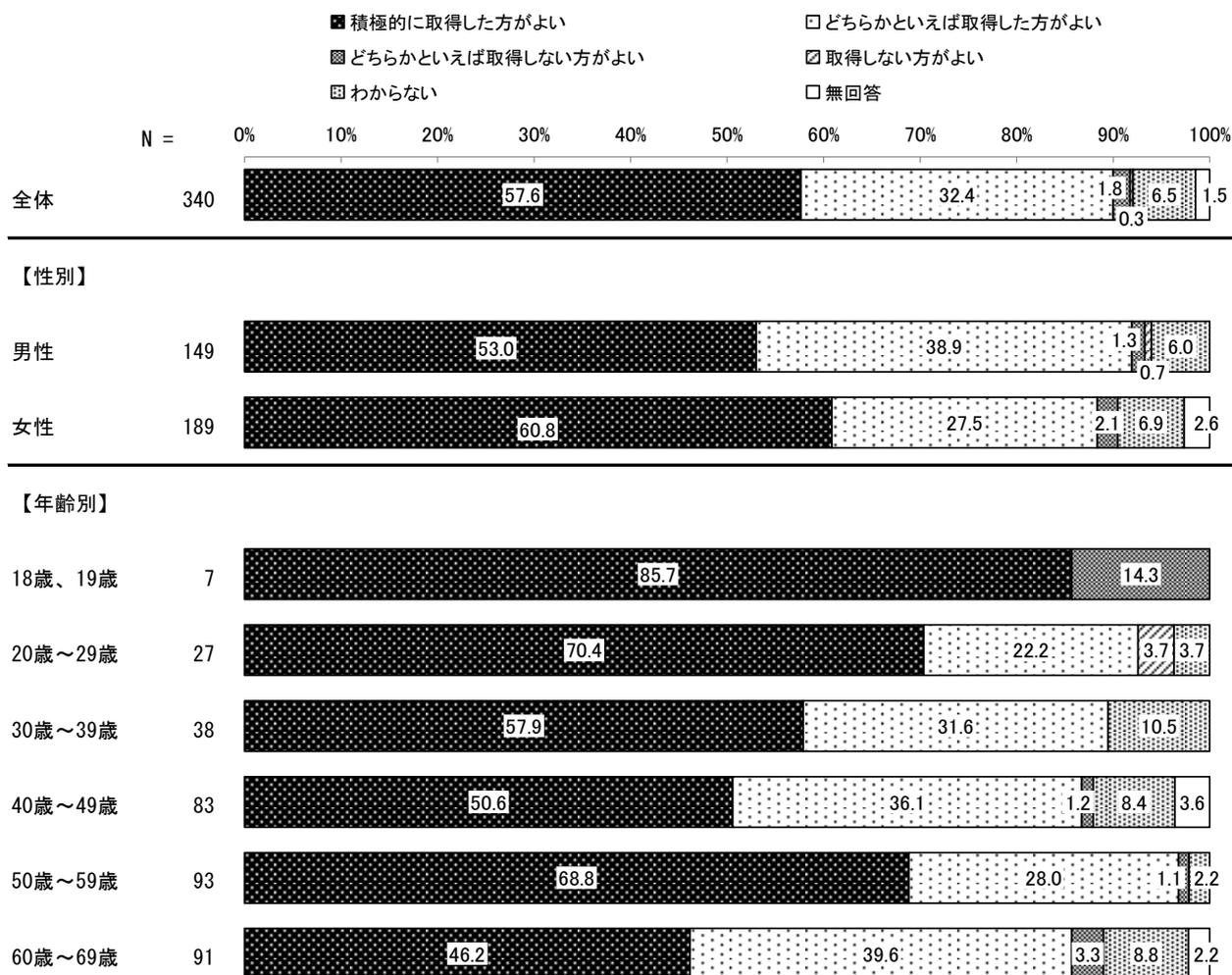


③女性の介護休業

男女ともに「積極的に取得した方がよい」が高い

女性の介護休業については、性別で見ると、男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年代も「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっており、特に20代では70.4%、50代では68.8%と高くなっています。

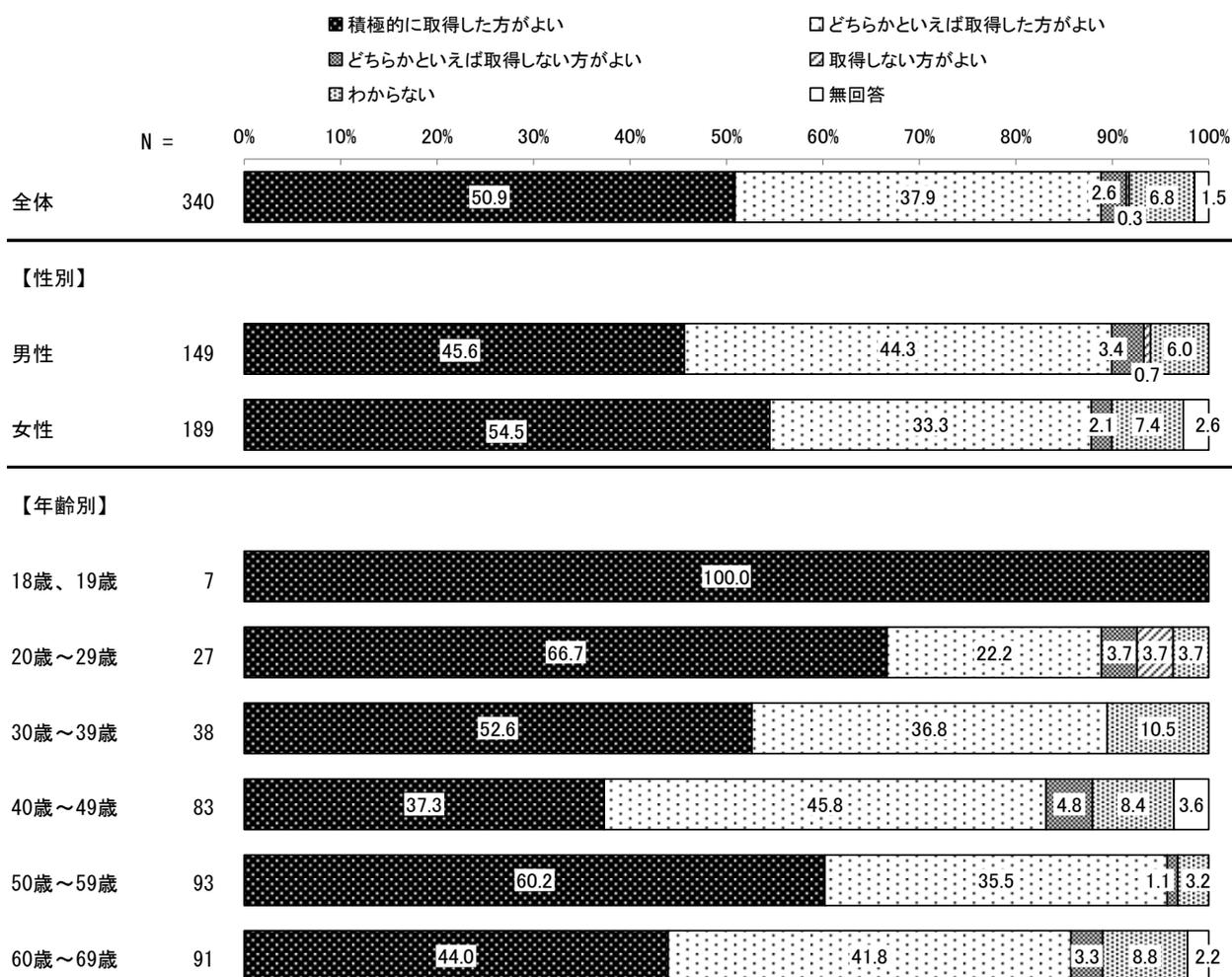


④男性の介護休業

男女とも「積極的に取得した方がよい」が高い

男性の介護休業については、性別で見ると、男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、「積極的に取得した方がよい」が20代と50代で最も高くなっていますが、40代では「どちらかといえば取得した方がよい」が最も高くなっています。

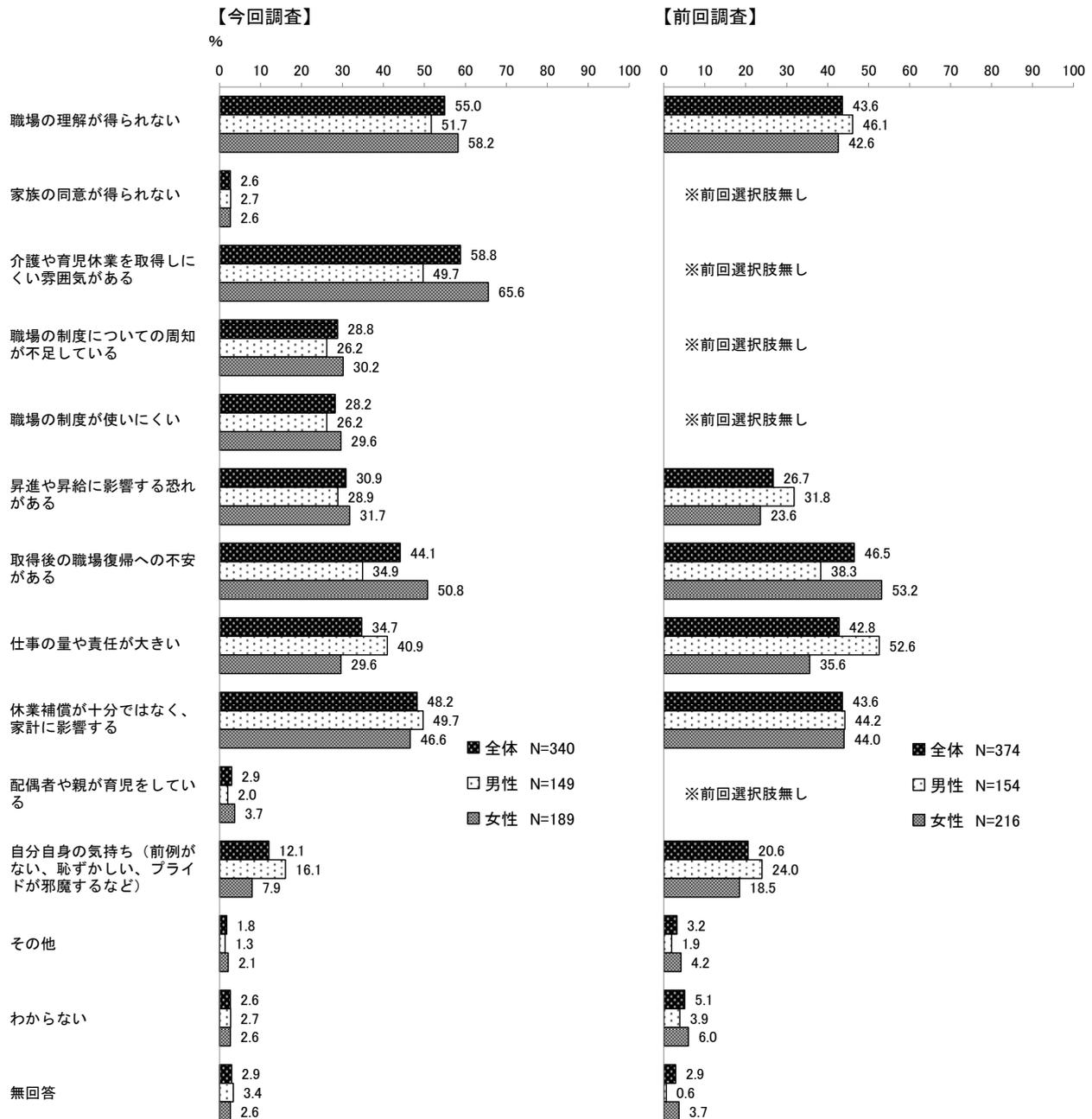


【問17】 育児・介護休業を取得しにくい理由

全体では「介護や育児休業を取得しにくい雰囲気がある」が最も高い

育児・介護休業を取得しにくい理由については、性別で見ると、男性では「職場の理解が得られない」が51.7%と最も高く、女性では「介護や育児休業を取得しにくい雰囲気がある」が65.6%で最も高くなっています。

問17 介護や育児で休業を取得しにくい理由は何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



その他の回答

介護・育児休暇は周りには取得している。最近、男性も2か月取得した。

制度があっても同僚達から不満の声がでるから。

個人経営者（従業員無しの場合）は休むと収入が無くなる。

【問18】男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

**全体では「労働時間短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで
仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が最も高い**

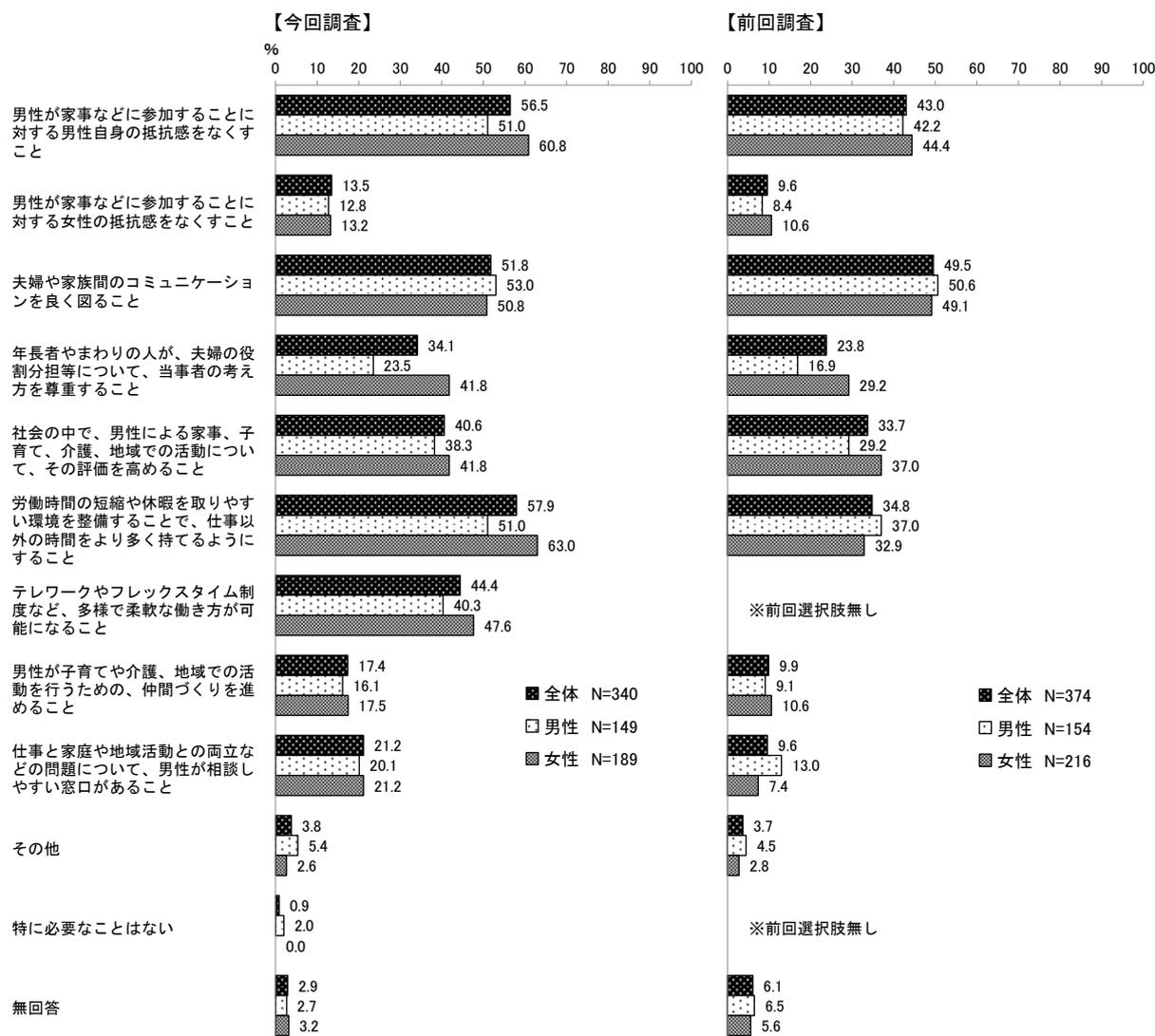
男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、全体で見ると「労働時間短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が57.9%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図ること」が53.0%と最も高く、女性では「労働時間短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が63.0%と最も高くなっています。

<前回調査との比較>

前回調査においては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図ること」が最も高くなっていましたが、今回は「労働時間短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が最も高くなっています。

問18 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



その他の回答

これらの事を行うことの必要条件として労働生産性の大幅な向上が必要。

本人のやる気次第。

子どもの頃から料理、洗濯、掃除などを行う習慣をつけ、できるようにしておくこと。

料理の楽しさを知ること。

男性側への家事育児の教育を義務にするべきである。

男性が家事、子育て、介護、地域での活動に必要な知識や技術を身につけること。

経済的な余裕がない状態では何をしても効果に結びつかないと思う。

個人が変わることも重要であるが、変わるための制度や環境が充実していないと個人では限界がある。

【問19】男女がともに「仕事と家庭の両立」をするために必要なこと

男性は「保育施設等の子どもを預けられる環境の整備」が最も高い

女性は「職場における子育てや介護との両立支援制度の充実」が最も高い

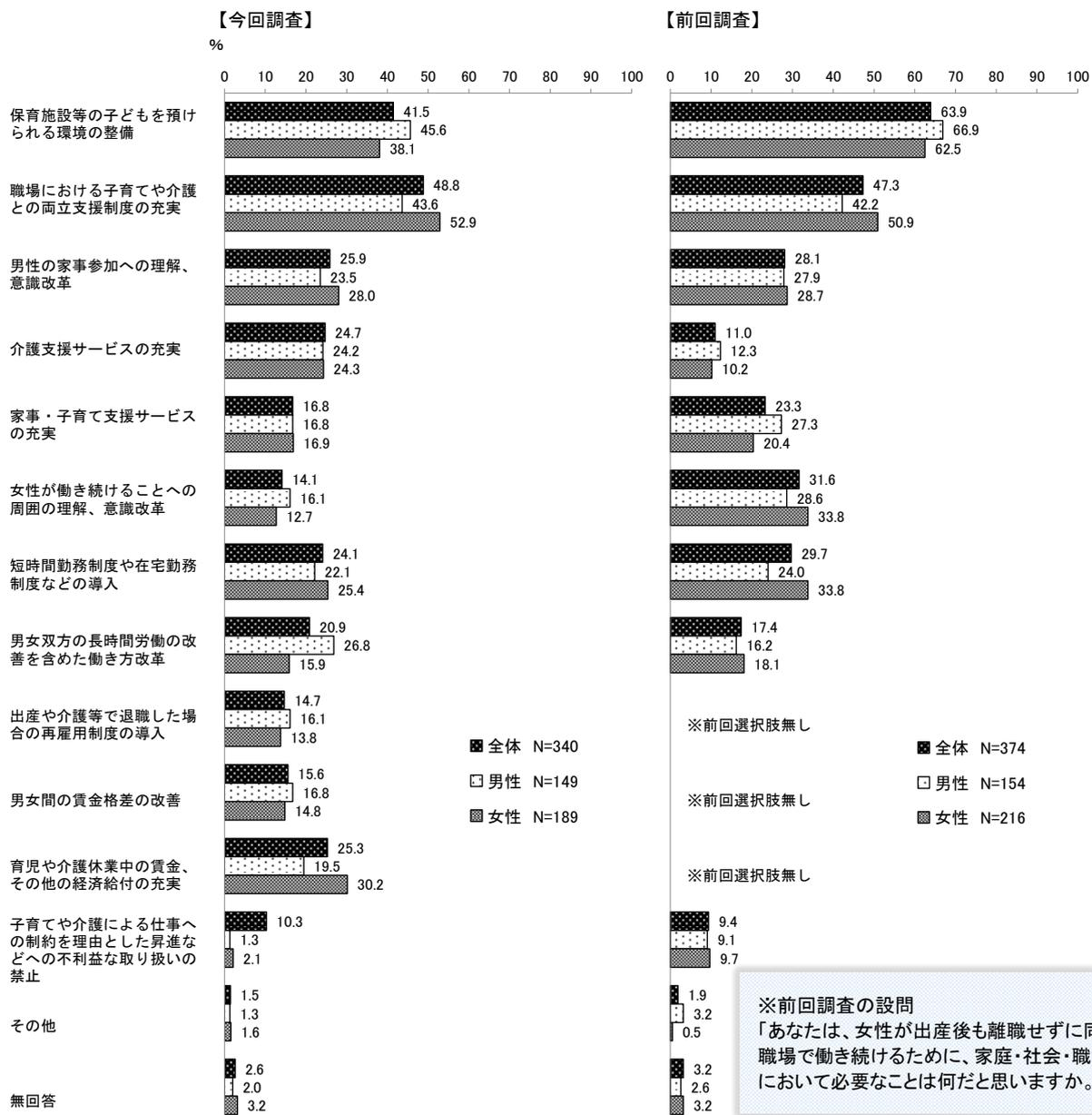
女性が離職せずに働き続けるために必要なことについては、全体では「職場における子育てや介護との両立支援制度の充実」が48.8%と最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「保育施設等の子どもを預けられる環境の整備」が45.6%、女性では「職場における子育てや介護との両立支援制度の充実」が52.9%と最も高くなっています。

＜前回調査との比較＞

前回調査においては、「保育施設等の子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっていましたが、今回は「職場における子育てや介護との両立支援制度の充実」が最も高くなっています。

問19 それぞれの家庭において、男女がともに「仕事と家庭の両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



その他の回答

育児休業等の期間中の代替人員の補充ができるか。

夫婦がどちらも働くことができるように朝から夜まで子どもを預かって育ててくれる専門の機関を政府側が作るべきである。民営の保育園などでは時間のルールなどの都合で夫婦どちらかに仕事を辞めるなどの我慢を強いられる現状がある。そのため、公的な機関で子育てのための施設を作り、子育ての大変な時期を乗り越えつつ働くことが出来れば現状ももっと改善されると私は思う。また、その施設に働く人には十全な給料を発生させれば働き手も増えると思う。

賃金の底上げ。